

平成25年度

# ステージラボ アートミュージアムラボ

～公共ホール等企画運営ワークショップ～

事業報告書

一般財団法人 地域創造



## 目 次

I	事業概要	
1	実施にあたって	1
2	あらまし	1
3	開催実績	3
4	都道府県別参加状況	6
II	平成25年度事業	
1	事業概要	7
2	参加者の属性	9
3	コーディネーター・講師一覧	13
4	スタッフ一覧	16
5	実施日程（参加者募集～研修実施の流れ）	18
III	ステージラボ 静岡セッション	
1	研修スケジュール	19
2	各コースについて	
	(1)ホール入門コース	23
	(2)自主事業Ⅰ（公共ホールの役割としての地域文化・伝統芸能）コース	31
	(3)自主事業Ⅱ（公共ホールの役割としての子どもプログラム）コース	40
3	共通プログラム	45
IV	ステージラボ 公立ホール・劇場 マネージャーコース	
○	研修スケジュール	47
○	公立ホール・劇場 マネージャーコース	48
V	アートミュージアムラボ 宮城セッション	
○	研修スケジュール	57
○	アートミュージアムラボ	58
VI	ステージラボ 長崎セッション	
1	研修スケジュール	67
2	各コースについて	
	(1)ホール入門コース	71
	(2)自主事業Ⅰ（音楽）コース	78
	(3)自主事業Ⅱ（演劇）コース	83
3	共通プログラム	88
VII	参加者リスト	
○	ステージラボ 静岡セッション	91
○	ステージラボ 公立ホール・劇場 マネージャーコース	101
○	アートミュージアムラボ 宮城セッション	107
○	ステージラボ 長崎セッション	109



# I 事業概要



## 1 実施にあたって

劇場・ホールの運営については、ハードウェア（施設）、ソフトウェア（活動）、ヒューマンウェア（人材、組織、職能）の3要素が一体不可分なものとして、相互にバランスよく結びついたものとして存在しなければなりません。

一般財団法人地域創造では、地域の公共ホール・劇場、美術館や地方公共団体で文化・芸術に携わる職員の方々を対象とする研修交流事業（※）、ステージラボ・アートミュージアムラボ（公共ホール等企画運営ワークショップ）を実施し、ソフトウェアを支えるヒューマンウェアの確立という課題面から、地域における創造的な芸術環境づくりをサポートしています。

※ 地域創造で実施する研修・交流事業（終了した事業を含む）

ステージラボ・アートミュージアムラボ（公共ホール等企画運営ワークショップ）、ステージラフト（舞台技術ワークショップ）、芸術見本市、文化政策セミナー、ステージラボ・マスターコース

平成 25 年度は、静岡セッション、長崎セッションを開催するとともに、東京・赤坂で「公立ホール・劇場 マネージャーコース」を「文化政策幹部セミナー」と同時開催しました。また宮城県仙台市で「アートミュージアムラボ」を開催しました。全国各地から 141 名の方々に参加いただき、研修を通してソフトウェアに関する諸課題の検討を進めてきました。

ヒューマンウェアをめぐる課題は、地域やホール毎に様々な形で存在しています。このため、効果的な方法論を短時間に見いだすことはなかなか困難なことではありますが、地域創造ではステージラボ、アートミュージアムラボという研修手法を通じて、今後とも全国各地の公共ホール、劇場、美術館、地方公共団体関係者の方々と、この課題の検討を進めて行きたいと考えております。

## 2 あらまし

### （1）事業目的

- ① 公共ホール・劇場、美術館や地方公共団体などの芸術環境づくりに取り組む役職員を対象とした実践的研修とネットワークの形成の場の提供
- ② 研修の実践を踏まえた人材育成プログラムのあり方の探求

### （2）事業内容

#### ① 運営方針

ステージラボ、アートミュージアムラボは、地域における文化・芸術の創造拠点（アーツセンター）となる公共ホール、劇場、美術館の企画・制作や事業運営に関わる役職員を対象に、職務内容、階層に応じた実践的研修プログラムにより実施しています。

研修内容の主目的は、地域社会と文化・芸術をどうつなぐかというアートマネジメント論に立った施設運営の探求と、施設間の連携（ネットワークづくり）による効果的な芸術支援（育成）の環境を整えることにあります。

## ② 研修内容

公共ホール、劇場、美術館及び地方公共団体の文化・芸術に携わる職員を対象として、4日間程度の密度の濃い集中研修とし、双方向のコミュニケーションが可能な少人数のゼミ形式で実施。

原則として、参加者の業務内容、経験度等に合わせたコース設定（1セッション3コース程度）とし、ワークショップ、グループディスカッション、レクチャーコンサート、シンポジウムなどを取り入れたプログラムで構成。

## ③ 開催回数及び実施時期

ステージラボ：原則年度2回 年度の前半及び後半に各1回ずつ

アートミュージアムラボ：原則年度1回

## ④ 会場

全国各地の公共ホールや劇場、美術館などにおいて実施

## (3) 研修実施方法

ステージラボ、アートミュージアムラボの実施方法は以下のとおりです。

### ① 集中ゼミの実施

3～4日間の日程に密度の濃いカリキュラムで実施。

### ② 研修参加者の経験度にあわせたコース設定・プログラム構成

研修効果を高めるため、担当業務の内容、経験年数ならびに職務階層別のカリキュラム体系を編成。また、参加者の問題意識や参加ニーズは、参加応募時にアンケートを提出いただき、参加者の抱える課題に応じたゼミ内容に努めている。

### ③ 参加者の能動的参加を促し、双方向のコミュニケーションを導き出す

一方的な講義とならないよう、少人数形式を採用。事前課題、グループディスカッション等を用い、参加者自らの積極的な参加意識を高める。

### ④ 実体験に触れるプログラムの提供

ワークショップ、レクチャーコンサート等を通して、実演芸術のあり方を肌で感じる機会を設けている。

### ⑤ 事業体験プログラム

アートミュージアムラボでは、美術館を拠点とした地域交流プログラムや、先進的な展覧会事業など、参加者が自館での事業企画の参考とするためのケーススタディとなる「事業体験プログラム」を設けている。

### ⑥ 具体的な事業、運営への活用

業務遂行のための単なるノウハウ伝授の場とならぬよう、研修で得られた内容を日常業務のさまざまな場面でのヒントにしていただき、情報交流事業による情報交換、相談の場の提供などのアフターフォロー体制を敷いている。



### 3 開催実績

#### 【ステージラボ・アートミュージアムラボ開催実績】

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース	
平成6年度	埼玉セッション	平成 6年 11月 30日 ～ 12月 2日	彩の国さいたま 芸術劇場 (埼玉県与野市：現さいたま市)	65名	基礎コース 音楽コース 演劇ダンスコース	23名 23名 19名
	宮崎セッション	平成 7年 2月 28日 ～ 3月 3日	宮崎県立芸術劇場 (宮崎県宮崎市)	56名	基礎コース 音楽コース 演劇コース	18名 19名 19名
平成7年度	水戸セッション	平成 7年 6月 6日 ～ 6月 10日	水戸芸術館 (茨城県水戸市)	52名	ステージ業務入門コース ステージ創造環境コース ステージ鑑賞共感コース	21名 12名 19名
	広島セッション	平成 8年 2月 27日 ～ 3月 1日	アステールプラザ (広島県広島市)	76名	基礎コース 音楽コース 演劇コース	23名 33名 20名
平成8年度	盛岡セッション	平成 8年 7月 2日 ～ 7月 5日	盛岡劇場 (岩手県盛岡市)	59名	ホール事業入門コース 音楽事業コース 演劇事業コース	21名 18名 20名
	福岡セッション	平成 8年 11月 19日 ～ 11月 22日	アクロス福岡 (福岡県福岡市)	60名	基礎準備コース ホール運営Ⅰコース ホール運営Ⅱコース	17名 22名 21名
平成9年度	松山セッション	平成 9年 8月 5日 ～ 8月 8日	松山市総合 コミュニティセンター (愛媛県松山市)	69名	ホールマネージャーコース ホール運営入門コース 自主事業(音楽)コース 自主事業(演劇・ダンス)コース	19名 20名 15名 15名
	世田谷セッション	平成 10年 2月 17日 ～ 2月 20日	世田谷 パブリックシアター (東京都世田谷区)	78名	ホール計画コース ホール入門コース 演劇コース 音楽コース	17名 26名 16名 19名
平成10年度	札幌セッション	平成 10年 6月 23日 ～ 6月 26日	札幌芸術の森 (北海道札幌市)	69名	ホールマネージャーコース ホール入門コース 演劇コース 音楽コース	14名 20名 15名 20名
	神戸セッション	平成 11年 2月 2日 ～ 2月 5日	神戸アートビレッジ センター (兵庫県神戸市)	69名	ホール計画コース ホール入門コース 演劇・ダンスコース 音楽コース	15名 24名 11名 19名
平成11年度	静岡セッション	平成 11年 6月 29日 ～ 7月 2日	静岡県コンベンション アーツセンター (静岡県静岡市)	66名	ホール入門コース ホール運営Ⅰコース ホール運営Ⅱコース	25名 20名 21名
	高知セッション	平成 12年 2月 15日 ～ 2月 18日	高知県立美術館 (高知県高知市)	70名	ホールマネージャーコース ホール入門コース 自主事業コース 美術コース	14名 20名 21名 15名
平成12年度	金沢セッション	平成 12年 7月 4日 ～ 7月 7日	金沢市民芸術村 (石川県金沢市)	81名	ホール入門コース 演劇コース 音楽コース 美術コース	26名 19名 20名 16名
	熊本セッション	平成 13年 2月 20日 ～ 2月 23日	熊本県立劇場 (熊本県熊本市)	66名	ホール入門コース 運営基礎コース 演劇コース 音楽コース	19名 20名 12名 15名

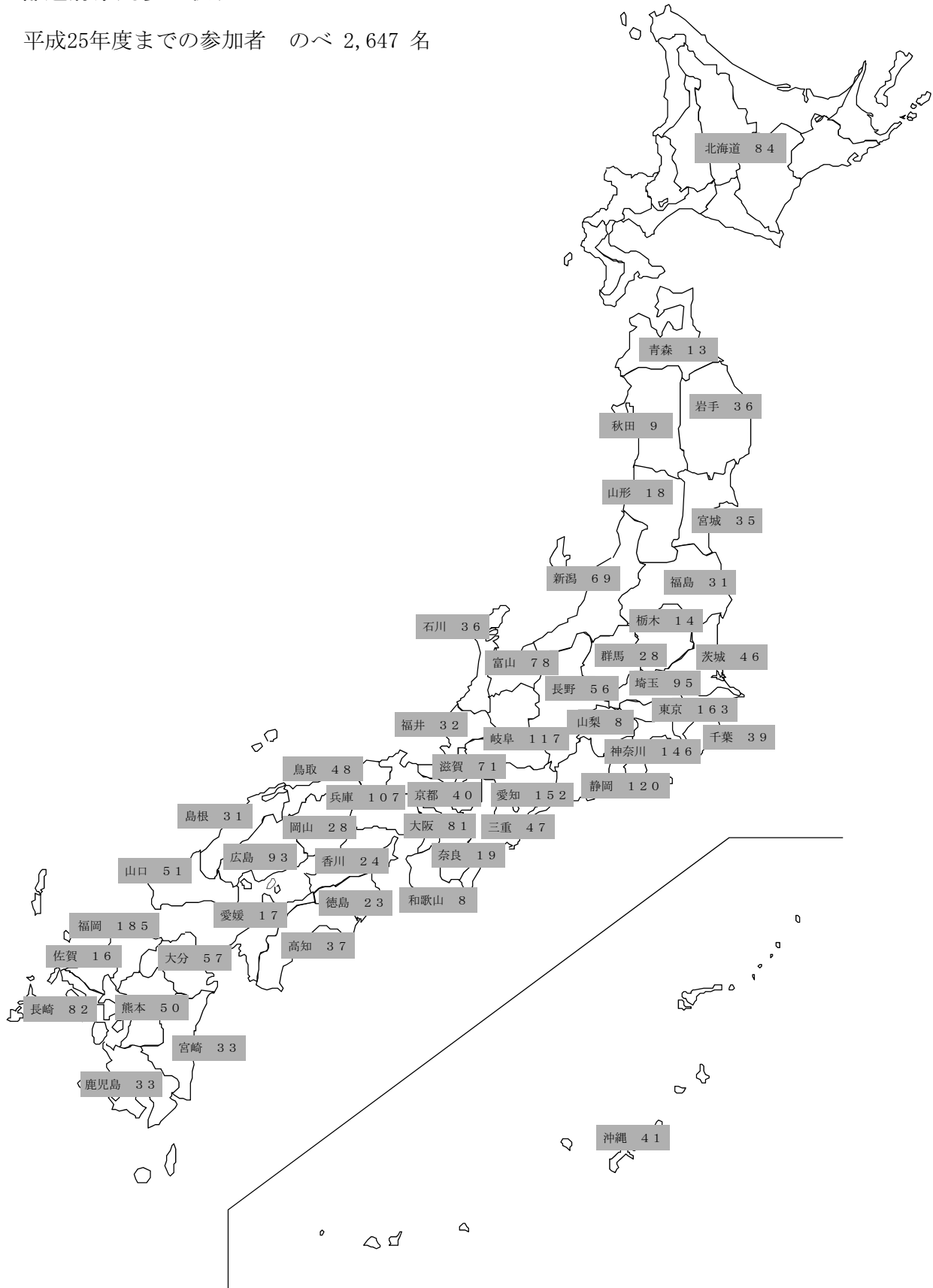
年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成13年度	仙台セッション	平成13年 7月 3日 ～ 7月 6日	仙台市青年文化センター (宮城県仙台市)	65名	ホール入門コース 23名 演劇コース 13名 音楽コース 18名 美術コース 11名
	佐世保セッション	平成14年 2月 5日 ～ 2月 8日	アルカスSASEBO (長崎県佐世保市)	60名	ホールマネージャーコース 17名 ホール入門コース 22名 演劇コース 9名 音楽コース 12名
平成14年度	岐阜セッション	平成14年 6月 25日 ～ 6月 28日	岐阜市文化センター (岐阜県岐阜市)	87名	ホール入門コース 24名 自主事業入門コース 21名 自主事業企画・制作コース 21名 ホール管理・運営コース 21名
	大分セッション	平成15年 2月 18日 ～ 2月 21日	大分県立総合文化センター (大分県大分市)	71名	ホール入門コース 23名 自主事業入門コース 20名 自主事業企画・制作コース 16名 アートミュージアムラボ 12名
平成15年度	横浜セッション	平成15年 7月 1日 ～ 7月 4日	横浜赤レンガ倉庫1号館 (神奈川県横浜市)	88名	ホール入門コース 25名 自主事業入門コース 23名 自主事業企画・制作コース 21名 アートミュージアムラボ 19名
	沖縄・佐敷セッション	平成16年 2月 3日 ～ 2月 6日	佐敷町文化センター・シュガーホール (沖縄県佐敷町)	50名	ホール入門コース 21名 自主事業コース 17名 文化政策・企画コース 12名
平成16年度	新潟セッション	平成16年 6月 22日 ～ 6月 25日	りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館 (新潟県新潟市)	81名	ホール入門コース 24名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 18名 文化政策企画・文化施設運営コース 19名
	京都セッション	平成17年 2月 1日 ～ 2月 4日	京都芸術センター (京都府京都市)	69名	ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(演劇)コース 13名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 17名 アートミュージアムラボ 16名
平成17年度	松本セッション	平成17年 7月 5日 ～ 7月 8日	まつもと市民芸術館 (長野県松本市)	77名	ホール入門コース 25名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 14名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 18名 文化政策企画・文化施設運営コース 20名
	三重セッション	平成18年 2月 21日 ～ 2月 24日	三重県総合文化センター (三重県津市)	51名	ホール入門コース 15名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 19名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 12名 アートミュージアムラボ 5名
平成18年度	長久手セッション	平成18年 7月 11日 ～ 7月 14日	長久手町文化の家 (愛知県長久手町)	65名	ホール入門コース 20名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 16名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 10名 文化政策企画・文化施設運営コース 19名
	高松セッション	平成19年 2月 20日 ～ 2月 23日	サンポートホール高松 (香川県高松市)	64名	ホール入門コース 19名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 16名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 15名 アートミュージアムラボ 14名
平成19年度	鳥取セッション	平成19年 7月 10日 ～ 7月 13日	鳥取県立県民文化会館 (鳥取県鳥取市)	62名	ホール入門コース 21名 自主事業コース 22名 文化政策企画・文化施設運営コース 19名
	東京セッション	平成20年 2月 5日 ～ 2月 8日	東京芸術劇場 (東京都豊島区)	65名	ホール入門コース 24名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 10名 アートミュージアムラボ 11名

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成20年度	青森セッション	平成20年 7月15日 ～ 7月18日	青森市文化会館、 青森県立美術館 (青森県青森市)	57名	ホール入門コース 20名 自主事業コース 16名 文化政策企画・文化施設運営コース 11名 アートミュージアムラボ 10名
	徳島セッション	平成21年 2月 3日 ～ 2月 6日	徳島県郷土文化会館 (徳島県徳島市)	49名	ホール入門コース 21名 自主事業コース 16名 文化政策企画・文化施設運営コース 12名
平成21年度	富山・高岡セッション	平成21年 7月 7日 ～ 7月10日	富山県高岡文化ホール (富山県富山市)	57名	ホール入門コース 23名 自主事業コース 21名 アートミュージアムラボ 13名
	(東京・赤坂開催)	平成21年 9月 3日～5日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名
	鹿児島セッション	平成22年 2月 2日 ～ 2月 5日	鹿児島県文化センター (鹿児島県鹿児島市)	55名	ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 18名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 14名
平成22年度	群馬セッション	平成22年 7月15日 ～ 7月18日	群馬県民会館 (群馬県前橋市)	56名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成22年10月13日～15日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名
	奈良セッション	平成23年 2月 1日 ～ 2月 4日	なら100年会館 (奈良県奈良市)	63名	ホール入門コース 24名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 19名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 20名
	アートミュージアムラボ 高知セッション	平成23年 3月 9日～11日	高知県立美術館(高知県高知市)	17名	アートミュージアムラボ 17名
平成23年度	(東京・赤坂開催)	平成23年10月12日～14日	地域創造会議室	18名	公立ホール・劇場マネージャーコース 18名
	アートミュージアムラボ 埼玉セッション	平成23年12月7日～9日	埼玉県近代美術館(埼玉県さいたま市)	16名	アートミュージアムラボ 16名
	栃木セッション	平成24年 2月21日 ～ 2月24日	栃木県総合文化センター (栃木県宇都宮市)	53名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 12名
平成24年度	埼玉セッション	平成24年 7月10日 ～ 7月13日	彩の国さいたま芸術劇場 (埼玉県さいたま市)	54名	ホール入門コース 25名 自主事業Ⅰ(演劇)コース 14名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成24年10月31日～11月2日	地域創造会議室	15名	公立ホール・劇場マネージャーコース 15名
	兵庫セッション	平成25年 1月29日 ～ 2月 1日	兵庫県立芸術文化センター (兵庫県西宮市)	62名	ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(地域交流プログラム)コース 19名 自主事業Ⅱ(音楽企画政策)コース 20名
	アートミュージアムラボ 静岡セッション	平成25年 3月 6日～8日	静岡県立美術館(静岡県静岡市)	11名	アートミュージアムラボ 11名
平成25年度	静岡セッション	平成25年 6月25日 ～ 6月28日	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ (静岡県静岡市)	60名	ホール入門コース 22名 自主事業Ⅰ(地域文化・伝統芸能)コース 18名 自主事業Ⅱ(子どもプログラム)コース 20名
	(東京・赤坂開催)	平成25年9月4日～6日	地域創造会議室	25名	公立ホール・劇場マネージャーコース 25名
	アートミュージアムラボ 宮城セッション	平成25年 12月 4日～6日	宮城県美術館(宮城県仙台市)	8名	アートミュージアムラボ 8名
	長崎セッション	平成26年 2月18日 ～ 2月21日	長崎ブリックホール (長崎県長崎市)	48名	ホール入門コース 18名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 13名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 17名

2,647名(長崎セッション終了時点での修了者)

## 4 都道府県別参加状況

平成25年度までの参加者 のべ 2,647 名



## Ⅱ 平成25年度事業



## 1 事業概要

### (1) ステージラボ 静岡セッション

開催期日	平成 25 年 6 月 25 日（火）～28 日（金）
開催会場	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ （静岡県静岡市駿河区池田 79-4）
開催体制	主催：財団法人地域創造 共催：静岡県、公益財団法人静岡県文化財団
対象者	「ホール入門コース」 公共ホール・劇場（開館準備のための組織を含む）において、業務経験年数 1 年半未満（開館準備のための組織にあつては年数不問）の職員。  「自主事業Ⅰ（公共ホールの役割としての地域文化・伝統芸能）コース」 自主事業を実施している公共ホール・劇場で、地域文化・伝統芸能に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が 2～3 年程度の職員。  「自主事業Ⅱ（公共ホールの役割としての子どもプログラム）コース」 自主事業を実施している公共ホール・劇場で、子どもプログラムの自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が 2～3 年程度の職員。

### (2) ステージラボ 公立ホール・劇場 マネージャーコース

開催期日	平成 25 年 9 月 4 日（水）～6 日（金）
開催会場	財団法人地域創造会議室 （東京都港区赤坂 6-1-20 国際新赤坂ビル西館 8 階）
開催体制	主催：財団法人地域創造
対象者	主に公立ホール・劇場等において、管理職程度の職責を持つ職員（館長、事務局長、事業課長等）の方。

### (3) アートミュージアムラボ 宮城セッション

開催期日	平成 25 年 12 月 4 日 (水) ～6 日 (金)
開催会場	宮城県美術館 (宮城県仙台市青葉区川内元支倉 34-1)
開催体制	主催：財団法人地域創造 共催：宮城県教育委員会 (宮城県美術館)
対象者	主に公立美術館等において、学芸業務を担当する職員の方。

### (4) ステージラボ 長崎セッション

開催期日	平成 26 年 2 月 18 日 (火) ～21 日 (金)
開催会場	長崎ブリックホール (長崎県長崎市茂里町 2-38)
開催体制	主催：財団法人地域創造 共催：長崎市
対象者	「ホール入門コース」 公共ホール・劇場 (開館準備のための組織を含む) において、業務経験年数 1 年半未満 (開館準備のための組織にあつては年数不問) の職員。  「自主事業 I (音楽) コース」 自主事業を実施している公共ホール・劇場で、音楽の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が 2～3 年程度の職員。  「自主事業 II (演劇) コース」 自主事業を実施している公共ホール・劇場で、演劇の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が 2～3 年程度の職員。



## 2 参加者の属性

### (1) 静岡セッション

コース名	ホール入門	自主事業Ⅰ (地域・伝統)	自主事業Ⅱ (子ども)	合計
参加者数	22	18	20	60

参考：参加申込者数68名

#### ①都道府県別

	入門	地域・伝統	子ども	合計
北海道			1	1
青森	1			1
岩手				
宮城	1			1
秋田				
山形				
福島	1			1
茨城	1	1		2
栃木				
群馬		1		1
埼玉		1	1	2
千葉	1		1	2
東京	1	2	1	4
神奈川		2	1	3
新潟				
富山	1			1
石川				
福井				
山梨				
長野	1			1
岐阜	3	1	1	5
静岡	1	1	1	3
愛知	1	1	3	5
三重		1	1	2
滋賀				
京都				
大阪				
兵庫			4	4
奈良		1		1
和歌山				
鳥取	1	1	1	3
島根		1		1
岡山				
広島		1	2	3
山口				
徳島				
香川			1	1
愛媛	1			1
高知				
福岡	1		1	2
佐賀				
長崎	2			2
熊本		1		1
大分				
宮崎	2	1		3
鹿児島		1		1
沖縄	2			2
合計	22	18	20	60

#### ②採用形態別

	ホール入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
公務員	9	1	1	11
指定管理者	12	15	18	45
その他	1	2	1	4
合計	22	18	20	60

#### ③性別

	ホール入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
男	9	13	9	31
女	13	5	11	29
合計	22	18	20	60

#### ④年代別

	ホール入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
20代	16	7	12	35
30代	5	6	4	15
40代		4	4	8
50代	1	1		2
合計	22	18	20	60

(2) 公立ホール・劇場マネージャーコース

コース名	マネージャーコース
参加者数	25

参考：参加申込者数25名

①都道府県別

	内訳
北海道	1
青森	
岩手	
宮城	1
秋田	
山形	
福島	
茨城	1
栃木	
群馬	
埼玉	2
千葉	3
東京	2
神奈川	5
新潟	
富山	
石川	
福井	
山梨	
長野	
岐阜	1
静岡	
愛知	
三重	1
滋賀	
京都	
大阪	1
兵庫	2
奈良	
和歌山	
鳥取	1
島根	1
岡山	1
広島	
山口	
徳島	
香川	
愛媛	
高知	
福岡	
佐賀	
長崎	
熊本	1
大分	
宮崎	
鹿児島	
沖縄	1
合計	25

②採用形態別

	内訳
公務員	5
プロパー	20
その他	
合計	25

③性別

	内訳
男	16
女	9
合計	25

④年代別

	内訳
20代	
30代	3
40代	12
50代	8
60代	2
合計	25

(3) アートミュージアムラボ

コース名	アートミュージアムラボ
参加者数	8

参考：参加申込者数8名

①都道府県別

	内訳
北海道	
青森	
岩手	
宮城	1
秋田	
山形	
福島	
茨城	
栃木	
群馬	
埼玉	
千葉	
東京	1
神奈川	2
新潟	
富山	
石川	1
福井	
山梨	
長野	
岐阜	1
静岡	
愛知	1
三重	
滋賀	
京都	
大阪	
兵庫	
奈良	
和歌山	
鳥取	
島根	
岡山	
広島	
山口	1
徳島	
香川	
愛媛	
高知	
福岡	
佐賀	
長崎	
熊本	
大分	
宮崎	
鹿児島	
沖縄	
合計	8

②採用形態別

	内訳
公務員	4
プロパー	4
その他	
合計	8

③性別

	内訳
男	1
女	7
合計	8

④年代別

	内訳
20代	3
30代	3
40代	2
50代	
60代	
合計	8

(4) 長崎セッション

コース名	ホール入門	自主事業Ⅰ (音楽)	自主事業Ⅱ (演劇)	合計
参加者数	18	13	17	48

参考：参加申込者数53名

①都道府県別

	入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
北海道	2	2		4
青森				
岩手				
宮城	1			1
秋田				
山形				
福島	1		1	2
茨城				
栃木				
群馬				
埼玉				
千葉	1			1
東京		1	2	3
神奈川		2	1	3
新潟				
富山				
石川			1	1
福井	1			1
山梨				
長野	1		2	3
岐阜				
静岡				
愛知	1			1
三重	1			1
滋賀				
京都				
大阪	2		1	3
兵庫	1		2	3
奈良				
和歌山				
鳥取				
島根				
岡山				
広島		3	1	4
山口				
徳島	1			1
香川			1	1
愛媛				
高知	1		1	2
福岡	1	3	3	7
佐賀			1	1
長崎	2	2		4
熊本	1			1
大分				
宮崎				
鹿児島				
沖縄				
合計	18	13	17	48

②採用形態別

	入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
公務員	2	2	4	8
指定管理者	15	8	11	34
その他	1	3	2	6
合計	18	13	17	48

③性別

	入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
男	7	5	4	16
女	11	8	13	32
合計	18	13	17	48

④年代別

	入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
20代	12	7	7	26
30代	5	5	4	14
40代	1	1	6	8
50代				
合計	18	13	17	48

### 3 コーディネーター・講師一覧

#### (1) ステージラボ 静岡セッション

##### 【コーディネーター】

###### ○ホール入門コース

中村 透 (作曲家／南城市文化センター シュガーホール芸術監督)

###### ○自主事業Ⅰ (公共ホールの役割としての地域文化・伝統芸能) コース

田村 孝子 (静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ館長)

###### ○自主事業Ⅱ (公共ホールの役割としての子どもプログラム) コース

津村 卓 (財団法人地域創造プロデューサー／北九州芸術劇場館長兼プロデューサー)

##### 【講師】

###### ○ホール入門コース

中村 亮 (プロフェッショナルドラマー／作曲家)

山形 裕久 (一般財団法人貝塚市文化振興事業団専務理事／

貝塚市文化会館コスモシアター館長・劇場総監督)

北島 佳奈 (ヴァイオリニスト)

加地美秀子 (ピアニスト)

金城 良治 (株ストリズム代表取締役)

###### ○自主事業Ⅰ (公共ホールの役割としての地域文化・伝統芸能) コース

織田 紘二 (国立劇場顧問)

国本 武春 (浪曲師)

大原 啓司 (地球音楽庵小節街道音造り工房主)

望月 真也 (グランシップ企画制作課ディレクター)

大倉源次郎 (能楽師／大倉流小鼓方十六世宗家)

松田 正弘 (浄るりシアター館長)

石倉 茂夫 (公益財団法人しまね文化振興財団 いわみ芸術劇場サービス課課長)

小島 美子 (国立歴史民俗博物館名誉教授)

###### ○自主事業Ⅱ (公共ホールの役割としての子どもプログラム) コース

宮城 聡 (静岡県舞台芸術センター芸術総監督)

吉本 光宏 (株ニッセイ基礎研究所主席研究員 芸術文化プロジェクト室長)

多田淳之介 (演出家／東京デスロック主宰／富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督)

大石 将紀 (サククス演奏者)

内藤 裕敬 (劇作家・演出家／南河内万歳一座座長)

下山 久 (キジムナーフェスタ総合プロデューサー)

###### ○共通プログラム

織田 紘二ほか国立劇場スタッフ

## (2) ステージラボ 公立ホール・劇場 マネージャーコース

### 【コーディネーター】

竹内 文則（公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団理事長）

### 【講師】

佐藤まいみ（彩の国さいたま芸術劇場プロデューサー）

渡邊 英彦（富士宮やきそば学会会長）

深澤 公詞（特定非営利活動法人駿河地域経営支援研究所理事長）

伊藤せい子（江戸川区総合文化センター館長）

津村 卓（財団法人地域創造プロデューサー／北九州芸術劇場館長兼プロデューサー）

野田 邦弘（鳥取大学地域学部教授（地域文化学科長））※

柳沢 拓哉（八戸ポータルミュージアムはっちコーディネーター）※

小林 真理（東京大学大学院准教授）

逢坂恵理子（横浜美術館館長）

山出 淳也（特定非営利活動法人 BEPPU PROJECT 代表理事）※

※「文化政策幹部セミナー」との合同ゼミ

## (3) アートミュージアムラボ

### 【コーディネーター】

三上 満良（宮城県美術館学芸部長）

### 【講師】

大嶋 貴明（宮城県美術館研究員）

佐々木 淳（石巻市教育委員会 生涯学習課長補佐）

山内 宏泰（リアス・アーク美術館学芸係長）

小谷 竜介（東北歴史博物館副主任研究員）

甲斐 賢治（せんだいメディアテーク企画・活動支援室 室長）

タノタイガ（美術家）

村上タカシ（美術家／宮城教育大学准教授）

西村 高宏（てつがくカフェ@せんだい主宰／東北文化学園大学准教授）

近田真美子（東北福祉大学講師）

大野 正勝（岩手県立美術館学芸普及課長）

伊藤 匡（福島県立美術館）

#### (4) ステージラボ 長崎セッション

##### 【コーディネーター】

###### ○ホール入門コース

大月ヒロ子 (有)アイデア代表取締役/ミュージアム・エデュケーション・プランナー)

###### ○自主事業Ⅰ (音楽) コース

児玉 真 (いわき芸術文化交流館アリオス チーフプログラムオフィサー/  
財団法人地域創造プロデューサー)

###### ○自主事業Ⅱ (演劇) コース

内藤 裕敬 (劇作家・演出家/南河内万歳一座座長)

##### 【講師】

###### ○ホール入門コース

篠田 守男 (彫刻家/筑波大学名誉教授)

長野 隆人 (いわき芸術文化交流館アリオス 広報グループチーフ)

中村 茜 (株)precog 代表取締役)

岩永 貴博 (長崎市経済局文化観光部出島復元整備室係長)

福田 修志 (F's Company 代表/劇作家・演出家)

篠崎 雅 (俳優)

田中 俊亮 (俳優)

松本 恵 (俳優)

水野 祐 (弁護士/Arts and Law 代表理事)

大澤 寅雄 (株)ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室 准主任研究員)

津村 卓 (北九州芸術劇場館長兼プロデューサー/財団法人地域創造プロデューサー)

###### ○自主事業Ⅰ (音楽) コース

千葉 真弓 (北上市文化交流センター さくらホール)

菱川 浩二 (多治見市文化会館課長代理)

中本 正樹 (小美玉市生活文化課 四季文化館みの〜れ・小川文化センターアピオス)

大澤 寅雄 (株)ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室 准主任研究員)

柴田 健一 (長崎、ソニックボーンミュージック代表/トロンボーン奏者)

月岡翔生子 (福岡、ピアニスト)

新崎 誠実 (沖縄、ピアニスト)

###### ○自主事業Ⅱ (演劇) コース

仲道 郁代 (ピアニスト)

荒谷 清水 (俳優)

坂口 修一 (俳優)

太田 清伸 (俳優)

岩永 貴博 (長崎市経済局文化観光部出島復元整備室係長)

福田 修志 (F's Company 代表/劇作家・演出家)

篠崎 雅 (俳優)

田中 俊亮 (俳優)

松本 恵 (俳優)

## ○共通プログラム

森下 真樹（振付家・ダンサー）  
笠井 晴子（ダンサー・表現者）  
山崎麻衣子（ダンサー・振付家）  
ヤマワキタカミツ（アートディレクター）

## 4 スタッフ一覧

### （1）ステージラボ 静岡セッション

#### ○財団法人地域創造

佐々木 淳（事務局長）  
斎藤 正治（企画課長）  
津村 卓（プロデューサー）

笹川 裕次、中富 勝裕、角南 晴久、大垣 敬子、水上 俊秀、栗林 礼也（事務局）  
仲田 知広（ホール入門コース）  
久保友紀恵（自主事業Ⅰ（公共ホールの役割としての地域文化・伝統芸能）コース）  
福岡 昌子（自主事業Ⅱ（公共ホールの役割としての子どもプログラム）コース）

#### ○公益財団法人静岡県文化財団

前田 幹夫、鈴木 基規、望月 真也、山田 真理、藤井 絵（事務局）  
山口 貴美（ホール入門コース）  
水田 麻美（自主事業Ⅰ（公共ホールの役割としての地域文化・伝統芸能）コース）  
齋藤 緑（自主事業Ⅱ（公共ホールの役割としての子どもプログラム）コース）

### （2）ステージラボ 公立ホール・劇場 マネージャーコース

#### ○財団法人地域創造

佐々木 淳（事務局長）  
斎藤 正治（企画課長）  
津村 卓（プロデューサー）

笹川 裕次（芸術環境部）  
角南 晴久（芸術環境部）

### （3）アートミュージアムラボ 宮城セッション

#### ○財団法人地域創造

佐々木 淳（事務局長）  
斎藤 正治（企画課長）  
山崎 菜未（芸術環境部）  
角南 晴久（芸術環境部）  
布施 知範（総務部）  
宇野 希美（総務部）



○宮城県美術館

有川 幾夫、畑 正芳、大嶋 貴明、三浦 雅

(4) ステージラボ 長崎セッション

○財団法人地域創造

高尾 和彦 (事務局長)

斎藤 正治 (企画課長)

津村 卓 (プロデューサー)

中富 勝裕、笹川 裕次、角南 晴久、大垣 敬子、水上 俊秀、

小林 洋平、仲田 知広 (事務局)

栗林 礼也 (ホール入門コース)

平工めぐみ (自主事業Ⅰ(音楽)コース)

蔵満 溪 (自主事業Ⅱ(演劇)コース)

○長崎市文化振興課

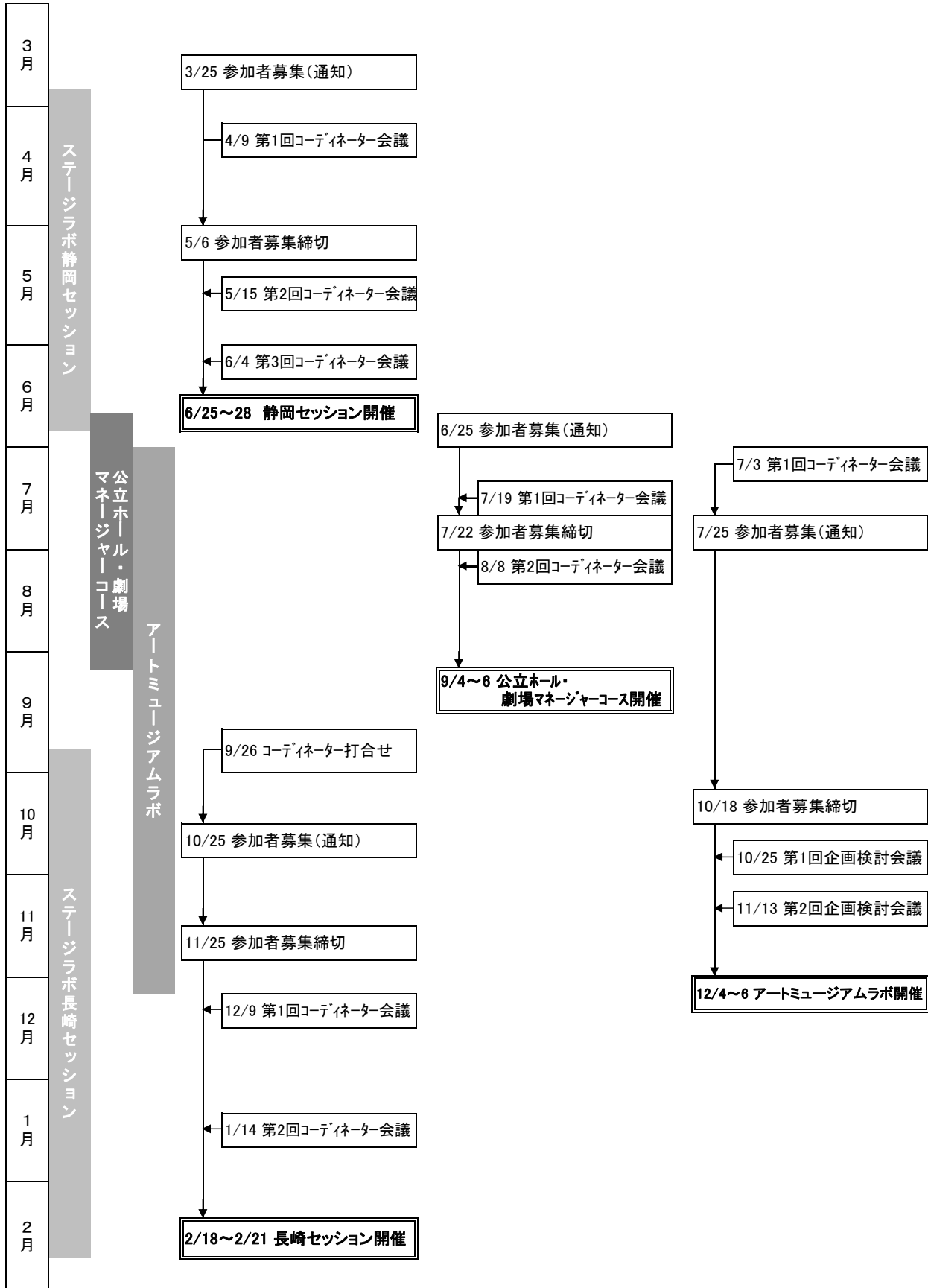
田中美由紀、栗崎 祥子、林 雄一郎 (事務局)

濱砂 慶子 (ホール入門コース)

平尾 圭太 (自主事業Ⅰ(音楽)コース)

廣田 由貴 (自主事業Ⅱ(演劇)コース)

## 5 実施日程（参加者募集～研修実施の流れ）



## Ⅲ ステージラボ・

### 静岡セッション



	ホール入門コース	自主事業Ⅰ(公共ホールの役割としての地域文化・伝統芸能)コース	自主事業Ⅱ(公共ホールの役割としての子どもプログラム)コース
	コーディネーター 中村 透 (作曲家、南城市文化センター シュガーホール芸術監督)	コーディネーター 田村 孝子 (静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ館長)	コーディネーター 津村 卓 (財団法人地域創造プロデューサー 北九州芸術劇場館長兼プロデューサー)
主会場	リハーサル室/会議室1003	交流ホール/会議室1002	会議ホール・風/会議室1101
9:00			
10:00			
11:00			
12:00			
13:00			
14:00			
	14:00 受付		
	14:30 オリエンテーション・施設見学等		
15:00	場所:会議ホール・風(11F、オリエンテーション後、施設見学)		
16:00	15:30 ゼミ1「入門コース・ガイダンスとワークショップ/ことはじめ」 講師:中村 透 場所:前半:会議室1003(10F) 後半:リハーサル室(B1F)	15:30 ゼミ1「公共ホールにおける地域文化・伝統芸能の重要性」 講師:田村 孝子 場所:会議室1002(10F)	15:30 ゼミ1「自己紹介と事業紹介そしてコミュニケーションとは」 講師:津村 卓 場所:会議室1101(11F)
17:00			
18:00		休憩(15分程度) 17:45 ゼミ2「国立劇場と伝統芸能」 講師:織田 紘二(国立劇場顧問) 場所:会議室1002(10F)	
19:00	休憩(15分程度)	休憩(15分程度)	休憩(15分程度)
19:00	20:00		
20:00	全体交流会 会場:レストラン オアシス(1F)		
21:00	20:30		
22:00			

	ホール入門コース	自主事業Ⅰ(公共ホールの役割としての地域文化・伝統芸能)コース	自主事業Ⅱ(公共ホールの役割としての子どもプログラム)コース
	コーディネーター 中村 透 (作曲家、南城市文化センター シュガーホール芸術監督)	コーディネーター 田村 孝子 (静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ館長)	コーディネーター 津村 卓 (財団法人地域創造プロデューサー 北九州芸術劇場館長兼プロデューサー)
主会場	リハーサル室/会議室1003	交流ホール/会議室1002	会議ホール・風/会議室1101
9:00			
10:00	9:30		
11:00	共通プログラム		
12:00	「国立劇場と鑑賞教室(付『紅葉狩』について)」 講師:織田 紘二 ほか国立劇場スタッフ 場所:前半=会議ホール・風(11F) 後半=中ホール・大地(1F)		
13:00			
14:00	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
15:00	14:00 ゼミ2 「地域の伝統的素材と舞台芸術創造」 講師:中村 透 場所:会議室1003(10F)	14:00 ゼミ3 「伝統芸能の歴史と変遷」 講師:織田 紘二 場所:会議室1002(10F)	13:30 ゼミ2 「舞台芸術が子ども達に何が出来るのか 芸術サイドから」 講師:宮城 聡(静岡県舞台芸術センター芸術総監督) 場所:会議室1101(11F)
16:00	休憩・移動(15分程度)	休憩・移動(15分程度)	休憩・移動(15分程度)
17:00	16:15 ゼミ3 「市民とアーティスト協働の自主事業企画/入門編」 講師:中村 透 場所:前半:会議室1003(10F) 後半:リハーサル室(B1F)	16:15 ゼミ4 「芸能・浪曲の世界」 講師:国本 武春(浪曲師) 場所:交流ホール(6F)	15:45 ゼミ3 「舞台芸術が子ども達に何が出来るのか 多くの事例から」 講師:吉本 光宏(株式会社ニッセイ基礎研究所主席研究員 芸術文化プロジェクト室長) 場所:会議室1101(11F)
18:00	休憩・移動(15分程度)	休憩・移動(15分程度)	
19:00	18:30 ゼミ4 「アーティスト・コラボレーション/リズムはソーシャル・スキルだ」 講師:中村 亮(プロフェッショナルドラマー、作曲家) 場所:リハーサル室(B1F)	18:30 ゼミ5 「教育現場での地球音楽」 講師:大原 啓司(地球音楽庵小節街道音造り工房主) 場所:練習室2(B1F)	休憩・移動(15分程度)
20:00			19:00 ゼミ4 「舞台芸術が子ども達に何が出来るのか コーディネーターの役割から」 講師:吉本 光宏、津村 卓 場所:会議室1101(11F)
21:00	20:30	20:30	20:30
22:00			

	ホール入門コース	自主事業Ⅰ(公共ホールの役割としての地域文化・伝統芸能)コース	自主事業Ⅱ(公共ホールの役割としての子どもプログラム)コース
	コーディネーター 中村 透 (作曲家、南城市文化センター シュガーホール芸術監督)	コーディネーター 田村 孝子 (静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ館長)	コーディネーター 津村 卓 (財団法人地域創造プロデューサー 北九州芸術劇場館長兼プロデューサー)
主会場	リハーサル室/会議室1003	交流ホール/会議室1002	会議ホール・風/会議室1101
9:00			
10:00	9:30 ゼミ5 「舞台とは・・・/舞台監督の仕事から」	9:30 ゼミ6 「地域文化・伝統芸能は本当におもしろくないのか？」	9:30 ゼミ5 「舞台芸術が子ども達に何が出来るのか 参加者の事業例から」
11:00	講師:山形 裕久(一般財団法人貝塚市文化振興事業団専務理事、貝塚市文化会館コスモシアター館長・劇場総監督)	講師:望月 真也(グランシップ企画制作課ディレクター)	講師:津村 卓
12:00	場所:会議室1003(10F)	場所:会議室1002(10F)	場所:会議室1101(11F)
13:00	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
14:00	13:00 ゼミ6 「アーティスト・コラボレーション/ともに創る音楽」	13:00 ゼミ7 「触れてみよう能楽師～能楽体験～」	13:00 ゼミ6 「舞台芸術が子ども達に何が出来るのか 体験してみる(演劇)」
15:00	講師:北島 佳奈(ヴァイオリニスト) 加地 美秀子(ピアニスト)	講師:大倉源次郎(能楽師、大倉流小鼓方十六世宗家)	講師:多田 淳之介(演出家、東京デスロック主宰、富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督)
	場所:リハーサル室(B1F)	場所:交流ホール(6F)	場所:会議ホール・風(11F)
	休憩・移動(15分程度)	休憩・移動(15分程度)	休憩・移動(15分程度)
16:00	15:15 ゼミ7 「自主事業企画に挑戦/自主ゼミ・デザイン編」	15:05 ゼミ8 「地方からの発信～地域資源としての復活～」	15:15 ゼミ7 「舞台芸術が子ども達に何が出来るのか 体験してみる(音楽)」
17:00	講師:中村 透、地域創造	講師:松田 正弘(浄るリシアター館長)	講師:大石 将紀(サクソ演奏者) 内藤 裕敬(劇作家・演出家、 南河内万歳一座座長)
	場所:会議室1003(10F)	場所:会議室1002(10F)	場所:リハーサル室(B1F)
18:00	休憩・移動(15分程度)	休憩・移動(10分程度)	休憩・移動(15分程度)
19:00	18:00 ゼミ8 「モノ、コト、情報に物語ーstoryーを/行政広報の飛躍」	17:15 ゼミ9 「文化資源との共生」	18:00 ゼミ8 「舞台芸術が子ども達に何が出来るのか 公演から」
	講師:金城 良治(株式会社ストリズム代表取締役)	講師:石倉 茂夫(公益財団法人しまね文化振興財団 いわみ芸術劇場サービス課課長)	講師:下山 久(キジムナーフェスタ総合プロデューサー)
	場所:会議室1003(10F)	会場:会議室1002(10F)	場所:会議室1101(11F)
20:00		休憩・移動(15分程度)	
		19:15 ゼミ10 「地域文化・伝統芸能が活きる公共ホールのあり方」	
		講師:小島 美子(国立歴史民俗博物館名誉教授)	
		場所:会議室1002(10F)	
21:00	20:30	20:30	20:00

	ホール入門コース	自主事業Ⅰ(公共ホールの役割としての地域文化・伝統芸能)コース	自主事業Ⅱ(公共ホールの役割としての子どもプログラム)コース
	コーディネーター 中村 透 (作曲家、南城市文化センター シュガーホール芸術監督)	コーディネーター 田村 孝子 (静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ館長)	コーディネーター 津村 卓 (財団法人地域創造プロデューサー 北九州芸術劇場館長兼プロデューサー)
主会場	リハーサル室／会議室1003	交流ホール／会議室1002	会議ホール・風／会議室1101
9:00			
10:00	9:30 ゼミ9 「自主事業企画のシェイプアップ ／コンペ編」	9:30 ゼミ11 「公共ホールでの実践方法～ ここにしかない地域文化・伝統芸能～」	9:30 ゼミ9 「舞台芸術が子ども達に何が出来るのか 企画を考える」
11:00	講師:中村 透、金城 良治 場所:会議室1003(10F)	講師:小島 美子、松田 正弘、田村 孝子、望月 真也 場所:会議室1002(10F)	講師:津村 卓 場所:会議室1101(11F)
12:00			
13:00	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
14:00	13:00 ゼミ10 「公共ホールと芸術文化／地域コミュニティ再生の場として」	13:00 ゼミ12 「公共ホールの役割としての地域文化・伝統芸能」	13:00 ゼミ10 「舞台芸術が子ども達のために何が出来るのか 発表と評価」
	講師:中村 透 場所:会議室1003(10F)	講師:田村 孝子 場所:会議室1002(10F)	講師:津村 卓 場所:会議室1101(11F)
15:00	14:30 アンケート記入・移動		
	15:00 修了式 場所:会議ホール・風(11F)		
16:00			
17:00			
18:00			
19:00			
20:00			
21:00			
22:00			



## 2 各コースについて

### (1) ホール入門コース

#### ① 総 評

コーディネーター 中村 透

コーディネーターの発した入門コースの募集メッセージは「多様な文化価値に引き裂かれた世代を、身の協働、地域文化の再発見、コミュニティの再生という眼差しから公共ホールが結びなおす場として見出す」であった。

本コース研修生は公益財団指定管理者、民間法人の指定管理者、直営による館等の所属であり、施設での就労経験1年半未満であることが条件付けられている。従って、当初から研修動機の多様性、受講前学習レディネスの幅広さを予測していた。受講生の事前アンケートを精査の上、入門コースは、そのゼミ内容を自主事業の企画・制作・運営に重点化し、

1. 多様なコンテンツのあり方を知る（ゼミ2, 3),
2. アーティストとの協働経験をもつ（ゼミ4, 6),
3. 多角的な運営方法への視点をもつ（ゼミ5),
4. 異なった価値観をもつゼミ生との共同で実践課題に挑戦する（ゼミ7, 8, 9)

と設定した。

また、ステージラボのもう一つの目的である「全国公共文化施設職員のネットワーク化」のために、ゼミ1をコミュニケーション・プレイ型のワークショップから開始した。またゼミ全体を5人単位4組のグループに編成し、グループ内及びグループ間の主体的な力学が作動する研修方法をとった。本稿には登場しないが、ゼミ終了後の「番外ゼミ」も、その方途のひとつである。

公共文化施設のおかれた地域文化の特性、業務の多様性からも、集中研修型であるステージラボの成果は、今後の研修生の現場での応用経験に待つしかない。研修生の一層のスキルアップ、ミッションの深化をOJT (on-the-job training) に期待する。

## ②ゼミ記録

—第1日— 6月25日(火)

ゼミ1 「入門コースガイダンスとワークショップことはじめ」

講師： 中村 透

全国から参集した初対面のゼミ生同士が、円滑な人間関係づくりに入れるように、コミュニケーション・プレイ型のワークショップから開始した。東西南北「出身地位置探し」、トーンチャイムによる「未知との遭遇」、短詩による「ことばのシェアリング」等のワークショップを連続的に展開した。

グループ編成を行ったあと、グループゼミを開始。「ひとは、なぜ歌い踊るのか?—パフォーミング・アーツ原論—」がテーマであった。

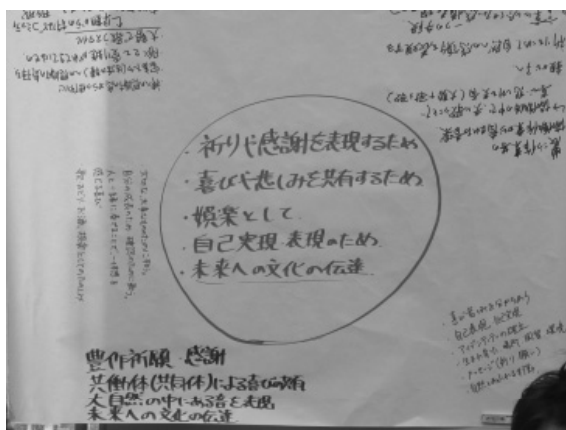
上記ゼミの題材としてVTR「アジア音紡ぎの旅」(2006年、NHK九州放映)を用い、歌や踊りのパフォーマンス行動の原点を、記録映像を仲立ちにして思索し討議した。グループ討議の結果をポスター形式で発表し、ゼミ全員での共有を目指したが、経験に相当な幅があるためことを認識した。



—第2日— 6月26日(水)

ゼミ2 「地域の伝統的素材と舞台芸術創造」

講師： 中村 透



初めに、ゼミ生各自の自己紹介・地域及び施設概要とその実施事業を紹介した。つづいて標記テーマでゼミを開始。目的は「地域の伝統文化を素材とした新しい舞台芸術創造の実践例を通して、地域に効果的に還元し活着する舞台芸術創造のあり方を考える」ことであった。実践例として、講師中村の『琉球古典音楽・舞踊とオーケストラの共演』(浦添てだこホール 2010)をとりあげた。上演記録VTRを視聴し、「伝統芸能を異なった様式の芸術・芸能と協働創造する際の課題」についてグループ内で意見交換をし、付箋に貼り出して意見発表した。講師

からの質問と、コメントが出され、それをめぐって全体討議が行われた。

### ゼミ3 「市民とアーティスト協働の自主事業企画」

講師： 中村 透

アーツ・アクセス＝芸術作品・芸術家への多様な接近回路を用意することと、アーツ・リテラシー＝芸術理解の情報域を拡大して提供することは、今日、広い市民層へ実演芸術のバリア・フリーとして重要な方法論となっている。公共ホールを場とした「市民参加型舞台芸術創造」も、こうしたコンテキストから捉えるのが妥当であろう。本ゼミでは、南城市文化センター・シュガーホールでの二つの実践例を紹介しながら、各地域のホールが今後自主事業の企画立案と長期にわたる制作過程をイメージしてもらうことを目的とした。事例として、ポップ・ミュージックのピアノ合奏ステージをとりあげた。

当初は、上記企画によるゼミ生との音楽ワークショップを予定していたが、時間不足のため見送りとなった。



### ゼミ4 「アーティスト・コラボレーション1／リズムはソーシャル・スキルだ」

講師： 中村 亮

ドラム奏者、ミュージック・ディレクターの中村亮氏を招いて、身体表現、ボディー・パッカション等による実技ワークショップを行った。ポップ・ミュージック、ジャズ等におけるリズムの構造は、それ自体独立的な複数のリズム構造の単位を持ち、それらが組み合わせられることによって、総合したリズム表現を行う。ドラム奏者は、一人で両手両足を駆使しながら、ハイハット、ライドシンバル、スネアドラム、各種のトム、バスドラム等を打ち鳴らしている。これらを解体して、複数のパートでシェアする身体表現―手拍子、ヒザ打ち、足打ち、ウォーキング―を行った。同時に、この経験、複合リズムのもつ現象が、社会における多様な人間関係行動、ソーシャル・スキルに繋がることにメタファーした考察を行った。



最後にドラムのソロ即興を行ってもらったが、ピアノとデュオするミュージック・シーンに発展したほうが、ゼミ生には良かったと反省。

—第3日— 6月27日（木）

ゼミ5 「舞台とは…／舞台監督の仕事から」

講師： 山形 裕久

山形裕久氏は、映画撮影技術、テレビ・ディレクターを経て貝塚市コスモシアターの指定管理者兼館長に選任され、現在は、プロパー職員5名を中心とし、ピンポイントでの民間から即戦力人材を登用して事業企画・制作運営にあたっている。また、市民プロデューサー、市民コーディネーターの養成にも劇場運営の力点を置いている。サブタイトルとして、氏は「今後、劇場で働くすべての人に何を求められるのか、また、何を期待されるか」を掲げた。就任当初から、年度を追うごとに事業費の大幅削減が行われるなか、市民・外部人材との連携や工夫によって多彩な自主事業を展開してきたことが、その背景にある。アーティスト招聘型の事業と並んで、とくに市民連携による事業としては

- ・ 市民参加型事業：ワークショップ、講座から開始する市民対象の事業
- ・ 市民参画型事業：市民によるアート表現の芽を出す事業

事業例：主婦層・団塊世代を対象とした「ティータイムコンサート」

ロビーの活性化、レコード持ち寄りの「懐音再生」

ピアノ・パーティー等

等を継続的に行っている。

コスモシアターではまた、2年に1回にオリジナル・ミュージカルを制作上演し、ホール職員もスタッフ、出演者として参加している。舞台・舞台監督という限定的な職能を超えて、「全員、コスモシアターという船の乗組員であると共に、ひとつの作品を創造する運命共同体」とする山形氏の理念によるものであろう。また阪神淡路大震災の経験から、公立文化施設におけるリスクマネジメントの課題が提示され、公演時の最終責任者は舞台監督とすることが提言された。

なお、同シアターでは、公立文化施設舞台芸術研究会 SASA(Stage Art Study Association)という組織機能を立ち上げ、公立文化施設を対象とした支援活動を行っている。アーティストを選定し、プロデュースから構成・演出・舞台監督・美術・音響・照明・楽器に至までの制作全体を仕切った派遣型のプログラムである。



## ゼミ6 「アーティスト・コラボレーション2／ともに創る音楽」

講師： 北島 佳奈、加地 美秀子

ヴァイオリニスト北島佳奈氏は、地域創造公共ホール音楽活性化事業の登録アーティストである。中村とはコーディネーター&アーティストとして、平成24年～25年にかけて岐阜おんかつを共にした。アウトリーチにおける北島氏の実践は「演奏家と聴衆とが双方向で対流し、クリエイティブな関係を誘発するアクティビティ」に特徴がある。本ゼミでは、ゼミ生をアクティビティ対象の子どもに見たてて実演し、その体験を通してクラシック音楽のクリエイティブな“きこえ”を探ることを目的とした。

アクティビティ終了後、岐阜の子どもたちの感想を検証し、「アウトリーチの効果」「なぜ、実演芸術が大事か」、をテーマに、北島氏、加地氏を交えて質疑応答及び意見交換を行い、以下の事項を確認した。

### ○アウトリーチの効果

1. 近接距離での音楽演奏の高い受容効果
2. 高い技能・集中性を目の当たりにする共感覚の効果
3. アーティストの長い修練過程に対しての尊敬・生き方への共感

### ○なぜ、実演芸術が大事か

1. 人間の長い歴史文化の伝統を継承している  
＝想像と創造の産物である
2. 高度な“身の技・技能と知”、すなわち人間の身体と精神の究極の可能性を  
体現している
3. 同一の場と時間を共有し、一回性のなかで出会う

反省として、ゼミ生自身のアクティビティ体験を振り返る時間を持つべきであった。



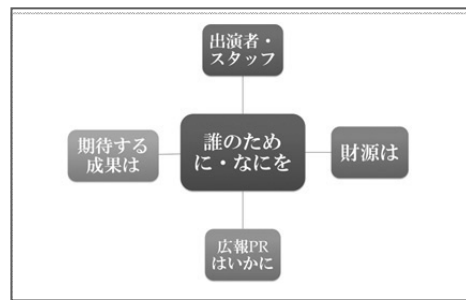
## ゼミ7 「自主事業企画に挑戦／自主ゼミ・デザイン編」

講師： 中村 透

情報提供： 平工 めぐみ

ゼミ1～6学習を踏まえ、各グループに分かれて公共ホールにおける自主制作事業企画のラフ・デザイン作成を開始した。

グループ企画の討議に入る前に確認ポイントとして示されたのが次図である。



目的とターゲットを明確にするためには「誰のために、なにを」を最初におさえること、その結果として地域社会に「期待する効果」を視野に入れること、内容を具体化するために「出演者・スタッフ」を想定すること、そののちに「財源」「広報 *Public relations*」の方法をプランニングすることを、作業工程として示した。

作業過程で、とくに財源に関する情報として地域創造各種助成制度のコンセプトと助成内容について、平工めぐみ氏（地域創造）に情報提供をいただいた。

## ゼミ8 「モノ、コト、情報に物語-story-を」

講師： 金城 良治

自主事業企画のラフ・デザイン（ゼミ7）作成が進行するなかで、「広報」に関するデザインをとくに抽出して集中的に学んだ。文化事業の制作・運営にあたっては、広報のあり方が極めて重要な位置を占めるからである。講師の金城良治氏は、沖縄県南城市の市広報委託を受けている民間会社ストリズムの代表である。ともすれば、柔軟な発想、クリエイティブなデザイン性が欠けがちな自治体広報との格闘の経験を豊富に持ち、またそれからの飛躍を試行している人物でもある。

金城氏は、「モノ、コト、情報に物語-story-を」という角度から、1. 計画段階から広報を考える、2. 人の脳は物語がお好き、3. プレスリリースの書き方、4. インターネットメディアの活用 の順でレクチャーし、豊富な媒体を資料として提供してくれた。

このセクションに、一部のゼミ生が高い関心を示したのが印象に残る。

—第4日— 6月28日（金）

ゼミ9 「自主事業企画のシェイプアップ／コンペ編」

講師： 金城 良治、中村 透

ゼミ7のラフ・デザイン、ゼミ8の広報デザインを受けて、各グループで自主事業企画をシェイプアップして、ポスター方式で発表する時間とした。ゼミ生の所属する地域・施設環境が多様であるため、あくまでも仮想公共ホールの自主事業を前提としたが、各企画をめぐって熱心な質疑応答、評価的意見が交わされた。発表された事業企画は以である。

- ・ 青少年育成事業「創作子ども歌舞伎」～子どもだってカブけるもん！～  
目的：地域にまつわる歴史を歌舞伎作品にし、子どもたちが演じることで、伝統芸能の保存と継承に貢献。
- ・ 大人のためのアート de 愛 vol.1 ジャズ落語-本物の芸術文化に触れ、共有しよう！-  
目的：著名な落語家とジャズ・ピアニストのコラボレーション企画で、なかなか公共ホールに足を運ばない20代～30代を招く。
- ・ メガネホール市民参加型自主事業ワークショップ「おとうさんといっしょ」  
目的：父と子の楽器製作ワークショップを行う。その楽器を用いて、ステージでアーティストと共演し、父親の育児参加の一助とする。
- ・ あかがねミュージアム開館セレブレーション事業  
「親子のためのことのはコンサート」  
目的：ホールと美術館の併設施設の強みを生かし、ヴァイオリンとピアノの演奏をバックに、女優による地元民話の朗読を行う。あらかじめ民話のイメージを絵にするワークショップを子ども対象に行い、当日展示する。  
未来の地域を担う子どもたちに、伝統文化を伝える。

なお、各グループでA4版1枚にフォーマット化されたプレスリリースを作成し、新聞社訪問で担当記者にプレゼンテーションする実践を模擬的に行った。

口頭によるプレゼンテーションに、課題を残すゼミ生が少なからずいた。



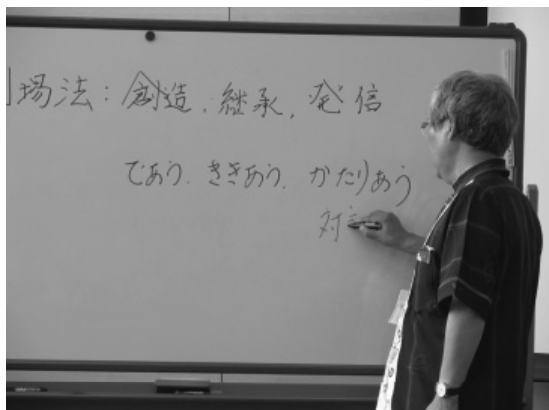
## ゼミ 10 「公共ホールと文化芸術／地域コミュニティ再生の場として」

講師： 中村 透

今後の公共ホールの活動のあり方について、ゼミ全体を振り返り、「劇場法」の検証も兼ねながらレクチャーと討議を行った。文化行政専門家の知見等をひきながら、以下をキーワードとした。

- ・ 文化芸術の継承・創造・発信／劇場法の基本的理念
- ・ 芸術と社会の出会いを柔軟にアレンジすること＝アートマネジメント
- ・ 文化芸術による地域コミュニティの再生
- ・ 市民の文化権を保証し実現すること
- ・ 地域の文化政策の使命に基づき、その目的を果たす事業企画

長期研修の最終シーンは、いつでもその収束・終息の仕方が難しい。全体を見通してきたコーディネーターとしては、一定の結論的言説に帰趨させる誘惑に駆られるからである。今後のゼミ生の人対人ネットワークを、より柔軟に開かれたものにするために、まったくフリーな意見交換のコーナーを設けた方がよかった、という反省が残る。





## (2) 自主事業Ⅰ（公共ホールの役割としての地域文化・伝統芸能）コース

### ① 総評

コーディネーター 田村 孝子

「文化芸術振興基本法」でも、それに基づく「基本方針」でも、さかのぼっては「文化財保護法」でも、日本の地域文化・伝統芸能の継承・発展の大切さはうたわれています。昭和41年に開場した国立劇場は、その場を担ってきました。それなのに、国際交流の盛んな今日にもかかわらず、私たち日本人は自分の国の文化を知らないし、触れる機会も少ないのが現実です。そんな現実を憂えて、10年前から学習指導要領に日本の伝統音楽が導入されました。でも、学校現場の教育は進んでいるとは言い難いのです。

一方、日本には海外には例のないような立派な公立の文化施設が全国に2000以上あります。でも、それらの施設が有効に活用されていないことも問題とされてきました。ところが、昨年6月に長年宿望されてきた公共ホールの根拠法「劇場、音楽堂などの活性化に関する法律」が成立し、公共ホールを地域の文化拠点として有効に活用すること、そしてそのための人材を育成することがうたわれたのです。地域創造が長年取り組んできた「ステージラボ」もそんな施設の人材育成を目指しての研修でしたし、毎年2月に開催される「地域伝統芸能まつり」も「地域伝統芸能アーカイブ」も、地域文化の継承・発展を目指しての事業に違いありません。

また東日本大震災以後、地域の伝統文化の果たした役割の大きさが注目されています。全国の公共ホールが、国立劇場が取り組んだと同じように地域の伝統文化に積極的に取り組み、その受け皿となったらいかがでしょうか。採算のあわない事業には取り組めない民間では難しいのが現実です。法律で地域の公共財として存在することが義務づけられた公共ホールこそが取り組むべき事業ではないでしょうか。

そこで、このコースではちょうどグランシップで上演される国立劇場の「歌舞伎鑑賞教室・紅葉狩」にあわせて「公共ホールの役割としての地域文化・伝統芸能」について改めて考える場とさせていただきました。

「歌舞伎鑑賞教室」鑑賞を挟んで1日目と2日目の前半は、開館以来、国立劇場の事業に携わっていらした国立劇場顧問の織田紘二さんに日本の伝統芸能の歴史について、そして国立劇場の果たした役割についてお話しいただきました。

2日目の後半のゼミ4では、浪曲師の国本武春さん、ゼミ5は地球音楽庵工房主の大原啓司さん、小学校へのアウトリーチ活動に積極的なお二人から、教育現場でのアウトリーチ活動に大切なヒントを学んでいただきました。

3日目は、地域文化・伝統芸能に積極的に取り組む公共ホールの事例を紹介。ゼミ6でグランシップが積極的に取り組む日本の伝統芸能事業について、担当の望月真也ディレクターから紹介のあった後、ゼミ7で、教育普及プログラムとして小学生から大学生まで積極的に取り組んでおられる能楽師の大倉源次郎さんの能楽体験・小鼓ワークショップを体験していただきました。ゼミ8では、大阪・浄るりシアターの取り組みを館長の松田正弘さんが所属劇団「鹿角座」の皆さんのデモンストレーション（受講生の体験付き）とともに紹介。

ゼミ9では、島根県いわみ芸術劇場・グラントワの石見神楽と益田糸操り人形の取り組みを石倉茂夫サービス課長が保存会の方々のデモンストレーション(受講生の体験付き)とともに紹介。

そしてゼミ10、最後に国立歴史民俗博物館名誉教授・小島美子さんには地域文化・伝統芸能が生きる公共ホールのあり方についてお話しいただきました。

最終日は、受講生が3班に分かれて、小島美子先生、松田正弘館長、望月真也ディレクターが参加してのグループ討論のあと、オリジナル企画を提案していただきました。

既に、能楽堂など専用ホールを持ち積極的に取り組んでいる地域もあります。熊本県、島根県、群馬県、埼玉県などは、他の地域に比較して多彩な事業を展開されています。

でも参加された皆さんの共通の悩みは「難しい」と「集客」、そんなためか事業に取り組む喜びが感じられないのが一番の問題かもしれないと感じました。アメリカのボルダーで「国際尺八フェスティバル」が開催された時、海外のプロの尺八奏者に「日本人は何故邦楽を別のものとするのですか。音楽に変わりはないでしょ？」と言われた時の衝撃を今でも思い出します。

熊本県立劇場の例でもそうです。以前取材した茨城県の国民文化祭の例でも、沖縄県・読谷村のふるさと教育から生まれた「よみたんまつり」もそうでした。公共ホールのスタッフでも、行政でも地域の方が徹底的に調査し、取り組んだ時に面白い試みが生まれます・・・そして継続は力なりはどんな事業でも同じだと思います。

## ②ゼミ記録

－第1日－ 6月25日（火）

### ゼミ1 「公共ホールに於ける地域文化・伝統芸能の重要性」

講師： 田村 孝子

「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」が成立する過程で、全国の公立文化施設がどのようなスタンスをとって来たか（芸団協に比べて積極的ではなかったこと）を確認した上で、その後示された指針に於ける公共ホールの役割と責任について再確認することからスタートした。事業仕分けでの文化庁が長年手掛けてきた「子供に本物の芸術体験」を「国がするのではなく地方自治体が担えばよい」と一刀両断に切り捨てた意見に全国から11万3000通の抗議のメールが届いたことが、今回の公立文化施設の根拠法成立への後押しになったことから、地域を知り、実情を踏まえ、積極的に発言し、働きかけて行く大切さを理解することが今回のコースの課題にも通ずると思っただけだが……。事前提出課題と自己紹介から、熊本県立劇場のように徹底的に調査した上で積極的に取り組んできた公共ホールもある一方、このような事業に取り組む夢が持ちにくいのが問題のように感じた。



### ゼミ2 「国立劇場と伝統芸能」

講師： 織田 紘二

昭和41年に開場した三宅坂の国立劇場をはじめとして、日本には他の国にはみられない様々な伝統芸能に特化した国立劇場が存在する。そして歌舞伎、文楽、能楽、舞踊、邦楽、雅楽、声明、民俗芸能、沖縄伝統芸能等、日本の伝統芸能全てを網羅し、取り上げ、その保存と継承に大きな役割を果たしてきた。それと同時に、昭和45年の歌舞伎俳優に始まり、文楽、能楽、大衆芸能、組踊りなど伝統芸能伝承者の養成事業に保存会の協力で取り組んできた成果ははかりしれない。

そんな国立劇場に開場の翌年から関わってこられた織田顧問の経験に基づくお話しは公共ホールのスタッフとして学ぶものは大きかったに違いない。役者についても、舞台についても何も知らない当時、様々なことを徹底的に確かめ、プロの人々が働きやすい職場にしようと決心されたそうだ。公演予算もない、役者もいない



国立劇場では知恵を働かせる以外に方法はなく、それも一人で考えても良い案はでてこない。お互い切磋琢磨することが大切だったと。そして北海道生まれの織田さんが19歳の時、東京・銀座の歌舞伎座での強烈な印象を受けて以来、民俗芸能、祭りに至るまですべての生の芸能を観てこられ、今もその姿勢は変わらないという。

—第2日— 6月26日(水)

### ゼミ3 「伝統芸能の歴史と変遷」

講師： 織田 紘二

「古事記」「日本書紀」に描かれた天の岩戸伝説、海彦・山彦伝説などにもうかがえる日本古来の芸能に中国を通じて伝えられた外来の芸能が融合し、時代、地域、市民との関わりの中で発展してきた日本の伝統芸能の歴史を概観するとともに、「洛中洛外図屏風」など浮世絵や屏風絵から主に民衆とともに存在した多彩な日本の伝統芸能の魅力を確認する機会となったに違いない。海外に駐在する日本人も多くなったが、残念ながら日本



文化の知識のある人は少ない。でも、今では色々な形で海外公演も行われるようになった。苦労も多かったが、少なくとも日本の伝統文化に誇りを持てるような舞台づくりを努めてきたとのお話には、公共ホールの役割として、地域に地域の文化を紹介する場、どこかで一度でも良いから地域文化に触れられる場をつくり、子供たちが地域の文化に誇りを持てるように頑張ってもらいたいとの励ましをいただいた。

### ゼミ4 「芸能・浪曲の世界」

講師： 国本 武春

「うさぎと亀」「おむすびころりん」などのオリジナル浪曲で子供たちに人気の浪曲師 国本武春さんは、いきなり浪曲のルーツであるお経を受講生に指導するところからスタートした。三味線の弾き語りで歌い、語られた「忠臣蔵」は、まさしく短時間の人間ドラマ。時代とともに日本のものが忘れられ、浪曲も古いスタイルも残すのが難しい現状に、ブギウギ、ロックンロール、ブルースなど様々なスタイルで、超絶技巧で演奏する国



本さんの三味線は、三味線であることも忘れさせるパフォーマンス。楽しんでもらい、喜んでもらうため、今の社会に受け入れられる語りものを目指し、日本人のいいところを残したい・・・その試みとして3年かけて「水戸黄門漫遊記」に取り組んでおられるそう。ブロードウェイ出演がきっかけで日本の文化交流史として1年間東テネシー州立大学に在学された時、三味線で多くの友人ができた経験からも、日本の文化に触れることの大切さを実感されたという。

## ゼミ5 「教育現場での地球音楽」

講師： 大原 啓司

小学校の音楽教師時代、世界40か国・150点の民族楽器を教室に置き、世界の楽器、世界の音楽を通じて、世界の文化を子供たちに自然に触れさせる授業をしていらした大原啓司さんは、今はご自分の車に楽器を積んで各地の学校に出前授業に出かけていらっしゃる。今回のステージラボにも日本はもちろん、アジア・アフリカの楽器30種類で演奏付きの音楽の旅、それも日本人が大切にしている味覚のひとつ渋味(自然と共存した音)の旅、テレビのCMで使われた演奏もみせながら、受講生にも楽器に触れさせながらの授業。世界にはそれぞれ



の国にいいものがある。ベートーベンもガムランもどちらも良い。和食が素晴らしいように日本にも良い文化、素晴らしい音楽があることに気づいて欲しいと願っての大原先生の授業でした。

ゼミの締めくくりに「六段の調べ」(小学校時代卒業証書授与時に必ず箏で演奏されていたそうです。)を演奏し損ねたのを非常に残念がっておられました。

—第3日— 6月27日(木)

## ゼミ6 「地域文化・伝統芸能は本当に面白くないのか？」

講師： 望月 真也

まず、6人ずつ3班に分かれて地域文化・伝統芸能についてそれぞれが抱えている問題を共有するために、改めてグループディスカッションした。地域文化については、積極的に取り組んでいる地域と心のよりどころとなると認識し、手をつくしているが思うような結果が得られない地域もある。また、伝統芸能の素晴らしさは認識されていても、触れる機会の少なさからか難しさが先に立ち、かなり積極的な施設もあるのにどこも集客に苦労しているのが現実のようだ。

後半は、文化施設としてのスローガンに「はじめての劇場」をあげているグランシップが、特に伝統芸能との出会いを重要な役割ととらえている例を実際に担当している立場で紹介。開館以来「能楽」(現在満席となる2事業と普及プログラム実施)、7年前から「文楽」、4年前から「歌舞伎」の公演を実施するとともに、浪曲、講談、落語などの話芸も毎年とりあげている。いずれも、地域社会とのつながりを大切にするとともに、公演に隠れたテーマを持たせるなど独自性のある企画を考え、事前講演会も開いている。特に、学校や他の文化施設でのワークショップなどのアウトリーチ活動に力を入れており、能楽については音楽教師を目指す大学生対象のプログラム実施の例を紹介した。



## ゼミ7 「触れてみよう能楽師～能楽体験～」

講師： 大倉 源次郎

「文化芸術振興基本法」（2001年）「学習指導要領に日本の伝統音楽導入」（2002年）

以来能楽を知ってもらおうと主に子供たちを対象に「能楽体験」のワークショップを始められた大倉先生の小鼓ワークショップは、いつも子供たちに清々しい笑顔をもたらす。そんな子供たちの様子を見て、先生方も改めて自然に日本文化の素晴らしさに気づき、美しい立居ふるまいが教えられていることも知る。今回は受講生 18 人全員が直接指導していただいた。馬の皮と蒔絵それも 100 年以上経たないと良い音にならない、そして姿勢も良くないといい音がしないなど、日本ならではの小鼓の音色に改めて先人たちの教え、賜物を実感したのではないだろうか。



稲作が定着し始めた時、あぜ道で笛と太鼓を演奏したことから始まったという能楽、知識としての教育ではなく、楽しい思い出を作ることによりこどものうちから馴染ませることの大切さを、受講生に望んでおられた。

## ゼミ8 「地方からの発信～地域資源としての復活」

講師： 松田 正弘

「メモをしないで！私の話を楽しんで感じてもらえたらうれしい。」の第一声で始まった松田館長のお話しは、受講生にとって驚きの連続であったに違いない。大阪のてっぺんに位置する人口 11500 人のまさしく田んぼの中にある町立の浄るりシアターには子どもから大人まで 60 人の劇団員のいる人形浄瑠璃の一座「鹿角座」があり、この 6 月開館 20 周年（劇団設立 15 年）記念公演が行われた。客席には、人間国宝の吉田蓑助さんが劇団員の成長を楽しまれているのにはびっくり、文楽座の指導をおおぎ館長、職員と劇団員が一体となつての努力が伺える記念公演だった。現在でも太夫が 200 人以上いるという能勢町の素浄瑠璃の資源を生かし、200 年後



を見据えて全てにオリジナルな試みを続けている活動は生き生きしており、劇団員による 4 体のお人形のデモンストレーションとワークショップには参加した受講生が心から楽しんでた。日本に素晴らしいものがあることを海外で教えられたという松田館長、何よりもお客さまに楽しんでもらうためには自分たちが楽しむことが大切と言うメッセージは伝わったと思ったが・・・。

## ゼミ9 「文化資源との共生」

講師： 石倉 茂夫

地元の石州瓦が印象的な島根県芸術文化センター・グラントワでは、開館当初から劇場事業のひとつとして伝統文化部門の充実を図ってきた。特に、地域に盛んな石見神楽を積極的に取り上げるとともに、人形の操作が全国でも珍しい「益田糸操り人形」の保存・伝承に協力しており、8月にはアジア人形劇フェスティバルも実施された。神楽をやりたいからUターンする若者がいるほどで、ホールでは定期公演、子ども神楽フェスティバルが実施され、海外公演も創作神楽への取り組みも行われている。この11月にはワールド神楽フェスティバルが開かれる予定だ。また、授産施設の積極的な取り組みで神楽衣装などの製作に障害者も関わるなど地域ぐるみで地域の伝統文化を守っている。それぞれの保存会の方々の助けで石見神楽の豪華な衣裳を身にまったり、勇壮な大蛇の動きを体験したり、益田糸操り人形の操作体験をするなど、受講生にとっては貴重な体験の場となった。事業予算の厳しい中、地域の人材やネットワークを活用できる伝統文化、伝統芸能は公共ホール事業として大きな可能性を持つこと、そのためには担当者が地元の伝統文化を理解することが大切とのアドバイスがあった。



## ゼミ10 「地域文化・伝統芸能が生きる公共ホールのあり方」

講師： 小島 美子

小島先生ご自身も当初は音楽＝クラシックとされていたそうだが、音楽の歴史など勉強されるようになって音楽のふるさとはヨーロッパと言う考え方から音楽は世界中どこにでもある、明治以来の音楽教育だけでは不十分、伝統音楽を知る必要性を痛感され、幅広い視点から音楽を研究、伝統音楽への取り組みの大切さを説いてこられた。現在充分とは言えないが、学校教育に伝統音楽が取り入れられているが、残念ながら公共ホールの観客層、特に20代～60代の人々は、まったく伝統音楽の教育を受けるどころか、触れる機会もなく過ごしてきたことを認識した上で取り組む必要がある。でも日本人の生活の中には日本固有の文化も、わらべ歌も消えてしまったわけではないことを話された上で、公共ホールのスタッフは宮崎県延岡市や熊本県立劇場のように地元の民族芸能、民謡、祭りを学び、感覚で知る、その上で舞台上上げる工夫、楽しく魅せる工夫も欲しいし、民俗芸能の解説者を育てることも必要だと。民俗芸能が受け入れられるようになると伝統芸能、古典にも理解が広がると話された。受講者にゼミ参加前に提出していただいたそれぞれの取り組みと課題点に答える形で話していただいた小島先生のアドバイスは、これまでの講師の先生方のお話を再確認する機会となったに違いない。

－第4日－ 6月28日（金）

ゼミ11 「公共ホールでの実践方法～ここにしかない地域文化・伝統芸能」

講師： 小島 美子、松田 正弘、望月 真也、田村 孝子

ゼミ6でグループ分けした3班（それぞれ県立、市町村立、伝統芸能専用施設含む）の受講者が講師の方々3人と身近に話し合い、アドバイスをいただきながらオリジナルな事業提案を試みた。受講生の希望で講師の先生方には時間を区切って3班全ての方々と話し合っていたためもあり、3班全て昼食時間も使っての事業まとめのディスカッションとなった。



ゼミ12 「公共ホールの役割としての地域文化・伝統芸能」

講師： 小島 美子、松田 正弘、望月 真也、田村 孝子

3班の発表前に、仕事で戻られる松田館長の最後の一言「地域文化・伝統芸能は難しい、できないは言わないで！どうしたら出来るかを考えて欲しい」の受講生への力強い注文があった。そのためか、発表には積極的な挙手の1班からスタートした。

1班 「クマもん異国の神々との出会い」

熊本岩戸神楽三十三座全国公演と銘打ち、クマもんが出した手紙に答えた1班の出身地、広島、鳥取、三重、横浜、そして海外へと各地の神々との出会いの旅公演。地域特産物展も合わせて実施。出入り自由の2月昼公演。対象・オールラウンド。チケット1000円（こども500円）





## 2班 「日本ソウル・和の覚醒」

伝統文化の和楽器の魅力を広く知ってもらうために、富士山を背景とした三保の松原の能舞台で羽衣伝説を福山 雅治の舞と大倉先生の小鼓演奏などによる公演。対象・女性。入場料無料。ライブビューイングあり。DVD売上は三保の松原保護に寄付。



## 3班 「日本縦断・伝統芸能ツアー」

3班メンバーのそれぞれの土地の伝統芸能や民謡などと、例えばコンテンポラリーダンスとのコラボレーションなどで各地を巡る。物産展も同時開催し、半被を着た人に地元の料理サービスなどの特典あり。チケット 2000 円。4泊5日のツアー料金 20000 円。



講師から、提案については 地域の芸能を活かした若々しく面白い企画との評だったが、小島先生から、公共ホールの役割として、何をを目指すのか、地域の文化を高めることができるかが課題との意見もでた。

最後に「グランシップ音楽の広場 2011」の映像を観ていただいた。アマチュアオーケストラの多い静岡で 6 年前から始めたクラシックを主としたお祭りの事業だが、東日本大震災のこの年には、小島先生のご紹介で岩手県から若い女性の民謡歌手を招いて尺八で「南部牛追い唄」を歌っていただき、会場中で東北に、ふるさと日本に思いを致すことができたことを紹介した。和太鼓を活用したこともある。民謡 1 曲、和楽器一つだけでも地域文化、伝統音楽の素晴らしさを伝えることができるのではないだろうか。それとともに、この音楽会が目指しているロンドンの夏の音楽祭「プロムス」を最後に紹介し、音楽の素晴らしさを多くの人々に伝えたいと続けられている音楽会の始まったのは 1893 年であり、今でも子供たちに何ができるか工夫していること、そして「プロムス」はロンドンの観光資源になっていることを紹介した。民間ではできないこと、公共ホールとして目指すべき役割を認識し、長く続けて行く大切さを紹介させていただき、ゼミを終了した。

### (3) 自主事業Ⅱ（公共ホールの役割としての子どもプログラム）コース

#### ① 総 評

コーディネーター 津村 卓

38回を迎えたステージラボですが、今回はテーマ設定をジャンル分けではなく、はっきりとテーマを打ち出して実施することになりました。その中で将来の社会を担う子ども達に対して「公共ホールの役割としての子どもプログラム」という大きく難しいテーマを受け持たせていただくことになりました。コーディネーターをやらせていただく私自身も十数年前から、ひとつひとつ手探り状態でプログラムを企画し、実施しては改変していく連続でした。もちろん社会の変化や施設の目的とミッションの違い、そして学校等との関係における変化もありますが、芸術が子ども達に何が出来るか、何を伝えないといけないのかを本格的に考え、取り組みだしてからまだ多くの時間を費やしていないため、そのプログラムはまだ未熟だと思います。そんななか今回コーディネーターとして打ち立てた柱は「人はなぜ生きるのか」「今日と同じ明日は来ない」、そしてそのなかで多様な価値観を認め合い、その多様であることに寛容であり「みんなと同じじゃなくても良い」ということを子ども達に伝えるためのプログラム作りを、ワークショップと鑑賞という二通りのベクトルを通して考えプログラミングしていくことを目指しました。

はじめに子ども達に対するワークショップについては、コーディネーターを務めなければならない劇場・ホールのスタッフも含め芸術サイドの認識不足ではないか、子供たちの前に立ち向き合うという本質性を理解している、しようとしている表現者がどれだけいるかということに対して考えました。芸術においてはそれぞれに特性がありますが伝えることに大きな違いはないと思います。重要なのはカリキュラムの内容が表現者の持つ小手先のスキルやテクニックではなく、その芸術が持つ基本的な論理をいかに内容に結び付け、目的に対し手法としてオリジナリティなカリキュラムを提出するかということだと思っからです。教育現場におけるアウトリーチの主語はどこまでいっても「子供たち」であり、表現者のやりたいことを実験的に行う場ではないということを理解しなければなりません。そのために、クオリティの高いプログラムを行っているアーティストとして、宮城聰氏から論理的なお話をしてもらい、多田淳之介氏と内藤裕敬氏そして大石将紀氏に彼らが行っているプログラムを経験してもらいました。また劇場・ホールというコーディネーターとして、どんなビジョンと目的を持って事業を構築し、アーティストと子ども達を会わせるかを考えてもらうために、吉本光宏氏に今なぜ子ども達に芸術は向き合っているのかを、国内外の事例を紹介してもらうとともに、コーディネーターの重要性を話してもらいました。そして鑑賞事業の重要性を下山久氏にご自身がプロデュースをしている「キジムナーフェスタ」をもとに世界的な動きや、子ども達の自由な発想を喚起させるためのお話をもらいました。

芸術家が「なぜヒトには芸術は必要なのか」「芸術が社会に必要な理由は何であるか」ということを考えることに対し、劇場・ホールはいかにサポートし一緒に考え、その答えを形（作品創り、公演、アウトリーチ・ワークショップ）にし、地域そして世界に伝えていくことが、公立劇場・ホールの役割ではないかということ、改めて考えさせてもらえました。社会変化のなか、多様な価値観と向き合っていかなければならない子供たちにとって、芸術は異なる価値観を受け止め、認め合うことで共通の価値観を見出すことが出来るものであり、表現者との出会いによって新しい人間の生き方を確認することが出来るはずで。そして自由な言葉を持つことで、想像力を喚起させてくれる重要なツールであることを再認識させて貰えた4日間であったと思います。

参加者の皆さん本当にお疲れ様でした。少しでも参考になることが残っていればとてもうれしいです。講師の皆さんを初めグランシップのスタッフの皆さんに改めて感謝いたします。「明日は今日よりいい日が来るように」皆で頑張りましょう。

## ②ゼミ記録

—第1日— 6月25日（火）

ゼミ1 「自己紹介と事業紹介そしてコミュニケーションとは」

講師： 津村 卓

参加者の自己紹介を始める前に、公共劇場・ホールの変遷をハードと事業そしてシステムを併せながら解説した。特に1980年代後半から起こった大きな社会変化によって、始まった事業の変化（子どもを中心としたコミュニティ事業）について説明。その後、コミュニケーションゲームを体験してもらい子どものためのプログラムの必要性について考えた。最後に自己紹介では自分が勤める施設のなかで一番好きな場所を映像で紹介してもらいながら、その仕事ぶり等を参加者全員に話してもらった。



—第2日— 6月26日（水）

ゼミ2 「舞台芸術が子ども達に何ができるのか 芸術サイドから」

講師： 宮城 聡



宮城氏が演劇を通して、子どものプログラムを構築するために持つ3つの視点（①教育機関としての劇場、②地域からの人材流出をくい止め、多様性ある社会をもたらしこと、③観客を創造していく）からアーティストとして現代社会の課題をベースに、その必要性を話してもらい、SPACの芸術総監督として事業を通じてその根拠を説明して貰えたことは、参加者にとって大変理解が出来たのではないかと思います。

ゼミ3 「舞台芸術が子ども達に何ができるのか 多くの事例から」

講師： 吉本 光宏

初めにこの国の現状と将来の課題を、人口構成や産業構造から都市における多様性の重要性等にわたる幅広い内容で解説した後、4つのテーマをもとに芸術が子どもと向き合っている現状を紹介して貰った。①アウトリーチの広がりや定着、②アートから教育を考える、③アート教育の効果、④アートならではの革新的ソリューションの4つのテーマをもとに芸術が子どもと向き合っている現状を紹介して貰った。そして、その効果について多くの事例を紹介して貰った。

#### ゼミ4 「舞台芸術が子ども達に何が出来るのか コーディネーターの役割から」

講師： 吉本 光宏、津村 卓

これまでのゼミのフィードバックを基に、国内で実施されているアウトリーチの現状について、それぞれの課題（子ども達に何を伝えるか等）をピックアップし、参加者と講師で話し合った。またファシリテーターやコーディネーターに求められるものから、劇場・ホールとNPOとの連携等について、そして参加者の持つ疑問や課題を話し合うことが出来た。



—第3日— 6月27日（木）

#### ゼミ5 「舞台芸術が子ども達に何が出来るのか 参加者の事例から」

講師： 津村 卓

ゼミ2,3,4を踏まえた中参加者からそれぞれの劇場・ホールで実施している事例を発表してもらい、参加者全員でその事業の目的やミッションおよび内容について検証した。内容的には作品創造系、公演系、ワークショップ系とそれぞれの施設の特徴が出るなかで、課題の克服について積極的に意見などが出て、充実したゼミとなった。

#### ゼミ6 「舞台芸術が子ども達に何が出来るのか 体験してみる（演劇）」

講師： 多田 淳之介



ファシリテーターを務めてもらった多田氏が、中学生に対し実施しているアウトリーチプログラムを実際に体験してもらった。他者に対してコミュニケーションをいかに取るか、また他者との間でいかに意識を通じ合わせるか等のプログラムから、グループによる表現作業や「走れメロス」の一部を使用し、そのシチュエーションをそれぞれのグループで創造する演劇の持つ要素を使ったプログラムであった。

## ゼミ7 「舞台芸術が子ども達に何が出来るのか 体験してみる（音楽）」

講師： 内藤 裕敬、大石 将紀

演出家の内藤氏と演奏家の大石氏が組み、子ども達に想像力を喚起してもらうことを目的に開発したプログラムを参加者に体験してもらった。絵画を使ってタイトルを自由に考えることをはじめ、いつもと違う見方から想像力を使って遊び、新しい見方を楽しむというプログラムによって参加者が解放されていった。その後を引き継ぎ大石氏が演奏した楽曲を使い聞く側が自由に想像できるプログラムが展開された。最後に演奏された楽曲を自由にイメージし参加者が絵を描くことで表現するという、全ての芸術の持つ想像力の重要性を感じさせてもらった。



## ゼミ8 「舞台芸術が子ども達に何が出来るのか 公演から」

講師： 下山 久

子ども達が良質な作品と出会うことが、いかに大切であるかということを経験者として長年キジムナーフェスタにおいて作品をディレクションしている下山氏からお聞きした。ワークショップも同様だが、子ども達が作品を通して共通体験により、お互いを理解し尊重しあう心を育み、豊かな感性としての想像力・創造力・人間性を育てていくために公演事業の重要性を知ることが出来た。



—第4日— 6月28日（金）

ゼミ9 「舞台芸術が子ども達に何ができるのか 企画を考える」

講 師： 津村 卓

3日間の研修で得たことを各自で整理した。その後で5人一組のグループになり、これからの公共劇場・ホールが子ども達のために、どんなプログラムを企画デザインしていかなければならないか、ミーティングと作業をしよう。



ゼミ10 「舞台芸術が子ども達に何ができるのか 発表と評価」

講 師： 津村 卓

ゼミ9で作った4つのグループから企画デザインして内容をプレゼンテーションしよう。ジャンルに関しては演劇、ダンス、音楽またはコラボレーションと、グループにおいて企画デザインに必要なジャンルを選んでもらった。発表内容は短時間のなかで企画しデザインしなければならぬハンディキャップのなか、子ども達に対し自由な発想を持ち、多様性や想像力・創造力を喚起させるような企画とデザインを作り上げられた。



### 3 共通プログラム

#### 「国立劇場・歌舞伎鑑賞教室」

##### (1) 日時

6月26日(水) 9:30~13:00

##### (2) 内容

###### ① 共通プログラム事前レクチャー「国立劇場と鑑賞教室」付・紅葉狩について

講師 織田 紘二(国立劇場 顧問)

グランシップで4年前から実施している「国立劇場・歌舞伎鑑賞教室」の公演「紅葉狩」を鑑賞するに当たり、国立劇場の鑑賞教室について紹介していただいた。

国立劇場開場当時、名役者が多く存在したにもかかわらず、公演回数も減り、民間だけでは支えきれない状況にあった。それが今日の歌舞伎ブームに国立劇場の鑑賞教室の果たしてきた役割は大きく、地方公演も含むと500万人以上の人々が楽しみ、その中から現在の歌舞伎ファンが生まれているに違いない。

###### ② 「国立劇場・歌舞伎鑑賞教室」

「国立劇場・歌舞伎鑑賞教室」のグランシップ公演。若手俳優による演目や舞台の解説の後、新歌舞伎十八番のひとつでもある歌舞伎の代表的な演目「紅葉狩」を鑑賞。

#### 歌舞伎鑑賞教室「紅葉狩」

第一部	歌舞伎のみかた	解説	中村 隼人 中村 虎之助
第二部	新歌舞伎十八番の内 紅葉狩	出演	中村 扇雀 中村 錦之介 ほか







## IV ステージラボ

### 公立ホール・劇場

### マネージャーコース



## 【研修スケジュール】

第1日 9月4日(水)	13:15	オリエンテーション
	13:30	彩の国 さいたま芸術劇場 視察
	14:00	舞台芸術鑑賞 「ヴェニス商人」(ゲネプロ)鑑賞
	17:00	休憩
	17:45	ゼミ1(90min):『彩の国さいたま芸術劇場—第2の創業 10年の歩み』 講師:竹内文則(公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 理事長) 彩の国さいたま芸術劇場を事例にこれからの公共劇場運営の在り方を考える。(劇場閉館当初からの大きな変化として)蜷川幸雄芸術監督の演出による当劇場プロデュース作品を中心に国内はもとより世界に向けて質の高い舞台芸術を発信していくことにより、地域で劇場の価値が認められ、行政をも動かしてきた10年の歩みについて。
	19:15	休憩
第2日 9月5日(木)	9:30	ゼミ3(150min):『地域発信・地域づくりのケーススタディ』 講師:1. 渡邊英彦(富士宮やきそば学会会長) 2. 深澤公詞(NPO法人駿河地域経営支援研究所理事長) 3. 伊藤せい子(江戸川区総合文化センター館長)  1. 「B-1グランプリ」の全国展開などの仕掛けにより地元B級グルメ「富士宮やきそば」をブランドにまで育て上げた地域づくりの第一人者に地域からの発信の在り方を学ぶ。 2. 医療産業振興を基軸とするファルマバレープロジェクトを推進する一方、沼津市を中心とする静岡県東部地域のエリアマネジメントを立ち上げた深澤氏に地域づくりのヒントを探る。 3. 鎌倉芸術館、神奈川県民文化センター、江戸川区総合文化センターの管理運営にあたる指定管理者制度、地域との連携等について
	12:00	昼食・休憩
	13:00	ゼミ4(120min):『劇場を核とした地域発信・地域活性化・地域づくりの在り方とは?』 講師:竹内文則、渡邊英彦、深澤公詞、伊藤せい子、津村卓(北九州芸術劇場 館長) テーマに沿ったディスカッション形式のゼミ
	15:00	休憩
	15:15	共通ゼミ1-1(105min.):シンポジウム『文化と地域づくり』 モデレーター:野田邦弘(鳥取大学地域学部教授・地域文学科長) パネリスト:佐藤まいみ、竹内文則、柳沢拓哉(八戸ポータルミュージアム コーディネーター)
	17:00	休憩
第3日 9月6日(金)	9:30	ゼミ5(90min):『国の文化行政(文化庁)からの視点—地域主権時代を見据えた公共劇場運営の今後』 講師:小林真理(東京大学大学院准教授) 「劇場法」「アーツカウンシル機能の動向」などをキーワードにこれからの公共劇場運営を考える。
	11:00	ゼミ6(90min):『地域づくりと公共美術館経営』 講師:逢坂恵理子(横浜美術館 館長) 国際交流の様々なシーンで実践し、水戸、横浜等において芸術文化を中心に据えた街づくりに携わった逢坂氏の経験に基づき、「街と美術をつなぐ」について考える。
	12:30	昼食・休憩
	13:30	共通ゼミ2(90min):『アートが商店街を変える—混浴温泉世界の取り組みと中心市街地活性化』 講師:山出淳也(NPO法人BEPPU PROJECT代表理事/アーティスト) 空き店舗を活用したプラットホーム事業や世界的現代アート展「混浴温泉世界」の開催などで別府の中心市街地は活気を取り戻しつつあり、国東半島や大分市にも広がっている。アートのまちづくりの仕掛け人がその秘密を語る。
	15:00	休憩
	15:15	ゼミ7(120min):『グループワーク発表・総括』 講師:竹内文則 事前課題を基に「2030年における公立ホール・劇場のあり方」について、グループワーク及びその発表を行う。
	17:15	修了式(17:30終了)

## ○公立ホール・劇場マネージャーコース

### ① 総 評

コーディネーター 竹内 文則

#### 1) 本研修会の目標

本コースのコーディネーター役をお引き受けするに当たり、まず以下 3 点の動向が頭に浮かんだ。

- (1) これからの日本経済社会のパフォーマンス
- (2) 「日本国のかたち」劇的変化の可能性——地域主権化と道州制
- (3) 「劇場法」施行以降の芸術文化行政の方向性

それを踏まえて、今想定される先行きシナリオを描いてみた（以下【日本経済社会の姿 2030 年】）。自然に浮かび上がってきたキーワードが「芸術文化と地域づくり」である。そこで本研修会の目標を、これからの公共ホール・劇場が求められる 2 つの役割、①創造的な芸術文化のプロデュース機能 ②地域づくり、地域活性化の核としての仕掛け・発信機能 獲得を目指した経営マネジメントの在り方を探ることに置いた。

#### 2) 事前課題：「2030 年の劇場経営」

研修参加者の問題意識を明確化すると共に、相互に摺り合わせて置くことが研修成果達成に不可欠と考える。その場合、今から 17 年後を考えるのではなく、17 年後の日本経済・社会状況、望ましい劇場環境等を次頁の通り想定した上で、

- (1) 其処にたどり着くには現状何が不足しているか
- (2) 今から何をどのように準備しなければならないか、

という視点で皆様の現状の問題意識を明らかにして頂くための事前課題を呈示する。

(設問 1) 2030 年にあなたのホール・劇場が地域で求められる役割は何か。

(設問 2) その役割を担うために今から準備すべきことはどのようなことか。

- (1) 自主事業の内容
- (2) 人材の育成・獲得
- (3) 財源の確保
- (4) その他あなたの劇場ならではの取り組み

### 【日本経済社会の姿（2030年）】

1 日本経済は、アベノミクス成長戦略を契機に、デフレ経済体質から漸く脱却、実質成長率 2%（名目成長率 4%、インフレ率 2%）程度の安定経済成長軌道に乗り始めることで、懸念された財政破綻危機は辛うじて回避出来る見通しが立ち始めた。産業構造も、輸出加工型製造業のみが日本経済を引っ張る従来型から、新エネルギー・スマートグリッド社会関連産業、IT・高度先端技術開発産業、福祉・介護高齢社会サービス、再生医療・創薬産業等が立ち上がり始める一方、農業も六次産業化や輸出型への転換が図られる等大きく変わり始めた。

2 しかしながら少子高齢化社会は急速に進展、国民負担率が 50%近くに上昇、中福祉高負担社会（消費税 15%程度）に突入する一方、手厚い公的扶助型から自助型社会に大きく転換、その結果、様々な分野における格差拡大が一段と進まざるを得なかった。

3 最大の変化が統治機構の改革に向けての動きである。日本国憲法改正を踏まえて明治維新以来の中央集権型を遂に放棄、全国 10 の道州と地方中核都市を中心にした地域コミュニティ（300）が形成する地域主権型体制への変化が起こり始めた。道州が特徴ある地域資源を活用した地域づくり、国際交流を独自に行う体制が整う中、地域間競争が起こり、それがトータル日本経済・社会の活性化をもたらす期待が生まれ始めた。

### 【芸術文化政策の変化の方向】

1 劇場法施行を契機に全国一律の公的支援制度は終了。全国劇場・会館の特性・使命を明確にする一方、事業実態を詳細に精査する。即ち、新しい公的支援体制の説明責任を担保するためアーツカウンシル制度作りが行われる。

2 格差社会が拡大する中、芸術文化を享受するする層が富裕層に偏らない政策を優先して講じる。特に次世代への投資として教育投資芸術文化政策は重要視される。

3 芸術文化支援原資を調達するために、新たなファウンディング機能開発、税額控除システム等導入が検討される。

4 全国劇場・会館の老朽化・大規模改修がほぼ同時期に起こり始める。加えて道州制等統治機構改革が起こり始めるので、地域に求められる劇場機能を再検証した上で改廃、再編が不可欠となる。

### 3) 本研修会の取り組み方とその成果

本コースは、コーディネーター、研修参加者及びゲスト講師によるホール・劇場、フェスティバル等の実践事例を紹介・検証しながら、レクチャーと討議（セミナー）、ワークショップ、舞台芸術鑑賞を組み合わせ実施した。以下 3 点を考慮すれば、本研修会は多大の成果を上げられたといえる。

第 1 は、研修参加者が準備した事前課題に周到に取り組んで頂いたことで、自身のホール・劇場経営課題を鮮明に浮き彫りに出来たことだ。その結果、迫り来るホール・劇場の老朽化、時代ニーズ対応力不足等に悩まされながら手が打てない焦燥感、練り上げた新規企画実現に立ちはだかる法制・行政面幾多の壁、若手人材育成の難しさと共に雇用形態の多様化による組織的求心力低下、そして何よりも厳しくなる一方の予算・資金制約が故に前向き経営戦略が立てられないもどかしさ……等々、研修参加者の問題意識を共有し、課題解決に向け深掘した討論に入って行けたことである。

第 2 は、地域づくりの専門家たちのプロジェクト仕掛け、発信の手法が劇場経営活性化に大いに活用出来ることを実体験したことだ。加えて、教育普及事業、異文化共生プロジェクト、観光・福祉・医療・防災等境界領域とのプロジェクト連携や新たなファンドレイジングの可能性が模索出来たことが大きい。

第 3 は、多様で濃密な 3 日間を体験することで研修参加者・講師間同士で新たな絆、ネットワークが生まれ、それらがこれからの研修参加者の劇場経営にとって大いなる財産となることが確認できた。

## ② ゼミ記録

—第1日— 9月4日（水）

舞台芸術鑑賞：彩の国シェイクスピア・シリーズ第28弾「ヴェニス商人」（ゲネプロ）

（シェイクスピア全37作品を蜷川幸雄演出で上演するシリーズ、1998年スタート）

演出：蜷川幸雄 出演：市川猿之助、高橋克実、中村倫也、横田栄司他

於：彩の国さいたま芸術劇場大ホール

百年前、二世市川左團次が同じシャイロック役で日本の新劇の第一歩を飾った伝説の舞台に、当代猿之助が挑戦する気概を持って臨んだ渾身の本作を研修参加者全員で鑑賞した。見事な蜷川演出が、ジャンルを超えて八面六臂の活躍を続ける猿之助の名演、共演者の迫真の演技を引き出し、研修参加者全員で素晴らしい舞台を堪能した。また、本番と違い蜷川芸術監督を補佐するスタッフ達の機敏な動き等劇場における制作の舞台裏を垣間見ることが出来、3日間の研修スタートとしては格好の舞台芸術鑑賞となった。

### ゼミ1 「彩の国さいたま芸術劇場—第2の創業 10年の歩み」

講師： 竹内 文則

1994年設立した彩の国さいたま芸術劇場・財団は、①高い芸術性を徹底的に追及する ②厳しい競争下の東京圏において存在感を確立することを目指し、芸術専門劇場として音楽、コンテンポラリーダンス、演劇の三分野において世界最高水準のコンテンツを提供してきた。しかし、21世紀に入り、地方にも財政逼迫、官民イコールフットイングの潮流、地域主権体制へのシステム変化等が起こり、劇場・財団を取り巻く環境は激変した。こうした中、2004年度から「第2の創業」として環境変化に対応する三つの改革を進めた。第1は、蜷川幸雄氏を芸術監督に招請することで高い芸術性と採算性を両立させる。第2は、公共劇場としての経営理念・役割の明確化を図るとともに、真の企業体としてのマネジメント改革を徹底する。第3は、さいたまで芸術文化を創造することで地域に根差し、人材育成する劇場になるとともに、世界に向けて日本の芸術文化を発信する拠点となる。いずれも2012年成立した劇場法が目指す拠点劇場の在り方を先取りした改革である。



## ゼミ2 「劇場を核とした芸術文化の在り方—仏リヨンの事例」

講師： 佐藤 まいみ

講師自身が1980年代欧州に在住し、パリ・リヨン等のダンス公演をプロデュースしたり、日本人ダンサーをオーガナイズしていた中で、欧州各都市の行政が如何に芸術文化を大事にし、地域づくりと連動させてきたかを報告する。そうした中、プロデュース・人材育成機能を担う公共劇場こそが芸術文化を担う真の拠点であることを実感する。仏第3の大都市リヨンに例をとると、1983年リヨンドンスビエンナーレを初めて開催、以降30年に亘って続けている。街全体が開催するダンスフェスティバルに向けてハード、ソフトを順次充実させ、市民がそれぞれの思い、仕様で常に関心しながら参画する。しかしその中身は、世界のコンテンポラリーダンスを牽引するほどの最高峰のダンスフェスティバルであることが凄い。そうした地位、基盤を確立しているのは、世界水準の公共劇場の存在なしに考えられない。日本では1989年ヨコハマ・アート・ウェーブを仕掛ける等、行政、業界関係者の努力が続けられる中、遂に神奈川芸術劇場という拠点が出来ることで、世界に向けて日本のダンスフェスティバルの発信が可能になる土台ができ始めたことを評価したい。



—第2日— 9月5日（木）

## ゼミ3 「地域発信・地域づくりのケーススタディー」

講師：(1) 渡邊 英彦

(2) 深澤 公詞

(3) 伊藤 せい子

- (1) 「B-グランプリ」の全国展開等仕掛けで「富士宮やきそば」を全国区ブランドまで育てた渡邊氏は、単なるイベント仕掛人ではなく地域づくりの第一人者。その神髄は、現実のネタ（資源）を言葉で発信することでメディアを惹きつけ、最終的には事業に結び付けてしまうことで、その具体的な手法を呈示する。
- (2) 深澤氏は、地域・まちづくりにおいて、まず確固とした理念・コンセプトを確立させた上で、プロジェクト実現に向けてのシステム構築を周到に進める。医療産業振興を基軸とするファルマバレープロジェクトの立ち上げや静岡県東部地域エリアマネジメントの見事な実績を報告する。
- (3) 伊藤氏は、鎌倉芸術館、神奈川区民文化センター、江戸川区総合文化センター等の管理運営する中で、地域住民と行政が見事に連携したプロジェクト、区民プロデュース企画事業を具体的に紹介する。そうした中で、館長の経営理念・情熱・才覚が劇場の方向性を左右すると指摘する。

#### ゼミ4 「劇場を核とした地域発信・地域活性化・地域づくりの在り方とは？」

パネリスト： 渡邊 英彦、深澤 公詞、伊藤 せい子、津村 卓

コーディネーター： 竹内 文則

1990年代以降求められてきた地域づくりは、その大宗が失敗している。行政・商工会議所が描いた大まかなグランドデザインだけは創るものの、それを実践・プロモートする中で持続システムを構築することが殆ど出来ないからである。渡邊、深澤両氏は、行政を全く頼らず自らの理念を掲げ、勝手連的に自らの資源で達成できるものから着実にスタートして実績を積み上げた結果、行政も後追いで参画するに及んで地域づくりに成功している。伊藤氏は、民間から指定管理者として名乗りを上げる中、単なる劇場管理を超えて地域づくりの核としての



劇場の役割を果たし始めている実例を示した。津村氏は、北九州市と一体となって「創造の場、賑わい創出、人材育成」という役割を目指して新たな地域づくりに踏み込んでいる。十人十色に成り勝ちな地域づくりではあるが、人材育成、未来社会の価値形成を目指す公共劇場の地域づくりには、多くの人々が共感し支持されることになる。

#### ○共通プログラム1-1 シンポジウム「文化と地域づくり」

モデレーター： 野田 邦弘

パネリスト： 竹内 文則、佐藤 まいみ、柳沢 拓哉

まず、芸術文化が持つ潜在的な力が具体的な事例として地域社会をどのように変えていったかについて三人のパネリストが簡単にプレゼンした。柳沢氏は、八戸という地方都市の中心市街地に新しいタイプの文化施設を設立することで、地域資源の見直し、レジデンスアーティストによるアウトリーチ活動等新たな地域情報の発信を積極的に行った。その結果、伝統工芸を含めて新産業のインキュベーションが起り始めていると指摘。加えて、「3・11」による被災地復興への支援基地ともなっていることを報告した。竹内は、大都市拠点



劇場として高い芸術性を世界発信する経営戦略（「ゼミ2」報告）をベースに、世界に二つとない熟年演劇集団（さいたまゴールドシアター＝蜷川芸術監督が育成）をレジデンス劇団として保有し県内外他館とのネットワークを結ぶことで地域に根差し支持される劇場にも踏み出したと報告。佐藤氏は、欧州の地域づくりに果たす公共劇場の役割の大きさ（「ゼミ3」報告）をベースに、近時、劇場ではないオルタナティブスペースが芸術文化づくりに機能し始めている実態を報告した。セミナー参加者からも様々な意見が呈示されとても活発な議論の場になった。シンポジウムのまとめとして、野田氏から「これからの劇場は、常に外と繋がり非劇場中心の芸術文化ともコラボレーションしながら新たな創造に向かうことが不可欠」という結論が出された。



## ○共通プログラム 1-2 「グループディスカッション」

シンポジウムを踏まえ「文化政策幹部セミナー」参加者と共に、A-F まで 6 グループに分かれ、グループディスカッション、発表を行った。

各グループで活発なディスカッション、発表が行われたが、その要旨を集約すると以下 4 点に整理される。

第 1 は、ホール・劇場にとって地域住民からの支持が不可欠であること。そのためには、他館と比較して差別化できる「突き抜けたもの」を生み出すことが肝要。そのことが地域の誇り、財産となって住民の支持を高め館の継続性につながる。

第 2 は、行政、財団等組織との関わり、整合的関係の築き方。県と市（特に政令市の場合は格別）との意向のすり合わせは特に必要。また広域にわたるフェスティバル開催においては、縦割り行政のセクショナリズムを如何に排除するかがポイント。



第 3 は、文化振興支援に対する対象を如何に設定するか。特にプロ、アマどちらの比重をかけるかという議論は最早時代遅れ。新たな基準・理念の下、プロにもアマにもしっかり対象として支援する考え方が必要。加えて新たな次元に立った支援の仕方、例えば社会参加出来にくい人々への支援等。

第 4 は、次の時代に備えての芸術文化分野における人材育成の在り方。財政逼迫を乗り越えて当該分野への投資が最も肝要。

以上、「劇場を核とした地域発信・地域活性化・地域づくりの在り方」における有意義なディスカッションが行えた。

### —第 3 日— 9 月 6 日（金）

#### ゼミ 5 「国の文化行政（文化庁）からの視点—地域主権時代を見据えた公共劇場運営の今後」

講師：小林 真理

2012 年 6 月いわゆる「劇場法」が成立して漸く欧米並みの芸術文化行政を行う基盤が出来た。劇場法は、実演芸術の振興に注力する方向性を示すと共に、全国 2000 にも及ぶホール・劇場のそれぞれの使命・役割に見合った行政支援を行うことが謳われている。大別すると、高い芸術性を追求し世界的発信を目指す拠点劇場、地域ニーズに応え大衆性を重視する地域密着型劇場に分けられようか。しかしいずれの劇場でも人々の社交・触れ合いの場として絆を深めるベース基地としての役割が求められることは確かで、それはホール・劇場に新たな地域づくりの役割が担わされたことを意味する。今後、文化行政としては評価機関としてのアーツカウンシル機能（行政とはアームスレングスの関係が不可欠）充実が必要となる一方、劇場経営は支援を受けるに値する役割を全うしていることの証明が要求される厳しい時代となる。



## ゼミ6 「地域づくりと公共美術館経営」

講師： 逢坂 恵理子



1951年博物館法が成立、調査・研究、収集・保存、企画・展示、教育・普及の4つの役割が明記されている。1970年代美術館ブームが起こり、県のモニュメント的存在として全国に多くの美術館が設立され、主に近代以降の美術品が収集された。1980年代以降になると市制百年記念として水戸、横浜、広島、丸亀等で設立がなされ、収集対象は現代に及び、オリジナリティ溢れる美術館が誕生した。21世紀の美術館は、3つの役割が問われている。

第1は、地域の文化拠点として地域からの発信。それは、美術館・博物館単独ではなく、ビエンナーレ、トリエンナーレ等地域・国際フェスティバルとの連携がなされている。直島、越後妻有、十和田、横浜、愛知等が代表例だが、近時は別府プロジェクトが出色である。

第2は、建築と運営コンセプトの一体化による発信で、金沢21世紀美術館がその代表例、特に世界に向けて発信に注力している。

第3は、欧米に遜色ない博物館発信力の充実である。ルーブル、ポンピドーセンターが擁する学芸員は千人規模、加えて、レジストラ、エディター、グラフィックデザイナー、海外渉外担当、法律家、ファンドレイザー、広報員等関連業務プロが集結する欧米美術館、彼我の差を埋めるべく地道な経営努力が不可欠である。

## ○共通プログラム2 「アートが商店街を変える—混浴温泉世界の取り組みと中心市街地活性化」

講師： 山出 淳也



かつて日本最大の温泉街として賑わった別府が衰退、近隣の湯布院、黒川温泉にとって代わられて久しい。しかし、2005年NPO法人別府プロジェクトが発足して以降、10年足らずして別府は今、全国一の地域づくりの街に生まれ変わっている。別府は今でも日本全国源泉の1割(2508)を有する日本一の湯の町であり、12万人市民の8割が第3次産業に関わり、外国人在住比率も全国トップクラスという個性溢れる街である。空き店舗を活用して世界のアーティストを招致したプラットフォーム事業、世界的現代アート展「混浴温泉世界」開催等で別府の中心市街地は瞬く間に活

気を取り戻し、この街の胎動は、国東半島、大分市等大分県全域に広がり始めている。「混浴温泉世界」という耳慣れない言葉は、「山の中の自然に湧いた湯を見様見真似で風呂に変え、その風呂に様々な人が入ってくる。性別、国籍、文化、宗教、格差もすべて超えて誰もが湯を共有する。そこでのルールは唯一つ、武器を持たず丸裸で。長湯はのぼせるから出てゆくが、この場に皆さんいつでも帰れるように私達が守ります」というメッセージである。まさに「地域づくりの原点」がここにある。

## ゼミ7 「グループワーク発表—2030年における公立ホール・劇場の在り方」

講師： 竹内 文則

A・Eの5グループに分かれて、表記のテーマについて議論し代表者が発表した。各グループから出された意見の中身をまとめると以下の通りとなる。

### 1 地域で求められる役割・施設の在り方等

道州制を想定した全国10程度の地域に、それぞれ地域の中心となる拠点劇場が置かれ、作品の創造・世界発信を行うと同時に人材育成、国際交流等舞台芸術活動全般を牽引する。都道府県単位50程度を想定した中核劇場（地域間競争が起こって周辺中心施設の改廃が行われる）は、拠点劇場が創造した作品提供を受け広域の施設と連携して舞台芸術の普及の主役となる。その外縁に、地域住民が日常的にワークショップをしたり、作品発表するコミュニティー型劇場が地域に根差すことで各種劇場に見合った使命・役割を全うする体制が出来上がる。劇場は「文化の交差点」であり、芸術文化は21世紀社会に生きる日本人にとって不可欠な基本的人権となる。「これからの劇場は、常に外と繋がり非劇場中心の芸術文化ともコラボレーションしながら新たな創造に向かうことが不可欠（野田氏）」という至言も肝に銘ずべきである。

### 2 自主事業の内容

各劇場の役割を意識する中、固有の地域特性を生かした自主事業が創造され、それが更なるノウハウ蓄積を生んで素晴らしい舞台芸術、ワークショップ作品が輩出する。既に、地域に根差した小オペラ、アマチュア音楽祭、シャンソン・フルートコンクール、オペラ歌舞伎等が企画実現し始めている。また、教育普及を意識した子供向け事業、異文化共生プログラム、福祉・医療等境界領域プログラムが開発されていく。そのような中、「ホールが家にやってくる」をキーワードに、デジタル映像配信するライブ劇の提供事業等が生まれ始めている。

### 3 人材の育成・獲得

求められる人材は、最終的にはプロデューサー、クリエイター、アーティスト等だが、地域によってその人材育成・獲得には大きな格差がある。その点、アカデミズムとの協同によって人材育成可能な拠点劇場の役割が取り分け重要。更に日本の芸術文化業界全体を考慮すれば、その貴重な人材を多く創出ししかも流動性に富む組織体制を作り上げることが喫緊の課題である。劇場法成立の一つの重要な役割といえる。

### 4 劇場を支える財源の確保

- ① 経営改革による収益体質強化が大前提、アーツカウンシルや民間助成団体等からの支援受け入れのための態勢整備は不可欠。
- ② 各自治体の財政逼迫は進むので鑑賞普及型の公演事業は厳選される。一方、教育普及型プログラムは手厚く支援されるので当該分野事業の拡充が必要。
- ③ 寄付信託の積極的活用を担当金融機関に從容（その前提として日本全体に寄付文化土壌づくりの啓蒙が必要）、異文化共生、福祉・医療・観光等境界領域プロジェクト組成による他分野からのファンドレイジングの可能性を探る。



V アートミュージアムラボ・

宮城セッション



## 【研修スケジュール】

	1日目(12月4日・水)	2日目(12月5日・木)	3日目(12月6日・金)
主会場	宮城県美術館	東北歴史博物館、せんだいメディアテーク	宮城県美術館
9:00			
10:00		9:30 東北歴史博物館集合 ゼミ4 9:45～11:00(75分) 「宮城県における文化財レスキュー活動について」 講師:小谷竜介(東北歴史博物館副主任 研究員・前宮城県文化財保護課)	ゼミ8 9:30～10:45(75分) 「地域と美術館／支援する側？される側？」 講師:大野正勝(岩手県立美術館学芸普及課長)
11:00		見学 11:10～11:50(40分) 「安定化処置と仮保管の現場」 説明:芳賀文絵(東北歴史博物館学芸員)	休憩(15分程度) ゼミ9 11:00～12:15(75分) 「復興と“アートのおちから”」 講師:伊藤匡(福島県立美術館学芸課長)
12:00		移動 12:00～12:45 東北歴史博物館→せんだいメディアテーク	昼食 12:15～13:15
13:00		昼食 12:45～13:45	
14:00	受付 13:30～14:00 開講式 14:00～14:30 挨拶	ゼミ5 13:45～15:00(75分) 「《3がつ11にちをわすれないためにセンター》の活動について」 講師:甲斐賢治(せんだいメディアテーク活動支援室長)	フリーディスカッション2 13:15～14:45(90分) モデレーター:三上満良、大嶋貴明、甲斐賢治、大野正勝、伊藤匡
15:00	ゼミ1 14:30～15:30(60分) 「震災と美術館① 宮城県美術館」 講師:大嶋貴明(宮城県美術館研究員)	ゼミ6 15:00～16:00(60分) 「震災と美術／美術家①」 講師:タノタイガ(美術家)	修了式 15:00～15:20
16:00	ゼミ2 15:30～16:30(60分) 「震災と美術館② 石巻文化センター」 講師:佐々木淳 (石巻市教育委員会 生涯学習課長補佐) 休憩 (15分程度)	休憩 (15分程度) ゼミ7 16:15～17:15(60分) 「震災と美術／美術家②」 講師:村上タカシ(美術家・宮城教育大学准教授)	
17:00	ゼミ3 16:45～17:45(60分) 「震災と美術館③ リアス・アーク美術館」 講師:山内宏泰 (リアス・アーク美術館 学芸係長)	休憩 (15分程度) ＜事業体験プログラム＞ 17:30～19:30(120分) 「考えるテーブル×地域創造・アートミュージアムラボ」 ファシリテーター:西村高宏(てつがくカフェ@せんだい・東北文化学園大学准教授)	
18:00	フリーディスカッション1 17:45～18:45(60分) モデレーター:三上満良、大嶋貴明、佐々木淳、山内宏泰	移動	
19:00	交流会 19:00～20:30 場所:宮城県美術館内 カフェ・モーツァルト・フィガロ	グラフィック:近田真美子(てつがくカフェ@せんだい・東北福祉大学講師)	
20:00			
21:00			

## ○ アートミュージアムラボ

### ① 総 評

コーディネーター 三上 満良

今回、宮城県で開催したアートミュージアムラボは、「地域とミュージアムをつなぐもの—震災から学ぶ美術館活動の指針」というテーマを設定した。東日本大震災の被災地において、公立のミュージアムや文化施設が、非常事態にどのように対応したのか、そして被災という現実にもどのように向き合ってきたのか、私たちの経験を、このテーマに関心をもっていただいた参加者に伝えたいという思いをもとに、三日間にわたるプログラムを組んだ。

一日目は、先ず、宮城県内の三館の学芸員に、各館の被害状況と被災後の活動の報告をお願いした。報告者からは、地域社会が壊滅するような大震災は、ミュージアムなどの文化施設の存在意義を問い直す契機になった事が語られた。その後で「防災」と「復興」という視点で討議を行ったが、作品や施設の安全対策、来館者の避難誘導など防災に関する技術的な課題とともに、リアス・アーク美術館の「常設展示：東日本大震災の記録と津波の災害史」をめぐって活発な意見交換がなされた。

二日目の午前中は、会場を多賀城市の東北歴史博物館に移し、同館が中心になって実施してきた文化財レスキューについて学んだ。講義の後で修復の現場と、旧館を転用した一時保管庫を見学した。被害の大きさを理解するとともに、レスキュー事業の意義や、地域の文化や文化財を扱う学芸員の責務を再認識することができたのではないかと思う。

午後は、仙台市の文化活動の拠点となっているせんだいメディアテーク（smt）に移動し、震災後にsmtが立ち上げた『3がつ11にちをわすれないためにセンター』の活動報告をお願いした。市民や専門家と協働する震災記録のアーカイヴ事業は、前日に聞いたリアス・アーク美術館の展示とともに、従来のミュージアムや図書館の活動領域の外に、地域の文化施設が担うしごとの広がりや方向性を示唆するプロジェクトとして紹介しなかったものである。

その後に、地域ゆかりの二人のアーティストに、被災地での活動を語ってもらった。一般的に語られる「癒し」とは別の次元で、強大な自然の破壊力を前にして、改めて、アートやアーティストがもっている創造力が問われたことがうかがい知れた。

夕刻から、体験プログラムとして、smtが継続している市民参加事業『考えるテーブル』のひとつである〈てつがくカフェ〉に参加していただいた。本ラボのための特別編だったが、一般市民の参加もあり、震災直後から「人と語り合える場」として機能してきたこの事業の雰囲気や意義を体感し、理解してもらえたように思える。

三日目は、隣接する岩手県と福島県の県立美術館から、「アートのちから」と「支援」をキーワードとして、両県の3.11以後の活動や運営の状況を詳しく報告いただいた。報道では伝わらない被災地の本音を聞くことができたのではなかろうか。

最後に、災害時にもサポーターとして機能するような地域内のネットワーク、人脈づくりについて討議した。ボランティアや友の会などの組織、学校との連携などの可能性



と問題点について、講師と参加者が体験を語りあった。

今回の被災地でのラボは、単なる防災研修、危機管理研修にとどまらず、ミュージアムや学芸員の「地域の文化を守り、創造する」という役割を再考する契機になったのではないだろうか。一方で、もりだくさんのプログラムとなっしまい、会場を提供いただいた東北歴博の展示やsmtの施設を見学する時間もとれず、いささか“おもてなし”の精神に欠けたのでは、と反省している。

最後に、ご多忙のなか、講師をつとめていただいた方々をはじめ、開催にご協力いただいた各位に御礼を申し上げたい。

## ② ゼミ記録

— 第 1 日 — 12月4日（水）

ゼミ 1 「震災と美術館① 宮城県美術館：被災地における“一部損壊”施設の役割」

講 師： 大嶋 貴明



大嶋氏からは、致命的な損傷を免れた宮城県美術館は、震災直後から、速やかに再開館をめざすことが最優先課題となり、日常の回復（＝復興）のシンボルとなったという報告がなされた。また、宮城県がたびたび大地震に襲われ、また巨大地震の発生が警告されていて、「耐震・防災」が重点施策であったために、被害が軽減されたという見解が述べられた。美術作品の保護や、施設・設備の安全対策、文化財レスキューの組織づくりなどは、阪神淡路大震災の経験に多くを学んでいたが、復興のプロセス

までは論議されてこなかったことに言及し、被害データだけでなく運営の記録も蓄積して、共有化することの重要性が指摘された。

ゼミ 2 「震災と美術館② 石巻文化センター：“全壊”という事態」

講 師： 佐々木 淳

石巻文化センターは、津波に襲われて学芸員 1 名が行方不明のままで、収蔵品も流失、損傷し、同じ場所での再開が困難として取り壊された。震災時に同センター学芸員だった佐々木氏から、当時の生々しい状況を聞いた。「大災害時、市町村立の博物館職員は住民対応に回されるので、自館のケアはできないと思うべき」

「職員がなすべき事は、先ず自分自身の安全確保。次に来館者の安全確保。三番目が資料（作品）の安全確保である」「海岸線から 5 km 以内の博物館は津波対策が必要。

2 km 以内に博物館を建てるべきではない」といった教訓が語られた。



### ゼミ3 「震災と美術館③ リアス・アーク美術館：“大規模半壊”の後に」

講師： 山内 宏泰



リアス・アーク美術館は津波を免れたものの建物の損傷が大きく、また広域行政組合として館を運営する気仙沼市と南三陸町が壊滅的被害をうけ、長期閉館を余儀なくされた。山内氏は、震災以前から「津波災害史」をテーマにした展示企画や執筆活動を行っており、閉館中の業務として、被害調査記録活動を立案し、従事した。公務として撮影した写真や収集した被災物に、学芸員が自分の思い出や感想を、方言を交えて

“主観的”に綴ったテキストを付し「常設展示：東日本大震災の記録と津波の災害史」をつくりあげた。美術館の常設展示に一石を投じたこのプロジェクトへの思いと、再開館までの道程を聞いた。

#### ●フリーディスカッション1「1日目のまとめ」

モデレーター： 三上 満良、大嶋 貴明、佐々木 淳、山内 宏泰

ラボ参加者には、予め所属館の防災上の課題を洗い出してもらっていた。3名の報告者を交えて、展示品の安全を確保するための技術、備蓄すべき物資、帰宅困難者対策、指定管理者と設置者である自治体間の連絡体制や責任分担などについての質疑応答が行われた。

またリアス・アーク美術館が提起した“主観的展示”について、「違和感をもった」「学芸員の作品ではないか」と

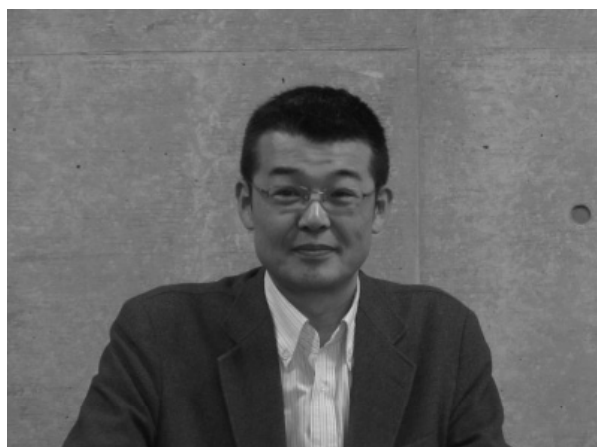
いう意見が出た。これに対して、山内氏はここに至るまでの活動の軌跡を語り、「地域内で、技術をもった人間ができることをやるのは当然のこと。地域の記録や記憶を留めることは地域社会からリアス・アーク美術館に要請された仕事であり、頼まれたものは自分の作品ではない」と答えていた。賛否両論のある展示だが、学芸員のしごとを改めて考えさせるものとして、参加者の記憶に刻まれたことだろう。



－ 第 2 日 － 12月5日（木）

ゼミ 4 「宮城県における文化財レスキュー活動について」

講 師： 小谷 竜介



震災時に宮城県文化財保護課に在籍し、文化庁が主導した文化財レスキュー事業において、本県側の窓口となり、現地コーディネーターの役割を果たした小谷氏に、事業の概要を説明いただいた。今回、レスキュー活動を行う上で大きな問題となったのは、津波で水損した文化財の一時保管場所だったという。広域的な救援体制の構築とともに、万一の被災に備えて収藏品台帳のバックアップを作成することや、人事異動によって収藏品管理者が不在となる事態を

避けるなど、日常的な危機管理が重要であることも指摘された。

●見 学「安定化処置と仮保管の現場」（東北歴史博物館）

案 内： 小谷 竜介、芳賀 文絵

東北歴史博物館内の保存処置室で、民俗分野を専門とする小谷氏と、保存科学を専門とする芳賀氏の説明を受けながら、津波によって水損した民俗資料の脱塩処理や防錆処置作業の現場を見学した。その後、被災した資料の一時保管庫となっている分館の浮島収蔵庫にバスで移動し、庫内を案内いただいた。被災した文化財の種類と物量に驚かれたようだが、各地にこうした仮保管施設が多数存在しているという説明があり、被害の大きさとレスキューの作業量を改めて認識してもらったのではなかろうか。



## ゼミ5 「《3がつ11にちをわすれないためにセンター》の活動について」

講師： 甲斐 賢治

「美術や映像文化の活動拠点であり、人々がメディアを通じて情報を交換できるようお手伝いをする公共施設」と自らの役割を定義するせんだいメディアテークは、震災後に、市民や専門家と協働して被災の記録を集め、復興の過程を発信するプロジェクト《3がつ11にちをわすれないためにセンター》(略称：わすれん <http://recorder311.smt.jp/>)を立ち上げた。その企画立案者である甲斐氏に、市民の私的映像(著作物でもある)を蓄積し、Web上に発信する公的なアーカイブ事業がもつ意義と可能性、そして、バーチャルな震災資料館を運用していく上での課題についてお話いただいた。



## ゼミ6 「震災と美術／美術家①」

講師： タノタイガ



タノタイガ氏は、現在は東京在住だが、仙台で育ち、ここを拠点に活動してきた美術家。作品のチャリティーオークションやワークショップなど「美術」の制度を介した支援に違和感をおぼえ、津波の被災地で、最も人手を必要としていた流入物の片付け作業を手伝い始める。個人の信念から始まった労働奉仕は、タノ氏のネットワークを通して情報が広がり、《タノンティア》(たのしく or タノタイ

ガのボランティア)と命名されるボランティア活動プロジェクトとなって賛同者を増やしていった。誰もが参加でき、被災地で意気消沈せずに達成感を得られるユニークで創造的なシステムを構築していった過程と、ポジティブな活動の様子を報告していただいた。

## ゼミ7 「震災と美術／美術家②」

講師： 村上 タカシ

モノではなくコトをつくる美術家だという村上氏は、地域社会やコミュニティを対象にしたアート・プロジェクトやワークショップを各地で展開している。自身もNPOの代表をつとめており、震災直後から、同じアート系NPOだけでなく、福祉系NPOや民間企業と連携し、学校や仮設住宅などで、さまざまな復興支援活動を行ってきた。津波の到達点に桜を植樹していく《桜プロジェクト》、仙台市内の仮設住宅地における福祉&コミュニティ活性化事業《アート・インクルージョン》、震災の記憶を留める被災物を集集し、保存・公開する《3.11メモリアルプロジェクト》など村上氏が企画したプロジェクトを紹介いただいた。



### ○事業体験プログラム 「考えるテーブル×地域創造・アートミュージアムラボ」

テーマ： 「見たいものと見たくないもの」

ファシリテーター： 西村 高宏

ファシリテーショングラフィック： 近田 真美子

せんだいメディアテークで開催している『考えるテーブル』は、震災復興や地域社会、表現活動について語り合う事業。椅子やテーブルとして使っている箱（豊嶋秀樹氏デザイン）は、黒板としても使える。ラボ参加者には、この事業のレギュラープログラムの



ひとつを体験していただいた。〈てつがくカフェ〉は、わたしたちが自明とと思っている事柄について、他者との対話を通して認識を再検証してゆくことの難しさと楽しさに浸る集まりある。今回のテーマは、学芸員の研修という観点から、震災の記録映像や震災遺構の問題、広島平和記念資料館の展示をめぐる論議をもとに設定したものであり、一般市民も交えて、2時間にわたり対話を重ねた。3.11以降、人々が語り合う場として機能してきた場の空気に触れられたのではと思う。

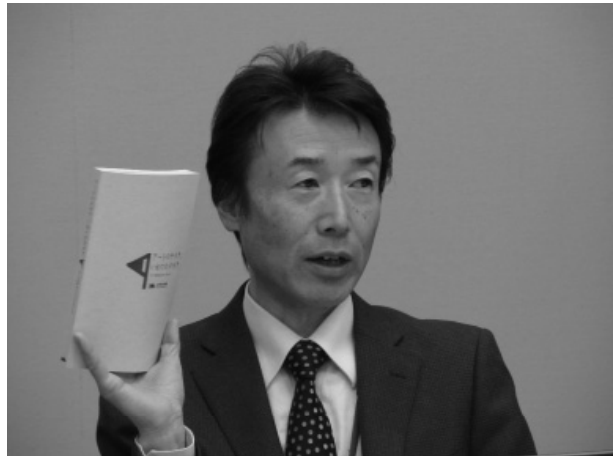
なお、このプログラムは、宮城県美術館やせんだいメディアテークなど仙台圏のミュージアム、文化施設が連合するSMMA(仙台・宮城ミュージアムアライアンス)との共催で実施された。

－第3日－ 12月6日（金）

ゼミ8 「地域と美術館／支援する側？される側？」

講師： 大野 正勝

岩手県立美術館は、震災後に事業予算をカットされたが、「アートのちから、いわてのタカラ」をテーマに掲げて活動を続けた。震災直後に教育プログラム「アートデオヤコ」のアウトリーチ版「あーとキャラバン」を被災地で開催し、この「『ゆめのまち』ができるまで」と名付けたワークショップは、その後も館の内外で展開された。また、開催不能となった特別展に代わって、地元の若手作家に協力を要請し『IMA ここで』展をつくりあげるなど、非常事態の中で、支援する側と、される側両方の立場を経験した。大野氏は、「さまざまな場面で、作家や教員、ボランティアとの協働が大きな力となった。そして関わった人々が皆元気になった」と振り返った。



ゼミ9 「復興と“アートのちから”」

講師： 伊藤 匡

伊藤氏からは、まず原発事故の影響下にある福島県の現状が報告された。発災から二ヶ月後に、『スタジオジブリ・レイアウト展』を再開したところ、予想に反して大勢の来館者が集まり、また 2013年の『若冲が来てくれました・プライスコレクション展』では観覧者数の記録を大幅に更新したという。一方で、県内美術館の優品を集めた復興支援展や、福島で作品を制作した現代作家展には観客が集まらず、美術館と市民との距離は変わっていないという指摘があった。また、支援として実施されるワークショップへ動員されることに、子どもたちが食傷している状況もあり、福島県美は、地域の実情に配慮した学校連携事業を、丁寧に進めていることも報告された。



●フリーディスカッション2「研修全体のまとめ」

モデレーター： 三上 満良、大嶋 貴明、甲斐 賢治、大野 正勝、伊藤 匡



岩手県美と福島県美が行ってきたワークショップやキッズプロジェクトの事例報告を受け、地域内において、連携できる学校の教員や、サポーターとなりうるボランティア、友の会、協力会といった組織について、協働の可能性と問題点を探った。ラボの参加者には、事前課題として、所属館における館外のサポート組織の有無や、問題点を記入してもらっていた。支援体制づくりは、三日間のラボを通じてより身近になった課題である。災害時という想定を離れて、日常に立ち戻り、講師をつとめてい

ただいた方々と参加者が、自身の経験や具体例を上げながら進むべき方向を語り合った。



VI ステージラボ・

長崎セッション



■2月18日(火) 第1日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	自主事業Ⅰ(音楽)コース	自主事業Ⅱ(演劇)コース
	コーディネーター 大月 ヒロ子 (有限会社アイデア 代表取締役 ミュージアム・エデュケーション・プランナー)	コーディネーター 児玉 真 (いわき芸術文化交流館アリオス チーフプログラム オフィサー 財団法人地域創造 プロデューサー)	コーディネーター 内藤 裕敬 (劇作家・演出家 南河内万歳一座 座長)
主会場	3F 会議室4・5	2F 練習室1	2F 練習室2
9:00			
10:00			
11:00			
12:00			
13:00			
13:30	受付 会場: 3Fラウンジ		
14:00	14:00 オリエンテーション・施設見学等 会場: 国際会議場ほか		
15:00			
16:00	15:00 ゼミ1「導入ワークショップ」 講師: 大月 ヒロ子 会場: リハーサル室	15:00 ゼミ1「自己紹介とワールドカフェ」 講師: 児玉 真 会場: 練習室1	15:00 ゼミ1「演劇コブラツイスト1」 (アイズブレイク) 講師: 内藤 裕敬 会場: 練習室2
17:00	17:30		
18:00	17:45 ゼミ2「パフォーマンスを学ぶとは」 講師: 篠田 守男(彫刻家・筑波大学名誉教授) 会場: リハーサル室		
19:00	休憩(15分程度)	休憩(15分程度)	休憩(15分程度)
20:00	19:00 全体交流会 会場: 長崎ブリックホール1F 「レストランカフェ VINTAGE」		
21:00			
22:00			

	ホール入門コース	自主事業Ⅰ(音楽)コース	自主事業Ⅱ(演劇)コース
主催者	コーディネーター 大月 ヒロ子 (有限会社アイデア 代表取締役 ミュージアム・エデュケーション・プランナー)	コーディネーター 児玉 真 (いわき芸術文化交流館アリオス チーフプログラム オフィサー 財団法人地域創造 プロデューサー)	コーディネーター 内藤 裕敬 (劇作家・演出家 南河内万歳一座 座長)
主会場	3F 会議室4・5	2F 練習室1	2F 練習室2
9:00			
10:00	9:30 ゼミ3「いわきという地域に根ざした活動を作る」 講師:長野 隆人(いわき芸術文化交流館アリオス 広報グループチーフ) 会場:会議室4・5	9:30 Omeza Think About (チケットはキャンセルできない?)	9:30 ゼミ2「演劇コブラツイスト2」 (映画鑑賞) 講師:内藤 裕敬、仲道 郁代(ピアニスト)、 荒谷 清水(俳優)、坂口 修一(俳優)、 太田 清伸(俳優) 会場:練習室2
11:00		10:15 ゼミ2「アウトリーチの歴史と課題」 講師:児玉 真 会場:練習室1 11:45	
12:00	昼食		
13:00	13:00 ゼミ4「活動の中で考えたこと」 講師:中村 茜(株式会社precog 代表取締役) 会場:会議室4・5	12:45 ゼミ3「アウトリーチのその先1」 講師:千葉真弓(北上市文化交流センター さくらホール) 会場:練習室1	13:00 ゼミ3「演劇コブラツイスト3」 (レポート作成) 講師:内藤 裕敬、仲道 郁代、荒谷 清水、 坂口 修一、太田 清伸 会場:練習室2
14:00		14:15 ゼミ4「アウトリーチのその先2」 講師:菱川 浩二(多治見市文化会館課長代理) 会場:練習室1	休憩(15分程度)
15:00	休憩(15分程度)		15:15 ゼミ4「演劇コブラツイスト4」 (キャッチコピー創り) 講師:内藤 裕敬、仲道 郁代、荒谷 清水、 坂口 修一、太田 清伸 会場:練習室2
16:00	15:15 ゼミ5「ディスカッションとワークショップ」 講師:長野 隆人、中村 茜、大月 ヒロ子 会場:和室1	15:45 ゼミ5「アウトリーチのその先3」 講師:中本 正樹(小美玉市生活文化課 四季文化館みの〜れ・小川文化センターアピオス) 会場:練習室1	
17:00	15分休憩		
18:00	17:30 共通プログラム 「参加者全員で、フラッシュモブを体験」 講師:森下 真樹(振付家・ダンサー)、笠井 晴子(ダンサー・表現者)、 山崎 麻衣子(ダンサー・振付家)、ヤマウキ タカミツ(アートディレクター) 会場:国際会議場、JR長崎駅前「かもめ広場」(予定)		
19:00			
20:00			
21:00			
22:00			

■2月20日(木) 第3日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	自主事業Ⅰ(音楽)コース	自主事業Ⅱ(演劇)コース
	コーディネーター 大月 ヒロ子 (有限会社アイデア 代表取締役 ミュージアム・エデュケーション・プランナー)	コーディネーター 児玉 真 (いわき芸術文化交流館アリオス チーフプログラム オフィサー 財団法人地域創造 プロデューサー)	コーディネーター 内藤 裕敬 (劇作家・演出家 南河内万歳一座 座長)
主会場	3F 会議室4・5	2F 練習室1	2F 練習室2
9:00			
10:00	9:30 ゼミ6「出島再開発にまつわる文化事業」 講師:岩永 貴博(長崎市経済局文化観光部出島復元整備室 係長)、福田 修志(F's Company 代表/劇作家・演出家)、篠崎 雅(俳優)、田中 俊亮(俳優)、松本 恵(俳優) 会場:出島〜長崎ブリックホール	9:30 Omeza Think About (アウトリーチはなぜ少人数?) 10:00 ゼミ6「アウトリーチのその先4 地域から見たアートマネージメントとコミュニティプログラム」 講師:大澤 寅雄(株式会社ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室 准主任研究員) 会場:練習室1	9:30 ゼミ5「出島再開発にまつわる文化事業」 講師:岩永 貴博(長崎市経済局文化観光部出島復元整備室 係長)、福田 修志(F's Company 代表/劇作家・演出家)、篠崎 雅(俳優)、田中 俊亮(俳優)、松本 恵(俳優) 会場:出島〜長崎ブリックホール
11:00			
12:00			
	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
13:00			
14:00	13:00 ゼミ7「劇場やホールの運営に必要な法的知識」 講師:水野 祐(弁護士・Arts and Law 代表理事) 会場:会議室4・5 14:20 14:30	13:00 ゼミ7「地域演奏家から見たアウトリーチ1 模擬アウトリーチとワークショップ」 講師:柴田 健一(長崎、ソニックポーンミュージック代表、トロンボーン奏者)、月岡 翔生子(福岡、ピアニスト) 会場:国際会議場	13:00 ゼミ6「演劇コブラツイスト6」(WS) 講師:内藤 裕敬、仲道 郁代、荒谷 清水、坂口 修一、太田 清伸 会場:リハーサル室
15:00	ゼミ8「こんなときどうする?」 講師:水野 祐 会場:会議室4・5	休憩(15分程度)	休憩(15分程度)
16:00	休憩(15分程度)	15:15 ゼミ8「地域演奏家から見たアウトリーチ2 文化会館と町と音楽」 講師:柴田 健一、新崎 誠実(沖縄、ピアニスト) 会場:練習室1	15:15 ゼミ7「演劇コブラツイスト7」(WS・ストーリー作成) 講師:内藤 裕敬、仲道 郁代、荒谷 清水、坂口 修一、太田 清伸 会場:リハーサル室
17:00	16:15 ゼミ9「民俗芸能から眺める地域と公共ホールの未来」 講師:大澤 寅雄(株式会社ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室 准主任研究員) 会場:会議室4・5	17:00 ゼミ9「アウトリーチで街をデザインするプラン作り」(グループワーク) 講師:児玉 真、中本 正樹、千葉 真弓、菱川 浩二 会場:練習室1	休憩(15分程度)
18:00	休憩(15分程度)		18:00 ゼミ8「演劇コブラツイスト8」(WS・ストーリー作成) 講師:内藤 裕敬、仲道 郁代、荒谷 清水、坂口 修一、太田 清伸 会場:リハーサル室
19:00	18:30 ゼミ10「参加者とディスカッション」 講師:大月 ヒロ子、長野 隆人、中村 茜、水野 祐、大澤 寅雄 会場:ラウンジ	19:00 番外ミニコンサート 「新崎誠実ミニコンサート」 会場:国際会議場 19:40	
20:00			
21:00	20:30		20:30
22:00			

■2月21日(金) 第4日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	自主事業Ⅰ(音楽)コース	自主事業Ⅱ(演劇)コース
	コーディネーター 大月 ヒロ子 (有限会社アイデア 代表取締役 ミュージアム・エデュケーション・プランナー)	コーディネーター 児玉 真 (いわき芸術文化交流館アリオス チーフプログラム オフィサー 財団法人地域創造 プロデューサー)	コーディネーター 内藤 裕敬 (劇作家・演出家 南河内万歳一座 座長)
主会場	3F 会議室4・5	2F 練習室1	2F 練習室2
9:00			
10:00	9:30 ゼミ11「グループワーク」 講師:大月 ヒロ子 会場:会議室4・5	9:30 Omeza Think About ( )	9:30 ゼミ9「演劇コブラツイスト9」 (ディスカッション) 講師:内藤 裕敬、仲道 郁代、荒谷 清水、 坂口 修一、太田 清伸 会場:練習室2
11:00		10:00 ゼミ10「アウトリーチで街をデザインする プラン作り」(グループワーク) 講師:児玉 真、中本 正樹、千葉 真弓、 菱川 浩二 会場:練習室1	
12:00			
13:00	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
14:00	13:00 ゼミ12「発表と振り返り」 講師:津村 卓(北九州芸術劇場館長兼 プロデューサー、財団法人地域創造 プロデューサー)、大月 ヒロ子 会場:会議室4・5	13:00 ゼミ11「発表と話し合い」 講師:児玉 真、中本 正樹、千葉 真弓、 菱川 浩二 会場:練習室1	13:00 ゼミ10「演劇コブラツイストまとめ」 (総合的まとめ) 講師:内藤 裕敬、仲道 郁代、荒谷 清水、 坂口 修一、太田 清伸 会場:練習室2
15:00	14:30 アンケート記入・休憩・移動	14:30 アンケート記入・休憩・移動	14:30 アンケート記入・休憩・移動
16:00	15:00 修了式 会場: 国際会議場		
17:00			
18:00			
19:00			
20:00			
21:00			
22:00			

## 2 各コースについて

### (1) ホール入門コース

#### ① 総 評

コーディネーター 大月 ヒロ子

時代とともに、複雑化し、広がっていくホールの仕事。新人のスタッフが置かれている環境も、決して良いものばかりではない。うえに、しなければならぬ仕事は、どうやらたくさんありそう…。そういった現場に入り、さあて、これからどうしたものかと、不安に思っている人たちが、この入門コースに全国津々浦々から集ってくる。一人では何ともしがたい組織の問題や、どのように地域とつながればいいのか皆目見当がつかなくなったり、仕事の範囲はどこまでなのだろうと、周りを見渡しながらかん断がつきかねている人も多いはず。

長年ホールの仕事を手掛けてきた方々に向けてであれば、知らず知らずのうちに凝り固まった観念や、常識と思込んでいるものを、一度疑い、解体し、開放し、新たに組みなおすようなプログラムも良いだろうが、まだまだ始まったばかりで入り口にたたずんでいる参加者の方々に向けてであれば、ともかく、丁寧な今の状況を見つめ、同じ仕事をする仲間と仲良くなり、悩みをシェアし、明日の仕事から、即、役立つであろう基本的な知識を注入し、さらには、今後もサポートしていただだけそうな専門家の方々ともしっかりと知り合ひ、何かあれば相談に乗ってもらえるようにする事が、まずは大切と考え、今回の講師の人選やプログラム内容となった。

ラボは座学が中心となったが、まずはかるく参加者自らが話すことからスタート。話せば話すほど、環境の違いや、悩みの内容、課題などが驚くほどさまざまであることが分かってくる。それぞれの状況や抱えていることを少しずつ紐解いていき、きれいに並べていくと、共通点や差異もわかりやすくなる。

繰り返し、繰り返し、互いに話すこと。そして仲間として仲良くなること。入門コースは始めから終わりまでそれに尽きたとっていいだろう。ただ、マイナスの要素についてだけ語るのではなく、そこから、プラスをはじき出す仕組みや心構えについても何かのヒントがあったなら幸いだ。

さまざまな職場を経て、なぜかホールの担当になった参加者がいらしたけれども、全く分野の違う職場で経験したことさえも、ホールの運営には大いに役立つ。ホスピタリティー、危機管理、運営、経営、広報…。

最終日には早速フェイスブックでのグループも立ち上がり、終了後も、互いにアドバイスをし合ったり状況報告をしたりと、参加者、講師の交流が続いている。悩みや疑問は抱えたままにしないで、ぜひこのラボで得た仲間とシェアしてほしいと思う。

最終日の午前中、お日様の光が差し込むブリックホールの部屋で、チョコチョコキハリハリした、振り返りの時間に生まれた、これからの自分、これからの仕事のイメージカラーが、少しずつ現実となっていきますように。

このラボの進行をサポートして下さった講師の皆様、長崎ブリックホールや市の皆様、地域創造の皆様、また、なにより非力なコーディネーターに最後までついて来て下さった参加者の皆様にお礼申し上げます。

地域という場所をどう読み解いていくかは、これからの時代にととも大切になってくるだろうと思われる。都市部集中ではなく、分散型の暮らしや情報のあり方など、これまでになかったシステムが立ち現れてくるのではないだろうか。今回のラボには日本各地からのご参加があった。講師の方々もそういったプロジェクトをおこなっている。時間を作り、それぞれの現場・地域を訪れてみていただけるとありがたい。聞くと見るではもちろん違う。見ると自ら行うというのも、さらに違う。リアルな現場同士の交流が生まれると素敵だと思っている。

## ②ゼミ記録

—第1日— 2月18日(火)

ゼミ1 「導入ワークショップ」

講師： 大月 ヒロ子

参加者同士、それぞれのバックグラウンドや現在の仕事内容などを知り、4日間のプログラムが有効に働くようにベースを整えるためのワークショップを行った。地域の廃材を集めて、整理分類して創造的な活用を目指すクリエイティブリユースの活動から生まれた廃材写真を使って、自己紹介や、お話づくりを行った。最後にはグループに分かれ、廃材写真を投影しながらのプロジェクションシアターを作成。参加者自身が持つ意外な視点や興味などが如実に表れ、互いに発見も多かった。



休憩（ご当地自慢・スイーツカフェ）

参加者の地元から持ち寄られたお菓子がずらりとならぶこのコーナーは、ラボ最終日まで十分にみんなの、舌と心を幸せな気持ちで満たしてくれた。すでにファンとなっている和菓子、見たこともなかった珍しいお菓子をつまみながら話が弾む。

ゼミ2 「パフォーマンスを学ぶとは」

講師： 篠田 守男

筑波大学の芸術学群総合芸術学科の篠田守男クラスではどこよりも早くパフォーマンスという授業が行われていた。なぜそれが必要だったのか、それを体験することにより学生は何を獲得したのかを振り返る予定だった。



が、お話はもっと大きな視点から始まった。分野の縦割り、行政の縦割りについて、それに横串を刺していく必要性や、学校教育については新たな教科の組み上げが、さらには、異ジャンルがともに協働する新たな世界についての提案もあった。医療とアート、デザインと医療など、すでに走り出しているプロジェクトもあるが、視点を切り替えることによってホールやアートについても新しく見えてくるもの、生まれてくるものがありそうで、可能性を感じた。



—第2日— 2月19日(水)

### ゼミ3 「いわきという地域に根ざした活動を作る」

講師： 長野 隆人

「福島県いわき市の老若男女と、いわき芸術文化交流館による取り組みを手がかりに、地域の方々との協働のあり方と、地方の公立文化施設で働く人間に求められるものは何かを考えます！」という宣言通りに、ち密でいて、なおかつ多方向からのアプローチが功を奏している広報戦略、高校生など若い世代とどのように協力関係を結び、彼らの力をいかに花開かせるかのチャレンジを、豊かな事例と共にお話しいただいた。普段は見落としがちなる通路空間なども有効活用し、市民参加型の企画のあれこれが、どれも血の通った暖かさを持っているのが魅力的だった。



### ゼミ4 「活動の中で考えたこと」

講師： 中村 茜



今後のさらなる可能性を見たように思う。

これまでのご自身の活動をふまえて、劇場やホールが抱える問題や可能性を、外側からの視点で分析するというなかで、特に国東でのツアーの一部始終を丁寧に語っていただいたのが印象的だった。日本の各地に存在する魅力的な辺境をどう読み解いていくのか、地域が持つ宝物をどう引き出すのか、そしてその地域の人々とどう協力するのか。もちろん課題は多いものの、豊かな地域性の中でアートだけではないスペクタクルとしての出来事を、いかに自然に寄り添ったかたちで出現させるかという新しいタイプのアートプロジェクトに、

## ゼミ5 「ディスカッションとワークショップ」

講師： 長野 隆人、中村 茜、大月 ヒロ子、大澤 寅雄 参加者とともに各地の現状を紐解く。

ゼミ3、4の講師の方に加えて、ゼミ9の大澤氏も交え、参加者それぞれが、ゼミ4までを振り返りつつ、各自の抱える問題を語った。地域のとらえ方、ホールが置かれている場所としての環境など。入門コースとはいえ、参加者の経験年数はまちまちで、全く初めての社会人としての職場がホールである方から、いろんな職場を経てやってきた方もいて千差万別。画一的でないところで、互いの持ち味を認め合える状況が生まれやすかったように思う。



## 共通プログラム

### 「フラッシュモブ」

座学がメインであった2日間の最後が、踊りということで、参加者は体を動かす楽しさにはまったようで、一気に清々しく生き生きとした表情となったのが印象に残っている。ブリックホールでの練習で参加者の気持ちに火がついたあと、大勢で移動しての駅前広場。寒い中実施時間を待つのも、どんな風な展開になるかを考えると、ちょっと楽しい。一般の通行人の参加は少なかったが、報道陣に撮影された映像はその日のうちにニュースとなりお茶の間に流れ、新聞の紙面を飾った。

—第3日— 2月20日(木)

### ゼミ6 「出島再開発にまつわる文化事業」

講師：岩永 貴博、福田 修志、篠崎 雅、田中 俊亮、松本 恵

以前は参加者と同じ仕事についていた岩永氏のお話は、とても分かりやすく、出島や文化行政についての説明や、オペレッタを初めて上演した出島にまつわるエピソードなど興味深かった。また当時の演目を短い芝居にしたものを、出島のシアターで地元の劇団が上演するというプログラムは、演劇人と観光、文化行政のリレーションとしての新しい事例でもある。その可否はそれぞれあるだろうが、ただ再現展示を見るだけではなく、実際に役者さんによって物語がたちあられることにより、観客が理解の深度をのぼすことができるのは、良い点なのではないだろうか。



### ゼミ7 「劇場やホールの運営に必要な法的知識」

講師：水野 祐



Arts and Law 等で、アーティストやその境界の世界の人々を法的な面から支援する水野氏が、劇場やホールの現場で知っておきたい法的な知識を、やさしく解説。さまざまな新しく興味深い事例を取り上げながら、それはどのように解釈できるのか、なにか知らぬ間に法に触れたり、権利を主張できなくなる場合はあるのか？などのお話をされた。法律は人が作っていくもの。意外にグレーゾーンやボーダーが多いのもそのせいだろうか。手がけているアートセンターでの弁護士の仕事についても説明があり、協働の仕事がさらに増えて

いく今後の社会では、基本的な法的知識は欠かせないものに。

## ゼミ8 「こんなときどうする？」

講師： 水野 祐

いくつかの身近に起こりうる事例を、グループに分かれて、ジャッジ。このワークショップを通して、法務や著作権の検証を行った。音楽や演劇、ダンス、美術などの分野を超えた表現も増える中、実務の中で陥りやすいミスはどのようにすれば防ぐことができるのだろう。ホールや文化センターで、日常的に行われていそうなあまりにも身近な事例に参加者も苦笑い。さらにジャッジも微妙に違ったりということが、逆に勉強になったと思う。



## ゼミ9 「民俗芸能から眺める地域と公共ホールの未来」

講師： 大澤 寅雄



日本各地に古くから伝わるお祭りや芸能を追って、記録映像を撮られている大澤氏。そのお宝映像をとくと拝見した。前から後の世代に受け継ぎ、またそれをさらに変化させつつ、地域の「アイデンティティ」を形成している民俗芸能の不思議な面白さとカッコよさ。そこに流れる濃密で質の高い芸能、技術に圧倒されたゼミだった。地域とは何か。そしてその地域に存在する公共ホールとは何か。未来には何を残すべきなのか。いろいろなことを考えさせられる貴重な時間となった。

## ゼミ10 「参加者とディスカッション」

講師： 大月 ヒロ子、長野 隆人、中村 茜、水野 祐、大澤 寅雄

場所をゴージャスなラウンジに移し、この際言いたいことは全部言ってしまう！ということで、バトルロイヤルトークセッションを試みましたが、やや大人しめに終始しました。アートの毒性にも話が及び、それも含めて取り扱うこととなるホール担当者の覚悟というものを、今一度考えさせられるような場面もありました。



—第4日— 2月21日（金）

ゼミ11 「参加者とディスカッション」

講師： 大月 ヒロ子

このラボの3日間を振り返りながら、自分のこれまでとこれからをイメージして、それをコラージュでの表現にチャレンジ。いろいろな雑誌や新聞紙などを使って、チョキチョキ、ペタペタ。始まった途端、すごい勢いで



で手が動く人もいれば、ゆっくりエンジンがかかる人もいて、さらには、それぞれの個性がはっきりと出てきて見ごたえのあるものに仕上がっていった。これまでを表したコラージュはかなりシビアな言葉やビジュアルが盛り込まれていて、それぞれの現場の問題点が目で見えてわかるようになっていたのも驚いた。

ゼミ12 「発表と振り返り」

講師： 津村 卓、大月 ヒロ子

コラージュに託する思いに加え、表現の面白さが際立ってきたので、ゼミ11を延長してこの最後のコマも制作に充てた。参加者のこれからを表現したコラージュには、明るい要素も入り、今後やっていきたい具体的なメニューなども垣間見れて良かった。振り返りの時間には、それぞれが自分自身の作品を解説した。中には立体作品になったものまで出現し、参加者の表現意欲が解き放たれた感があった。参加者自身による解説を受けて、講師の津村氏や長野氏からは最後のエールがおくられた。

## (2) 自主事業Ⅰ (音楽) コース

### ① 総 評

コーディネーター 児玉 真

今回は比較的若い世代を中心に少数とはいえ、普段から新しい経験にいろいろと考え、迷っている人が集まっているように見えた。

自治体や公共ホールにとって、市民との（または市民同士の）関係が活発になることは非常に重要である。人間の関係性が良好で創造的であるために芸術文化や公共ホールの果たすべき役割は非常に大きく、その協調行動がいわば社会関係資本とでも言えるようなものになっていくのである。それは10数年前に長崎でアウトリーチを始めたときに「音楽の聴き手(客)はソフトなインフラストラクチャーのようなものである」と考えたことと大きな思考の変更はない。

今回の音楽コースでは「コミュニケーションが人間にとって喜びである」という前提のもとに、音楽が人間同士の大事なコミュニケーションツールであり、おんかつに代表される音楽のアウトリーチやコミュニティ活動が、ゴールではなく新しいコミュニケーションのスタートラインであることを意識することを一番のポイントとして臨んだ。

それ故、各地でその意識を実践し、現場を本当に動かしている人たち（多治見の菱川、小美玉の中本、北上の千葉の3氏である）を講師に招き、思いの丈を話してもらい、という方法をとった。3人とそれを纏めてもらおうとお願いした大澤さんを含め、それぞれ事前に話す機会があったけれど、彼らとおんかつやアウトリーチとの出会いが、それぞれの発想力を大きく飛躍させているようにみえる。市民をお客様と見るよりも、一緒に何事かを為す協働者のように感じているからこそ、三人三様の彼らの話は自由で熱く、面白い。そして、彼ら同士がお互いの話しにまた新たな発見をして高揚する、と言うところを若い世代に見てもらえたので、その意味では今回のラボはまあまあ成功と言えるかもしれない。

アーティストには長崎のジャズトロンボーン奏者の柴田氏に、珍しいスイングジャズのアウトリーチをお願いして体験してもらった。彼のアウトリーチとはもう6年くらいつきあっているわけだけでも、ジャズの方にありがちな、楽しんでもらえればよい、という相手任せなところから、アウトリーチ先の子どもは必ずしも楽しんでくれない、という現実に向かい合い、苦しんだ結果として確立した手法がある（これはジャズに限らない。多くのおんかつ演奏家の共通の苦しみであるはずだ）。もう一人沖縄をベースに活動しているおんかつOBピアニストの新崎さん。彼女は彼女の中にあるイマジネーションをうまく形にする術をもてるであろうアーティストとして、ドビュッシーの世界を作ってもらいようをお願いしたが、暗くした中に明かりを灯していく手法には予想以上のインパクトがあった。

二人のアーティストには、アウトリーチを通じて獲得したと思えるもの、考え方が変わった部分などをそれぞれ話してもらい時間も作った。アーティストがアウトリーチを通じて考え方や手法を多彩にして、様々な常識を破ってプログラム作りをしていることを聞いてもらったあとで、今回のコースのゴールに用意したのは、アウトリーチのその先に公共ホールは何が出来るか、公共ホールの職員として何が出来るか、ということを考えてもらうことだった。これは若い世代には課題としてはやや難しく纏めにくいテーマだったかもしれないが、3組のグループにそれぞれ入っていただいた講師がそれぞれ個性的にリードして(本当に個性的)、発表できるスタイルまで効率的に話しを持って行っていただいたことには深く感謝である。

ついでに言うと、今回もコースで一曲歌を歌うことを企んだが（大体終わりの回で歌うとじーんとするはずなのだけれど・・・）、今までになく空振りだったのは、感情移入できる曲でないと効果が少ないということだったようで、今回の数少ない失敗。

## ② ゼミ記録

—第1日— 2月18日(火)

ゼミ1 「自己紹介とワールドカフェ」

講師： 児玉 真

自己紹介は事前に紙を出してもらっていたので簡単に済ませ、提出してもらった問題意識(禅問答みたいなもの



のからきわめて具体的な事までみんなかなりいろいろと書いてあって意識の高さが覗えた)の中からいくつか拾い出し、みんなの挙手でそのうち3つを選びワールドカフェ方式でグループに分かれ議論してもらった。各自20分づつ話したら別のテーマにうつって議論を進める。人数が少ないこともあって本来のワールドカフェとは少し違うし、必ずしも議論が深まる訳ではないが、まず自発的に話しをすることと、全員が全員と話せるようにするためにこの手法を使った。

—第2日— 2月19日(水)

ゼミ2 「アウトリーチの歴史と課題」

講師： 児玉 真

アウトリーチと公共ホールについて歴史的な認識を持ってもらい、役割の変遷の中から現在のアウトリーチがもつ社会的役割についての理解をしていただいた。慰問演奏との違い、ただ聴いてもらうことの重要性から、普及的な意味、エデュケーション的な意味、そして最近の社会の諸問題の解決ツールとしての期待までの社会の流れと、その危うさも含めお話しした。

ゼミ3 「アウトリーチのその先1」

講師： 千葉 真弓

北上市さくらホールの千葉真弓さんから、「アウトリーチを重ねていく中で考えたこと」から今たどり着いた地点までを話していただいた。彼女の大きな転換点は23年度に行った市町村モデル事業。特に、3市連携のために開いた県内ホール関係者対象の研修会の内容を自分で考え組み立てたことと、連携2市のコーディネーター役をやったことが、大変だったけれど大きなきっかけとなった。その連携はその後広がっていて毎年報告会をするまでになっていること、地元アーティストとの関係を連携で実現させたいことなど。



#### ゼミ4 「アウトリーチのその先2」

講師： 菱川 浩二



多治見の菱川さんは、多治見でアウトリーチを始めるに当たって、学校公演を現場で見てデータを取ることからはじめたというその実証的態度を原点としているところがすごいと思う。徹底的に考え方から入るタイプであると思うこともあるけれども、そこから組み立ててきた多治見方式とも言える事業展開の話をして頂いた。それとともに、昨年からはじめた「壺」方式の中京圏のホールの緩いネットワークづくりは、アーティストデータの共有という意味で興味深い。

#### ゼミ5 「アウトリーチのその先3」

講師： 中本 正樹

小美玉の中本さんには、3つの町村の合併後、彼が小川文化センターで作り上げてきた新しい回路づくりの話をして頂いた。稼働率も低くお荷物になりかかっていたセンターを、徹底した対話の中から、アートの拠点として認識してもらうというのは大変だったと思うけれども、彼の中に残ったものはとてつもなく大きいと思う。ここの中心的施設である四季の館で市民参画方式を続けてきたこと、アウトリーチ事業がその当初から存在したことがこの対話方式を可能にしていると思う。



—第3日— 2月20日（木）

#### ゼミ6 「アウトリーチのその先4 地域から見たアートマネジメントとコミュニティプログラム」

講師： 大澤 寅雄



前日の3つのホールの話の踏まえて、今、アート団体や各地で試みがされているエデュケーションプログラム、コミュニティプログラムについて紹介とまとめをお願いした。まとめというところは、より拡がりができる、という方向に話が行ったけれども、世界の先進的な事例の紹介ができたので良かったと思う。糸島市に移住して感じる「たき火理論」のはなしはインパクトがあった。



## ゼミ7 「地域演奏家から見たアウトリーチ1 模擬アウトリーチとワークショップ」

講師： 柴田 健一、月岡 翔生子

長崎在住のジャズ奏者、柴田健一さん（ピアノは月岡翔生子さん）に、長崎市ブリックホールで行っている学校アウトリーチの内容を模擬的に実演して頂いた。ジャズでも基本的思想とプログラム作りの基本は変わらない。彼の今回のアクティビティは、トロンボーンという楽器を知ってもらうこと、ジャズの一番の楽しみであるアドリブを体感的に理解してもらうこと、をテーマとして行った。日常会話が如何にアドリブに満ちているかを参加者にやってもらって、それをジャズの楽しみとしたプログラムは単純にジャズを楽しむ大人のコンサートとは違う一面を見せてもらえた。



## ゼミ8 「地域演奏家から見たアウトリーチ2 文化会館と町と音楽」

講師： 柴田 健一、新崎 誠実

柴田健一さんとおんかつアーティストで沖縄在住のピアニスト新崎誠美さんに、アウトリーチ活動によって、どのように演奏家としての生き方に影響があったかを話して頂いた。柴田さんは40過ぎにプロになることを決意し、たまたまあったアウトリーチ事業に応募して参加したが、最初は自分の考え方を变えるのに苦労したこと、子供にはジャズでも飽きられてしまうことをどう乗り越えたかなど。新崎さんには、同時に沖縄で行った「オーケストラがおいしくきける音楽と科学の旅「新世界」を発見しよう、のピアニスト兼モデレーターとして参加した体験を話して頂いた。面白かったのは、台本がある進行役は演奏家にとって「楽譜を読んで演奏する」作業と非常に近くかえって工夫ができた、という発言があったこと。なるほど。



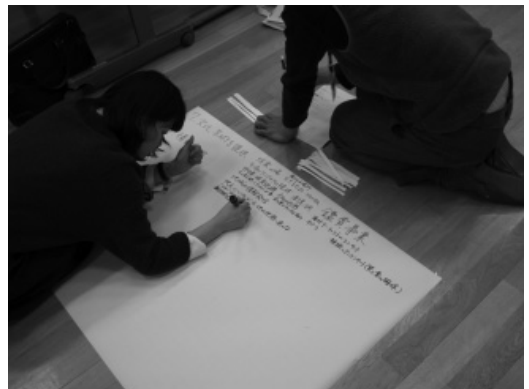
新崎さんには番外ゼミとして、ドビュッシーをお話付きで楽しむコンサートを実施していただいた。ピアノの周りに輪になってすわり、一人ひとりがお話を読みながら小さな明かりを灯していく幻想的な世界を全員参加でつくる手法は印象的だった。

—第4日— 2月21日(金)

ゼミ9、10 「アウトリーチで街をデザインするプラン作り」(グループワークショップ)

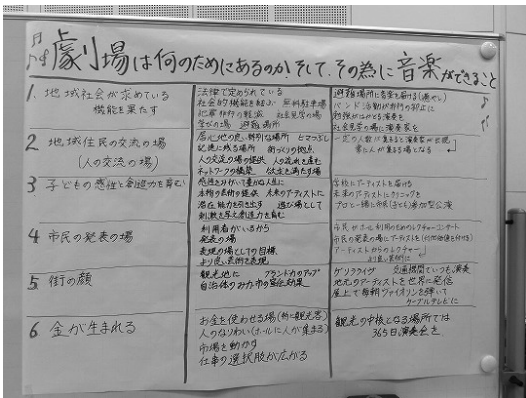
講師： 児玉 真、中本 正樹、千葉 真弓、菱川 浩二

「アウトリーチで街をデザインする」をテーマに、3つのグループにわかれて議論をして頂いた。現場に追いかけている若い人にはちょっとハードルが高いテーマではあるが、それぞれ千葉さん、中本さん、星川さんに入っただき議論を盛り上げてもらう手法を採用したがグループの個性が出た議論となった。千葉さんの地域の人の目線で考える会館のバランスの良いやりかた、中本さんの市民との対話の活かしかた(ちょっとやってみない…?)、菱川さんの徹底的にコンセプトから考えていく(劇場はなんのためにあるのか音楽は何ができるのかから)手法など。

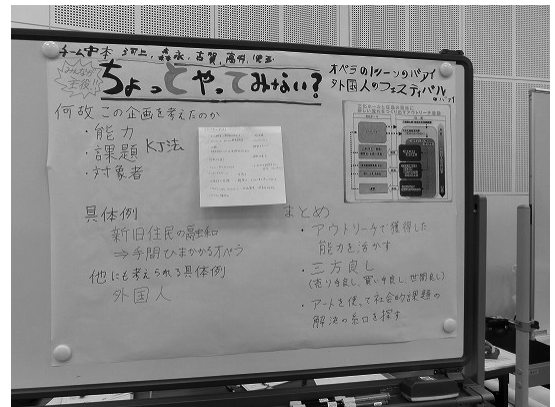


ゼミ11 「発表と話し合い」

講師： 児玉 真、中本 正樹、千葉 真弓、菱川 浩二



グループで議論をしたことでの発表。時間が十分でなかったため、やや生煮えな感もあったが、全員で模造紙に発表のために書き、役割分担をして発表出来たのは良かったと思う。また、3つのグループのアプローチが違ったことで、受講生に様々な考え方を提示出来たのも良かったとともに、講師で来ていただいた中堅の人たちのコーディネート力とそれを人に伝えるスキルが確実に高くなっていることに安心した会だった。



### (3) 自主事業Ⅱ（演劇）コース

#### ① 総評

コーディネーター 内藤 裕敬

各公共ホールで様々な事業を担当されている皆さんには、直面する現実的な問題や課題が山積みでしょう。その、それぞれの解決に向かう為に、他者の意見、事例、思考法などを知ることは大変に有効であると思います。このステージラボで、そこを中心に置いた講座を行えば、即持ち帰り応用できるヒントも多数有るはずで。しかし、それは、参考にこそなりますが、千差万別の地域性と予算規模を持つ各施設のオリジナルな事業展開には即つながらないと思います。後追いの事業でも成功すれば良いのですが、成功事例には、そこに、それなりの人材も環境も状況も異なる自治体の成功例を当てはめるのは危険だし、普通は、それが当てはまらない。だから、どうすれば良いのか？そこへ向かうラボ内容でなければならぬと思っています。

担当者のスキルアップには、知識に集約したプログラムだけにとらわれず、感性を磨き、芸術的思考を高める作業が、まず必要だと考えます。地域に豊かな作品や事業を提供する当事者が、作品を評価する目利きでなければ、トンチンカンな企画をありがたがって実行することになってしまう。アウトリーチやワークショップでのプログラムに有効性を見出せない。

今回のステージラボでは、「ものの見方」から入りました。「もの」とは作品のことです。何をもち、それを面白いと判断するのか？その基本と解釈さえ、しっかりと持っていれば、事業の方針が大きくブレることはない。参加者の皆さんに、それを問いかけてみましたが、あらためて質問されると、かなり曖昧であることに気づきます。あまり論理性をお持ちでない。けれども何故か変な自信と自負を持っている。ラボ初日の全てを費やし、そこを検証し、まず自己の想像力が豊かで自由でなければ、素晴らしい作品を見過ごし、見落とす可能性が多くあることを確認しました。

足りていないことに気づければ、足せば良い。しかし、足りていないのに足りていると勘違いをそのままにすれば、二年、三年後には、大きな差を生じるでしょう。それは、担当者として罪だ。適正が無い。普通ならば、それを誰かが自身で嫌悪するはずで。その位置からスタートできれば、個人差はあるにせよ、向かう方向は間違わない。

二日目からは、体験型の講座で、足してゆく作業となりました。「ものの見方」「解釈」を遊ぶことで、作品の可能性は大きく広がることになる。それを実感し、発表につなげることで、最終的に豊かな時間の中にあっただ自分が、芸術作品に触れることの価値を知る。三日目の仲道さんの音楽ワークショップとミニコンサートで演劇や映画だけでなく、音楽の持つ豊かな想像性を、いつもと少し違った角度から体験したことは、参加者の感性と芸術的視野を大きく広げたことだと思います。最終日には、ディスカッションの形式をとり、そこに、アシスタントで参加した俳優3名から、演劇界や俳優達の現状と活動を聞き、各ホールの事業へ参加、アドバイスの可能性を搜しました。参加者の皆さんは、最後まで集中力を切らさず、前向きに取り組んでいただいたと思います。演劇コースとはいえ、演劇のことは全くやりませんでした。全てが演劇だったと思います。皆さん、ご自身の組織に帰られた時、少しでも芸術と向き合うことの中と奥行きが増えていけばと願っております。

## ②ゼミ記録

—第1日— 2月18日(火)

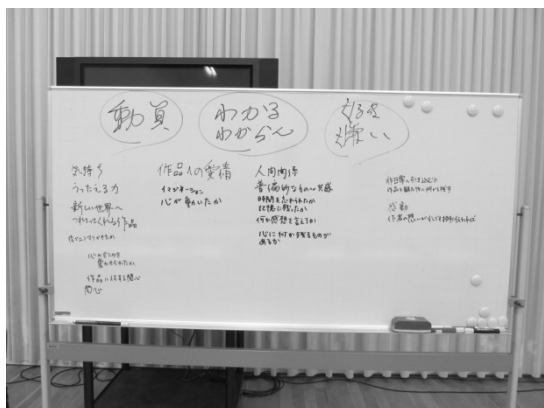
ゼミ1 「演劇コブラツイスト1 (アイスブレイク)」

講師： 内藤 裕敬

モナ・リザの絵を楽しんで、その絵に別の題名をつける。  
題名を捜すのではなく、その絵を遊んで観賞することで、思  
いもよらぬ題名に辿り着く体験。



説明と表現は違う。考え思考することも大切だが、遊びの中  
から大きな発想の発見があることに気づく。想像力を豊かにす  
ることで、ものの見え方が大きく変わることを実感する。



－第2日－ 2月19日(水)

ゼミ2 「演劇コブラツイスト2 (映画鑑賞)」

ゼミ3 「演劇コブラツイスト3 (レポート作成)」

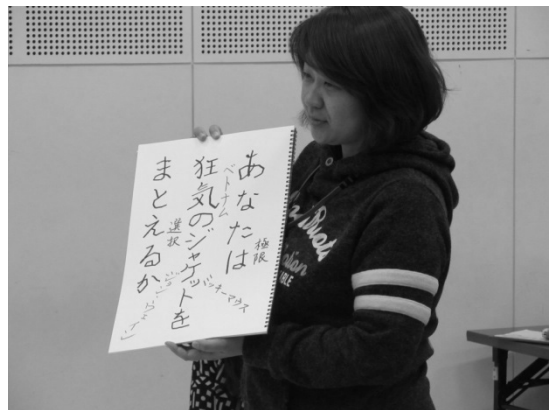
ゼミ4 「演劇コブラツイスト4 (キャッチコピー創り)」

講 師： 内藤 裕敬、仲道 郁代、荒谷 清水、坂口 修一、太田 清伸

キューブリックの「フルメタルジャケット」を見て。この難解と言われる同監督作品の本質に迫ってみる。観る者の想像力に訴えて来る作品は、想像力の有無により、その評価が大きく異なる。ちょっとした角度の違い。



ワンシーンの受けとめ方、それを踏み込んで解釈することで、映画全体が全く別の映画のように、わかり易く、素晴らしい映画であることに気づく。朝9時半から夜20時まで、一本の映画について面白がれたことが素晴らしい。



－第3日－ 2月20日（木）

ゼミ5 「出島再開発にまつわる文化事業」

講師： 岩永 貴博、福田 修志、篠崎 雅、田中 俊亮、松本 恵

ゼミ6 「演劇コブラツイスト6（WS）」

ゼミ7 「演劇コブラツイスト7（WS・ストーリー作成）」

ゼミ8 「演劇コブラツイスト8（WS・ストーリー作成）」

講師： 内藤 裕敬、仲道 郁代、荒谷 清水、坂口 修一、太田 清伸



出島再開発プロジェクトを出張研修後、仲道郁代氏による音楽プログラム。

楽曲の構成を画用紙に1人1人が描いた図形で遊び、音楽様式の基本と、その発展形の可能性を実感する。最後、仲道氏によるミニコンサートを自由に楽しく聴けるようになっていたのが素晴らしい。



－第4日－ 2月21日（金）

ゼミ9 「演劇コブラツイスト9（ディスカッション）」

ゼミ10 「演劇コブラツイストまとめ」

講師： 内藤 裕敬、仲道 郁代、荒谷 清水、坂口 修一、太田 清伸

仲道郁代氏と私が、18年間行って来た共同作業の過程とエピソード、結果、そして、これからの対談として発表。アシスタントの俳優3人も加わり、今後に繋がる情報交換と交流でしめくくった。



### 3 共通プログラム

「参加者全員で、フラッシュモブを体験」

#### (1) 日時・会場

2月19日(水) 17:30~20:30

長崎ブリックホール国際会議場、JR長崎駅かもめ広場

#### (2) 概要及び目的

振付家・ダンサーの森下真樹さんを講師として、ステージラボ参加者が「フラッシュモブ」を体験。つぎの3点を主眼に、また、各コースのゼミで詰め込まれた参加者の頭を切り替える機会も図った。

①参加者全員の共同作業による交流・ネットワーク形成

②地域資源の見直し及び活用(ホール、施設外での活動や地域連携)

③視点を変え事業を考える(ダンサー・演者等表現者の視点で事業を考える)

撮影も行い、本番の様子を YouTube (<https://www.youtube.com/watch?v=FCGWi7GCdws>) で公開している。また、地元テレビ局2社、新聞社1社から取材もあり、話題を呼んだ。





### (3) 内容

参加者全員には、事前に森下真樹さんの振付映像を送り、各自予習のうえ、長崎セッション本番に臨んでもらった。森下真樹さんが全国の公立文化施設等を中心に行ってきたワークショップの内容を基に振付・構成された「うずうずモブが止まらない in 長崎」。日常にあふれている簡単な動作から EXILE の「Choo Choo Train」も入れた振付は踊る人も観る人もダンスを楽しめる内容であった。

- ①各コースのゼミ終了後、国際会議場に集合し、詰め込まれた頭と座学で凝り固まった身体をほぐすため、身体全体を動かし、声を出す WS を実施。
- ②WS 後は、本番に臨むための練習。参加者はここで初めて使用する楽曲を聴き、驚きと笑いの声上がる。使用した楽曲は、山本リンダさんの「どうにも止まらない。」
- ③参加者、講師の方々やスタッフも全員で振付の確認・練習。その後、3つのグループに分かれ、各自の役割、細かい段取りの練習を行い、「JR 長崎駅かもめ広場」へ移動。
- ④会場は、JR 長崎駅と商業施設に隣接した約 500 m<sup>2</sup>の屋外イベント広場。参加者はまず場当たりなど森下真樹さんと最終的な確認を行い、各ポジションへ移動し準備。
- ⑤19時52分。特急かもめが到着に合わせ、1回目の本番スタート。会社帰りや買い物帰りの人が行き交う中、やや緊張気味の通行人や待ち合わせをしている人などを装った参加者がぐるぐる回りだす。森下真樹さんの「どうにも」の声を合図に、集まった参加者が「止まらない」と叫ぶ。そして、音楽がスタート。次から次へとダンスに引き込まれた通行人を装った参加者が入ってくる。約4分間踊り終えた参加者からは、笑みとともに、各自の表現における改善点の声もあった。
- ⑥20時20分。快速シーサイドライナーの到着に合わせ、2回目の本番スタート。1回目より演技に力が入り、巻き込まれたように後から後から、ダンスに加わっていく。また、たまたま観ていた通行人や地元劇団の役者の飛び入り参加もあった。会社や買い物帰り、通りかかった人たちが、足を止め、1回目より多くの方がパフォーマンスを観入っていた。
- ⑦本番を終えた参加者からは、踊りきった爽快感、表現を披露する喜びや達成感を感じることができ、また森下真樹さんからも満足感あふれる言葉もあり、本プログラムを締めくくった。

講師： 森下 真樹、山崎 麻衣子、笠井 晴子、ヤマワキ タカミツ



## VII 参加者リスト



## ステージラボ静岡セッション参加者リスト

都道府県名	ふりがな	所属	担当施設名	
	参加者氏名	職名	開館年	
No.	所属住所  TEL/FAX		ホール1	座席数
			ホール2	座席数
			ホール3	座席数
			自主事業	事業予算

## 1.ホール入門コース

青森県	しもだ ともみ 下田 智美	八戸市 企画運営グループ コーディネーター	八戸ポータルミュージアム(はっち)	
			開館年 2011年	
No. 1	〒 031-0032 青森県八戸市三日町11-1 TEL 0178-22-8200 / FAX 0178-22-8808		シアター1	126㎡
			シアター2	141㎡
			はっちひろば	179㎡
			自主企画 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円～4,999万円	
宮城県	ささき ようすけ 佐々木 洋佑	仙南地域広域行政事務組合 総務係 主事	仙南芸術文化センター(えずこホール)	
			開館年 1996年	
No. 2	〒 989-1267 宮城県柴田郡大河原町字小島1-1 TEL 0224-52-3004 / FAX 0224-51-3141		大ホール	802席
			平土間ホール	300席
			自主企画 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円～4,999万円	
福島県	あべ のぼる 阿部 登	いわき市 いわき芸術文化交流館施設管理課 総括主査	いわき芸術文化交流館アリオス	
			開館年 2008年	
No. 3	〒 970-8026 福島県いわき市平字三崎1-6 TEL 0246-22-7418 / FAX 0246-22-8181		大ホール	1705席
			中劇場	687席
			小劇場	233席
			自主企画 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上	
茨城県	にへい ひとみ 仁瓶 瞳	小美玉市 市民生活部生活文化課 主事	小美玉市四季文化館(みの〜れ)	
			開館年 2002年	
No. 4	〒 319-0132 茨城県小美玉市部室1069 TEL 0299-48-4466 / FAX 0299-48-4467		大ホール	600席
			小ホール	300席
			練習室	123.4㎡(2室計)
			自主企画 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～2,999万円	
千葉県	かわかみ ひろたけ 川上 洋文	公益財団法人千葉市文化振興財団 企画事業課 有期雇用職員	千葉市文化センター	
			開館年 1989年	
No. 5	〒 260-0013 千葉県千葉市中央区中央2-5-1千葉中央ツインビル2号館4階 TEL 043-221-2411 / FAX 043-224-8231		アートホール	497席
			自主企画 c. 11本～20本 事業予算 d. 3,000万円～4,999万円	
東京都	もりた りさ 森田 梨佐	財団法人地域創造 芸術環境専門職員	開館年	
No. 6	〒 107-0052 東京都港区赤坂6-1-20国際新赤坂ビル西館8階 TEL 03-5573-4078 / FAX 03-5573-4060		自主企画	
				事業予算
富山県	あらい しんじ 新井 慎二	公益財団法人富山県文化振興財団 ホール担当・主事	富山県高岡文化ホール	
			開館年 1986年	
No. 7	〒 933-0055 富山県高岡市中川園町13-1 TEL 0766-25-4141 / FAX 0766-25-4332		大ホール	703席
			多目的小ホール	382㎡
			自主企画 c. 11本～20本 事業予算 c. 1,000万円～2,999万円	
長野県	やました ゆうや 山下 雄也	公益財団法人おかや文化振興事業団 事業課・舞台課	岡谷市文化会館カノラホール	
			開館年 1989年	
No. 8	〒 394-0029 長野県岡谷市幸町8-1 TEL 0266-24-1300 / FAX 0266-24-1412		大ホール	1446席
			小ホール	300席
			自主企画 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円～4,999万円	

## 1.ホール入門コース

岐阜県	しみず ゆかこ 清水 佑香子	公益財団法人可児市文化芸術振興財団 事業制作課 主事	可児市文化創造センター(ala)
			開館年 2002年 主劇場 1019席 小劇場 311席 映像シアター 100席 自主企画 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
No. 9	〒509-0203 岐阜県可児市下恵土3433-139 TEL 0574-60-3311 / FAX 0574-60-3312		
岐阜県	さかぐち ゆい 阪口 唯	特定非営利活動法人ひだ文化村	飛騨市文化交流センター
			開館年 2006年 スピリットガーデンホール 702席 小ホール 105席 自主企画 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~2,999万円
No. 10	〒509-4221 岐阜県飛騨市古川町若宮2-1-63 TEL 0577-73-0180 / FAX 0577-73-0185		
岐阜県	あさはら みゆき 朝原 三友紀	一般財団法人岐阜市公共ホール管理財団 業務課事務グループ 主事	岐阜市文化センター
			開館年 1984年 催し広場 1275席 小劇場 500席 自主企画 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~2,999万円
No. 11	〒500-8842 岐阜県岐阜市金町5-7-2 TEL 058-262-6200 / FAX 058-262-6229		
静岡県	ままだ こうき 前田 航希	公益財団法人静岡市文化振興財団 嘱託職員	静岡市民文化会館
			開館年 1978年 大ホール 1968席 中ホール 1170席 自主企画 b. 1本~10本 事業予算 d. 3,000万円~4,999万円
No. 12	〒420-0856 静岡県静岡市葵区駿府町2-90 TEL 054-251-3751 / FAX 054-251-9219		
愛知県	やまざき さち 山崎 沙知	長久手市 長久手市文化の家管理係 主任	長久手市文化の家
			開館年 1998年 森のホール 819席 風のホール 300席 自主企画 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~9,999万円
No. 13	〒480-1166 愛知県長久手市野田農201 TEL 0561-61-3411 / FAX 0561-61-2510		
鳥取県	くらのぶ まさの 倉信 聖乃	公益財団法人鳥取県文化振興財団 鳥取県民文化会館総務部総務課 主任	鳥取県立県民文化会館(とりぎん文化会館)
			開館年 1993年 梨花ホール 2000席 小ホール 500席 自主企画 c. 11本~20本 事業予算 e. 5,000万円~9,999万円
No. 14	〒680-0017 鳥取県鳥取市尚徳町101-5 TEL 0857-21-8700 / FAX 0857-21-8705		
愛媛県	そがべ みさ 曾我部 みさ	新居浜市 企画部総合文化施設準備室 副室長	新居浜市総合文化施設(仮称・平成27年開館予定)
			開館年 2015年予定 小劇場 250席 美術館 自主企画 事業予算
No. 15	〒792-0834 愛媛県新居浜市一宮町1-5-1 TEL 0897-65-3580 / FAX 0897-65-1306		
福岡県	さとう あゆこ 佐藤 亜由子	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 音楽事業課	北九州市立響ホール
			開館年 1993年 大ホール 720席 リハーサル室 173㎡ 研修室 50㎡ 自主企画 c. 11本~20本 事業予算 e. 5,000万円~9,999万円
No. 16	〒805-0062 福岡県北九州市八幡東区平野1-1-1 TEL 093-663-6661 / FAX 093-662-3028		

## 1.ホール入門コース

長崎県	ひろた ゆき 廣田 由貴	長崎市 文化観光部 文化振興課	長崎ブリックホール
			開館年 1998年
No. 17	〒 852-8104 長崎県長崎市茂里町2-38 TEL 095-842-3782 / FAX 095-842-3784		大ホール 2002席
			国際会議場 542席
			自主企画 b. 1本～10本 事業予算 d. 3,000万円～4,999万円
長崎県	むらおか いさむ 村岡 勇	公益財団法人佐世保地域文化事業財団 管理課	アルカスSASEBO
			開館年 2001年
No. 18	〒 857-0863 長崎県佐世保市三浦町2-3 TEL 0956-42-1111 / FAX 0956-24-0051		大ホール 2000席
			中ホール 500席 イベントホール 350席
			自主企画 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
宮崎県	くぼた ようこ 久保田 陽子	公益財団法人都城市文化振興財団 事業課 主事	都城市総合文化ホール
			開館年 2006年
No. 19	〒 885-0024 宮崎県都城市北原町1106-100 TEL 0986-23-7140 / FAX 0986-23-7143		大ホール 1461席
			中ホール 682席
			自主企画 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～9,999万円
宮崎県	ままだ かなみ 前田 佳奈美	公益財団法人宮崎県立芸術劇場 企画広報課 企画制作係	宮崎県立芸術劇場(メディキット県民文化センター)
			開館年 1993年
No. 20	〒 880-8557 宮崎県宮崎市船塚3-210 TEL 0985-28-3208 / FAX 0985-20-6670		アイザックスタンホール 1818席
			演劇ホール 1112席 イベントホール 300席
			自主企画 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～9,999万円
沖縄県	たまよせ げんき 玉寄 元気	宜野座村教育委員会 社会教育課 委託スタッフ	宜野座村文化センターがらまんホール
			開館年 2003年
No. 21	〒 904-1302 沖縄県国頭郡宜野座村宜野座314-1 TEL 098-983-2613 / FAX 098-983-2614		がらまんホール 406席
			自主企画 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～2,999万円
沖縄県	よなみね たつ 與那嶺 達	南城市 まちづくり推進課 主事	南城市文化センターシュガーホール
			開館年 1994年
No. 22	〒 901-1403 沖縄県南城市佐敷307 TEL 098-947-1100 / FAX 098-947-0099		シュガーホール 510席
			自主企画 b. 1本～10本 事業予算 c. 1,000万円～2,999万円



## 2.自主事業 I (公共ホールの役割としての地域文化・伝統芸能)コース

茨城県	おおの かずなり 大野 和成	小美玉市 市民生活部生活文化課 係長	小美玉市四季文化館(みの〜れ)	
			開館年 2002年	
No. 1	〒 319-0132 茨城県小美玉市部室1069 TEL 0299-48-4466 / FAX 0299-48-4467		大ホール	600席
			小ホール	300席
			練習室	123.4㎡(2室計)
			自主企画 d. 21本以上	事業予算 c. 1,000万円〜2,999万円
群馬県	ばば たかし 馬場 敬	公益財団法人群馬県教育文化事業団 事業課 主任	群馬県民会館(ベシア文化ホール)	
			開館年 1971年	
No. 2	〒 371-0801 群馬県前橋市文京町2-20-22 TEL 027-224-3960 / FAX 027-221-4082		大ホール	1997席
			小ホール	499席
			自主企画 b. 1本〜10本	事業予算 c. 1,000万円〜2,999万円
埼玉県	あらい よしお 荒井 義雄	公益財団法人さいたま市文化振興事業団 事業課兼文化センター事業係 主任	さいたま市文化センター	
			開館年 1984年	
No. 3	〒 336-0024 埼玉県さいたま市南区根岸1-7-1 TEL 048-866-3467 / FAX 048-837-2572		大ホール	2006席
			小ホール	340席
			自主企画 d. 21本以上	事業予算 f. 1億円以上
東京都	おざわ けいすけ 小澤 圭佑	財団法人地域創造 総務部総務課 副参事	開館年	
No. 4	〒 107-0052 東京都港区赤坂6-1-20国際新赤坂ビル西館8階 TEL 03-5573-4173 / FAX 03-5573-4070		自主企画	
				事業予算
東京都	いのうえ ひろし 井上 裕士	財団法人地域創造 総務部振興助成課 副参事	開館年	
No. 5	〒 107-0052 東京都港区赤坂6-1-20国際新赤坂ビル西館8階 TEL 03-5573-4164 / FAX 03-5573-4070		自主企画	
				事業予算
神奈川県	きぬみ ゆかり 絹見 祐佳里	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	吉野町市民プラザ	
			開館年 1989年	
No. 6	〒 232-0014 神奈川県横浜市南区吉野町5-26 TEL 045-243-9261 / FAX 045-243-9263		ホール	185㎡
			会議室	48㎡
			スタジオA/B/C	98㎡(3室計)
			自主企画 d. 21本以上	事業予算 b. 1円〜999万円
神奈川県	いしかわ やすな 石川 泰菜	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	横浜能楽堂	
			開館年 1996年	
No. 7	〒 220-0044 神奈川県横浜市西区紅葉ヶ丘27-2 TEL 045-263-3050 / FAX 045-263-3031		本舞台	486席
			第二舞台	60席
			自主企画 d. 21本以上	事業予算 d. 3,000万円〜4,999万円
岐阜県	いとう しおり 伊藤 しおり	公益財団法人可児市文化芸術振興財団 事業制作課 主事	可児市文化創造センター(ala)	
			開館年 2002年	
No. 8	〒 509-0203 岐阜県可児市下恵土3433-139 TEL 0574-60-3311 / FAX 0574-60-3312		主劇場	1019席
			小劇場	311席
			映像シアター	100席
			自主企画 d. 21本以上	事業予算 f. 1億円以上

2.自主事業Ⅰ（公共ホールの役割としての地域文化・伝統芸能）コース

静岡県	たけうち あきら 竹内 啓	公益財団法人静岡市文化振興財団 静岡音楽館AOI 学芸員	静岡音楽館AOI
			開館年 1995年 ホール 618席 講堂 300席 自主企画 c. 11本～20本 事業予算 e. 5,000万円～9,999万円
No. 9	〒420-0851 静岡県静岡市葵区黒金町1-9 TEL 054-251-2200 / FAX 054-253-3322		
愛知県	みつたけ しんや 光武 真也	公益財団法人豊田市文化振興財団	豊田市コンサートホール・能楽堂
			開館年 1998年 コンサートホール 1004席 能楽堂 458席 多目的ルーム 90㎡ 自主企画 c. 11本～20本 事業予算 d. 3,000万円～4,999万円
No. 10	〒471-0025 愛知県豊田市西町1-200 TEL 0565-35-8200 / FAX 0565-37-0011		
三重県	にしうら ひさお 西浦 尚夫	公益財団法人四日市市文化まちづくり財団 文化振興グループ 管理担当主任	四日市市文化会館
			開館年 1982年 第1ホール 1786席 第2ホール 609席 第3ホール 120席 自主企画 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～9,999万円
No. 11	〒510-0075 三重県四日市市安島2-5-3 TEL 059-354-4501 / FAX 059-354-4093		
奈良県	たなか ひろし 田中 浩	一般財団法人奈良市総合財団 なら100年会館 事業係長	なら100年会館
			開館年 1999年 大ホール 1476席 中ホール 434席 小ホール 100席 自主企画 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～9,999万円
No. 12	〒630-8121 奈良県奈良市三条宮前町7-1 TEL 0742-34-0100 / FAX 0742-34-1000		
鳥取県	もりた なおみ 森田 直実	公益財団法人鳥取県文化振興財団 企画制作部 制作・学芸課	鳥取県立県民文化会館（とりぎん文化会館）
			開館年 1993年 梨花ホール 2000席 小ホール 500席 自主企画 c. 11本～20本 事業予算 e. 5,000万円～9,999万円
No. 13	〒680-0017 鳥取県鳥取市尚徳町101-5 TEL 0857-21-8700 / FAX 0857-21-8705		
島根県	ふくま はじめ 福間 一	公益財団法人しまね文化振興財団 文化事業課 主事	島根県民会館
			開館年 1968年 大ホール 1619席 中ホール 576席 自主企画 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～9,999万円
No. 14	〒690-0887 島根県松江市殿町158 TEL 0852-22-5508 / FAX 0852-24-0109		
広島県	ひがき ひろあき 檜垣 洋暁	公益財団法人呉市文化振興財団 プランニングスタッフ	呉市文化ホール
			開館年 1989年 呉市文化ホール 1802席 自主企画 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円～4,999万円
No. 15	〒737-0051 広島県呉市中央3-10-1 TEL 0823-25-7878 / FAX 0823-23-6511		
熊本県	うじま しんご 牛島 真吾	公益財団法人熊本県立劇場 企画事業課 課長代理	熊本県立劇場
			開館年 1982年 コンサートホール 1813席 演劇ホール 1172席 大会議室 390㎡ 自主企画 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～9,999万円
No. 16	〒862-0971 熊本県熊本市中央区大江2-7-1 TEL 096-363-2233 / FAX 096-371-5246		

2.自主事業 I (公共ホールの役割としての地域文化・伝統芸能)コース

宮崎県	かわち あきこ 河内 暁子	公益財団法人宮崎県立芸術劇場 企画広報課 企画制作係	宮崎県立芸術劇場(メディキット県民文化センター)	
			開館年 1993年	
No. 17	〒 880-8557 宮崎県宮崎市船塚3-210 TEL 0985-28-3208      /      FAX 0985-20-6670		アイザックスターンホール	1818席
			演劇ホール	1112席
			イベントホール	300席
			自主企画 d. 21本以上      事業予算 f. 1億円以上	
鹿児島県	まわたり まどか 馬渡 まどか	公益財団法人鹿児島県文化振興財団 霧島国際音楽ホール事業課 事業推進員	霧島国際音楽ホール(みやまコンセール)	
			開館年 1994年	
No. 18	〒 899-6603 鹿児島県霧島市牧園町高千穂3311-29 TEL 0995-78-8000      /      FAX 0995-78-3311		主ホール	770席
			小ホール	196㎡
			野外音楽堂	4000㎡
			自主企画 c. 11本~20本      事業予算 e. 5,000万円~9,999万円	

3.自主事業Ⅱ(公共ホールの役割としての子どもプログラム)コース

北海道	こもだ だいすけ 薦田 大典	特定非営利活動法人はまなすアート&ミュージック・ プロダクション 企画営業	岩見沢市民会館(まなみーる)
			開館年 2003年 大ホール 1271㎡ 中ホール 1076㎡
No. 1	〒068-0029 北海道岩見沢市9条4-1 TEL 0126-22-4233 / FAX 0126-25-9092		自主企画 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~4,999万円
埼玉県	くさの ひろゆき 草野 博之	公益財団法人さいたま市文化振興事業団 事業課兼文化センター管理係 主任	さいたま市文化センター
			開館年 1984年 大ホール 2006席 小ホール 340席
No. 2	〒336-0024 埼玉県さいたま市浦和区根岸1-7-1 TEL 048-866-3467 / FAX 048-837-2572		自主企画 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
千葉県	くまた こういち 熊田 浩一	公益財団法人千葉市文化振興財団 企画事業課 主任技師	千葉市文化センター
			開館年 1989年 アートホール 497席
No. 3	〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央2-5-1千葉中央ツインビル2号館4階 TEL 043-221-2411 / FAX 043-224-8231		自主企画 c. 11本~20本 事業予算 d. 3,000万円~4,999万円
東京都	うの きみ 宇野 希美	財団法人地域創造 総務部 主事	開館年
No. 4	〒107-0052 東京都港区赤坂6-1-20国際新赤坂ビル西館8階 TEL 03-5573-4184 / FAX 03-5573-4070		自主企画 事業予算
神奈川県	おくむら つよし 奥村 健	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	磯子区民文化センター
			開館年 2005年 ホール 310席
No. 5	〒235-0033 神奈川県横浜市磯子区杉田1-1-1らびすた新杉田4F TEL 045-771-1212 / FAX 045-770-5656		自主企画 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~2,999万円
岐阜県	いまえだ えみ 今枝 江美	公益財団法人可児市文化芸術振興財団 顧客コミュニケーション室 主事	可児市文化創造センター(ala)
			開館年 2002年 主劇場 1019席 小劇場 311席 映像シアター 100席
No. 6	〒509-0203 岐阜県可児市下恵土3433-139 TEL 0574-60-3311 / FAX 0574-60-3312		自主企画 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
静岡県	おおえ たかし 大江 貴史	公益財団法人富士市文化振興財団 事業推進グループ 主事	富士市文化会館ロゼシアター
			開館年 1993年 大ホール 1642席 中ホール 704席 小ホール 330席
No. 7	〒416-0953 静岡県富士市蓼原町1750 TEL 0545-60-2510 / FAX 0545-60-2505		自主企画 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
愛知県	そうま かなこ 相馬 加奈子	公益財団法人かすがい市民文化財団 舞台グループ スタッフ	春日井市民会館、春日井市文芸館
			開館年 1966年 春日井市民文化会館 1022席 視聴覚ホール 198席
No. 8	〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町5-44文化フォーラム春日井 TEL 0568-85-6868 / FAX 0568-82-0213		自主企画 事業予算

3.自主事業Ⅱ(公共ホールの役割としての子どもプログラム)コース

愛知県	えさか ひであき 江坂 秀晃	公益財団法人豊田市文化振興財団 文化部文化事業課 主任	豊田市民文化会館
			開館年 1975年 大ホール 1708席 小ホール 436席
No. 9	〒471-0035 愛知県豊田市小坂町12-100 TEL 0565-31-8804 / FAX 0565-35-4801		自主企画 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~999万円
愛知県	いいの みずき 飯野 瑞紀	幸田町文化振興協会 事業グループ 嘱託職員	幸田町民会館
			開館年 1996年 さくらホール 1004席 つばきホール 400席 あじさいホール 214席
No. 10	〒444-0103 愛知県幸田町大字大草字丸山60 TEL 0564-63-1111 / FAX 0564-63-5186		自主企画 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~9,999万円
三重県	やましき きょうこ 山舗 恭子	公益財団法人三重県文化振興事業団 総務部 企画広報グループ	三重県総合文化センター
			開館年 1994年 大ホール 1903席 中ホール 968席 小ホール 285席
No. 11	〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234 TEL 059-233-1105 / FAX 059-233-1106		自主企画 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
兵庫県	みなみ まさお 南 雅夫	公益財団法人尼崎市総合文化センター 事業部事業担当課事業担当係長	尼崎市総合文化センター(あましんアルカイクホール)
			開館年 1975年 あましんアルカイクホール 1820席 あましんアルカイクホール・オウト 804席 アルカイクホール・ミニ 250席
No. 12	〒660-0881 兵庫県尼崎市昭和通2-7-16 TEL 06-6487-0910 / FAX 06-6482-3504		自主企画 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
兵庫県	いあい あゆみ 居相 歩美	特定非営利活動法人コミュニティアートセンタープラッツ	豊岡市民プラザ
			開館年 2004年 ほっとステージ 294席
No. 13	〒668-0031 兵庫県豊岡市大手町4-5アイティ7階 TEL 0796-24-3000 / FAX 0796-24-3004		自主企画 d. 21本以上 事業予算 b. 1円~999万円
兵庫県	ふじわら かな 藤原 加奈	公益財団法人伊丹市文化振興財団 事業担当	伊丹市立演劇ホール(アイホール)
			開館年 1988年 イベントホール 357㎡ カルチャールームA 100㎡ カルチャールームB 90㎡
No. 14	〒664-0846 兵庫県伊丹市伊丹2-4-1 TEL 072-782-2000 / FAX 072-782-8880		自主企画 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~4,999万円
兵庫県	みき さとこ 三木 智子	公益財団法人宝塚市文化財団 事業課 係員	宝塚市立文化施設ベガ・ホール、ソリオホール、文化創造館
			開館年 1978年,1993年,2011年 ベガ・ホール 372席 ソリオホール 300席 文化創造館 180席
No. 15	〒665-0845 兵庫県宝塚市栄町2-1-1ソリオ1の3階 TEL 0797-85-8844 / FAX 0797-85-8873		自主企画 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~9,999万円
鳥取県	いわもとなおや 岩本 直也	公益財団法人鳥取県文化振興財団 総務部文化事業課 主事	鳥取県立倉吉未来中心
			開館年 2001年 大ホール 1503席 小ホール 310席
No. 16	〒682-0816 鳥取県倉吉市駄経寺町212-5 TEL 0858-23-5391 / FAX 0858-47-0255		自主企画 c. 11本~20本 事業予算 e. 5,000万円~9,999万円

3.自主事業Ⅱ（公共ホールの役割としての子どもプログラム）コース

広島県	おち よしえ 越智 良江	公益財団法人廿日市市文化スポーツ振興事業団 事業企画	はつかいち文化ホールさくらびあ
			開館年 1997年
No. 17	〒 738-8509 広島県廿日市市下平良1-11-1 TEL 0829-20-0111 / FAX 0829-32-7161		大ホール 1095席
			小ホール 296席
			自主企画 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
広島県	おかもと じゅんいち 岡本 純市	財団法人広島市未来都市創造財団 広島市南区民文化センター	広島市南区民文化センター
			開館年 1990年
No. 18	〒 732-0816 広島県広島市南区比治山本町16-27 TEL 082-251-4120 / FAX 082-256-8811		ホール 554席
			スタジオ 151㎡
			自主企画 事業予算
香川県	おおぎた なつみ 大喜多 菜摘	公益財団法人高松市文化芸術財団 事業グループ	高松市文化芸術ホール(サンポートホール高松)
			開館年 2004年
No. 19	〒 760-0019 香川県高松市サンポート2-1高松シンボルタワーホール棟2F TEL 087-825-5010 / FAX 087-825-5040		大ホール 1500席
			第1小ホール 312席 第2小ホール 308席
			自主企画 c. 11本～20本 事業予算 d. 3,000万円～4,999万円
福岡県	むらまつ かおる 村松 薫	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 舞台事業課	北九州芸術劇場
			開館年 2003年
No. 20	〒 803-0812 福岡県北九州市小倉北区室町1-1-11 TEL 093-562-2620 / FAX 093-562-2633		大ホール 1260席
			中劇場 700席 小劇場 216席
			自主企画 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上

## ステージラボ 公立ホール・劇場 マネージャーコース参加者リスト

都道府県名	ふりがな	所属	担当施設名	
	参加者氏名	職名	開館年	
No.	所属住所		ホール1	座席数
			ホール2	座席数
	TEL/FAX		ホール3	座席数
			自主事業	事業予算

1.公立ホール・劇場 マネージャーコース

北海道	しまだ まさと 嶋田 雅人	公益財団法人札幌市芸術文化財団 教育文化会館事業部 事業課 事業係長	札幌市教育文化会館
			開館年 1977年 大ホール 1100席 小ホール 360席
No. 1	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西13丁目 TEL 011-271-5822 / FAX 011-271-1916		自主企画 c. 11本～20本 事業予算 d. 3,000万円～4,999万円
宮城県	ふじわら やすてる 藤原 康輝	公益財団法人宮城県文化振興財団 総務管理課 主査	宮城県民会館
			開館年 1964年 大ホール 1590席
No. 2	〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町3-3-7 TEL 022-225-8641 / FAX 022-223-8728		自主企画 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～9,999万円
茨城県	しまざき のりたけ 島崎 礼文	公益財団法人日立市科学文化情報財団 音楽ホール担当 係長	日立シビックセンター
			開館年 1990年 音楽ホール 825席 多用途ホール 200席
No. 3	〒317-0073 茨城県日立市幸町1-21-1 TEL 0294-24-7711 / FAX 0294-24-7970		自主企画 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
埼玉県	いいおか ひろこ 飯岡 広子	公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 埼玉会館長	埼玉会館
			開館年 1926年 大ホール 1315席 小ホール 504席
No. 4	〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4 TEL 048-829-2471 / FAX 048-829-2477		自主企画 b. 1本～10本 事業予算
埼玉県	みたむら むねたか 三田村 宗剛	三芳町 生涯学習課 芸術文化プロジェクトチーム研究員	コピスみよし(三芳町文化会館)
			開館年 2002年 ホール 498席 ミニホール 130席
No. 5	〒354-0041 埼玉県入間郡三芳町大字藤久保1100-1 TEL 049-259-3211 / FAX 049-259-3244		自主企画 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～2,999万円
千葉県	あおき しんや 青木 真也	鎌ヶ谷市 中央公民館 館長	きらり鎌ヶ谷市民会館(新規)
			開館年 2014年(予定) きらりホール 540席 中央公民館 842.32㎡
No. 6	〒237-0101 千葉県鎌ヶ谷市富岡1-1-1 TEL 047-445-2012 / FAX		自主企画 事業予算
千葉県	かざの のりゆき 風野 憲行	鎌ヶ谷市 生涯学習推進センター 主査	きらり鎌ヶ谷市民会館(新規)
			開館年 2014年(予定) きらりホール 540席 中央公民館 842.32㎡
No. 7	〒273-0101 千葉県鎌ヶ谷市富岡2-6-1 TEL 047-446-1111 / FAX 047-446-6633		自主企画 事業予算
千葉県	むらかみ ようこ 村上 陽子	公益財団法人松戸市文化振興財団 事務局長補佐	松戸市文化会館(森のホール21)
			開館年 1993年 大ホール 1955席 小ホール 516席 レセプションホール 550㎡
No. 8	〒270-2252 千葉県松戸市千駄堀646-4 TEL 047-384-5050 / FAX 047-384-5243		自主企画 b. 1本～10本 事業予算 e. 5,000万円～9,999万円



## 1.公立ホール・劇場 マネージャーコース

東京都	つつみ まさひろ 堤 正廣	公益財団法人大田区文化振興会 企画担当部長	大田区民プラザ
			開館年 1987年 大ホール 509席 小ホール 170席 展示室 373㎡ 自主企画 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
No. 9	〒146-0092 東京都大田区下丸子3-1-3 TEL 03-3750-1611 / FAX 03-3750-1150		
東京都	よねくら がく 米倉 楽	公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団 芸術文化振興課長	八王子市芸術文化会館
			開館年 1994年 いちようホール(大ホール) 802席 いちようホール(小ホール) 288席 自主企画 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～9,999万円
No. 10	〒192-0066 東京都八王子市本町24-1 TEL 042-622-6431 / FAX 042-621-3011		
神奈川県	おおくら まゆみ 大倉 まゆみ	公益財団法人横須賀芸術文化財団 事業部 事業課長	横須賀芸術劇場
			開館年 1994年 大劇場 1806席 小劇場 574席 自主企画 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
No. 11	〒238-0041 神奈川県横須賀市本町3-27 TEL 046-828-1602 / FAX 046-828-1623		
神奈川県	すがわら さちこ 菅原 幸子	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜赤レンガ倉庫1号館 館長	横浜赤レンガ倉庫1号館
			開館年 2002年 ホール 428㎡ スペースABC 558㎡ スポットABC 130㎡ 自主企画 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円～4,999万円
No. 12	〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港1-1-1 TEL 045-211-1515 / FAX 045-211-1519		
神奈川県	にしざわ ひろし 西澤 洋	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜市磯子区民文化センター杉田劇場 館長	横浜市磯子区民文化センター杉田劇場
			開館年 2005年 ホール 310席 自主企画 c. 11本～20本 事業予算 b. 1円～999万円
No. 13	〒235-0033 神奈川県横浜市磯子区杉田1-1-1 らびすた新杉田4F TEL 045-771-1212 / FAX 045-770-5656		
神奈川県	さいとう ゆうこ 齋藤 祐子	公益財団法人神奈川県芸術文化財団 施設運営第2課 課長	神奈川県芸術劇場
			開館年 2011年 大ホール 1200席 大スタジオ 220席 中小スタジオ 150席程度 自主企画 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
No. 14	〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町281 TEL 045-633-6500 / FAX 045-681-1691		
神奈川県	わだ わかな 和田 若菜	公益財団法人神奈川県芸術文化財団 総務課 課長補佐	神奈川県立県民ホール
			開館年 1975年 大ホール 2432席 自主企画 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
No. 15	〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町3-1 TEL 045-663-3792(直) / FAX 045-663-3714		
岐阜県	さわ しろう 澤 史朗	特定非営利活動法人ひだ文化村 事務局長	飛騨市文化交流センター
			開館年 2006年 スピリットガーデンホール 702席 小ホール 105席 自主企画 c. 11本～20本 事業予算 c. 1,000万円～2,999万円
No. 16	〒509-4221 岐阜県飛騨市古川町若宮2-1-63 TEL 0577-73-0180 / FAX 0577-73-0185		

1.公立ホール・劇場 マネージャーコース

三重県	こうだ よしふみ 幸田 至章	公益財団法人鈴鹿市文化振興事業団 事務局長	文化会館
			開館年 1988年 けやきホール 500席
No. 17	〒 513-0802 三重県鈴鹿市飯野寺家町810番地 TEL 059-384-7000 / FAX 059-384-7755		自主企画 b. 1本～10本 事業予算 c. 1,000万円～2,999万円
大阪府	なんぶ みつえ 南部 光恵	公益財団法人高槻市文化振興事業団 事業グループ 主幹	高槻現代劇場
			開館年 1964年 大ホール 1564席 中ホール 602席
No. 18	〒 569-0077 大阪府高槻市野見町2-33 TEL 072-671-1061 / FAX 072-671-7755		自主企画 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円～4,999万円
兵庫県	さかい じゅんいち 坂井 順一	公益財団法人神戸市民文化振興財団 振興部振興課 課長	神戸文化ホール
			開館年 1973年 文化ホール(大) 2043席 文化ホール(小) 904席
No. 19	〒 650-0017 兵庫県神戸市中央区楠町4-2-2 TEL 078-361-7172 / FAX 078-351-3121		自主企画 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
兵庫県	ふなま ひろふみ 船間 宏文	公益財団法人尼崎市総合文化センター 事業担当課 リーダー	尼崎市総合文化センター あましんアルカイックホール
			開館年 1982年 大ホール 1820席 中ホール 650席 ミニホール 250席
No. 20	〒 660-0881 兵庫県尼崎市昭和通2-7-16 TEL 06-6487-0910 / FAX 06-6482-3504		自主企画 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
鳥取県	たけなか ゆうじ 竹中 裕二	公益財団法人鳥取県文化振興財団 舞台技術室 室長	鳥取県民文化会館
			開館年 1993年 梨花ホール 2000席 小ホール 500席
No. 21	〒 680-0017 鳥取県鳥取市尚徳町101-5 TEL 0857-21-8700 / FAX 0857-21-8705		自主企画 b. 1本～10本 事業予算 c. 1,000万円～2,999万円
島根県	うちの まさこ 内野 雅子	公益財団法人しまね文化振興財団 いわみ芸術劇場 文化事業課長	いわみ芸術劇場
			開館年 2006年 大ホール 1500席 小ホール 400席 中庭広場 45㎡
No. 22	〒 698-0022 島根県益田市有明町5-15 TEL 0856-31-1861 / FAX		自主企画 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～9,999万円
岡山県	いけだ あきひろ 池田 晃浩	公益財団法人真庭エスパス文化振興財団 事務局長	真庭市久世エスパスセンター
			開館年 1997年 エスパスホール 501席
No. 23	〒 719-3214 岡山県真庭市鍋屋17-1 TEL 0867-42-7000 / FAX 0867-42-7202		自主企画 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～2,999万円
熊本県	くろき けんじ 黒木 賢治	公益財団法人熊本県立劇場 総務課 主任	熊本県立劇場
			開館年 1982年 コンサートホール 1813席 演劇ホール 1172席 大会議室 390席
No. 24	〒 862-0971 熊本県熊本市中央区大江2-7-1 TEL 096-393-2233 / FAX 096-371-5246		自主企画 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～9,999万円

1.公立ホール・劇場 マネージャーコース

沖縄県	やまかわ あつこ 山川 厚子	協同組合沖縄産業計画 那覇市ぶんかテンプス館 館長	那覇市ぶんかテンプス館
			開館年 2004年 テンプスホール 250席
No. 25	〒 900-0013 沖縄県那覇市牧志3-2-10 TEL 098-868-7810      /      FAX 098-868-7820		自主企画 d. 21本以上      事業予算 b. 1円～999万円



## アートミュージアムラボ宮城セッション 参加者リスト

都道府県名	ふりがな	所属	担当施設名	
	参加者氏名	職名	開館年	
No.	所属住所  TEL/FAX		ホール1	座席数
			ホール2	座席数
			ホール3	座席数
			自主事業	事業予算

04.宮城県	あべ ようこ	大崎市教育委員会古川支局	大崎市民ギャラリーー緒絶の館
	阿部 陽子	学芸員	開館年 1996年
No. 1	〒 989-6154 宮城県大崎市古川三日町1-1-1 TEL 0229-21-1466 / FAX 0229-22-6010		第1展示室 76.1㎡
			第2展示室 51.3㎡
			第3展示室 51.3㎡
			自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
13.東京都	なかむら めぐみ	小金井市	小金井市立はげの森美術館
	中村 めぐみ	コミュニティ文化課非常勤嘱託職員	開館年 2006年
No. 2	〒 184-0012 東京都小金井市中町1-11-3 TEL 042-384-9800 / FAX 042-381-5281		1F展示室 175.8㎡
			2F展示室 72.0㎡
			0 0
			自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
14.神奈川県	もり みねく	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	横浜市民ギャラリーーあざみ野
	森 未祈	学芸員	開館年 2005年
No. 3	〒 225-0012 神奈川県横浜市青葉区あざみ野南1-17-3 アートフォーラムあざみ野内 TEL 045-910-5656 / FAX 045-910-5674		展示室 610.0㎡
			アトリエ 142.0㎡
			0 0
			自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
14.神奈川県	くらもち さやか	相模原市	相模原市民ギャラリーー
	倉持 清香	相模原市民ギャラリーー 美術専門員	開館年 1997年
No. 4	〒 252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原1-1-3 セレオ相模原4階 TEL 042-776-1262 / FAX 042-776-1895		第1展示室 174.2㎡
			第2展示室 97.5㎡
			第3展示室 87.8㎡
			自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
17.石川県	たけもと かな	公益財団法人能登島ガラス美術館	石川県能登島ガラス美術館
	竹本 加奈	学芸員	開館年 1981年
No. 5	〒 926-0211 石川県能登島向田町125-10 TEL 0767-84-1175 / FAX 0767-84-1129		展示室A 182.2㎡
			展示室B 155.4㎡
			展示室C 175.3㎡
			自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
21.岐阜県	はやざき ゆき	公益財団法人大垣市文化事業団	大垣市スイトピアセンター
	早崎 由起	事業課	開館年 1992年
No. 6	〒 503-0911 岐阜県大垣市室本町5-51 TEL 0584-82-2310 / FAX 0584-82-02305		アートギャラリーー(企画展示室) 400.0㎡
			その他オープンスペースなど 0
			0 0
			自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
23.愛知県	もりた やすひさ	豊川市	豊川市桜ヶ丘ミュージアム
	森田 靖久	市民部文化振興課 専門員	開館年 1994年
No. 7	〒 442-0064 愛知県豊川市桜ヶ丘町79-2 TEL 0533-78-4588 / FAX 0533-78-3411		美術作品展示室 117.0㎡
			郷土資料展示室 236.0㎡
			市民ギャラリーー 279.0㎡
			自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
35.山口県	やまもと あやか	公益財団法人防府市文化振興愛弾	防府市地域交流センター[アスピラート]
	山本 綾香	事業係 主任主事(学芸員)	開館年 1998年
No. 8	〒 747-0036 山口県防府市戎町1-1-28 TEL 0835-26-5151 / FAX 0835-26-5111		展示ホールA 129.0㎡
			展示ホールB 129.0㎡
			展示ホールC 192.0㎡
			自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満

## ステージラボ長崎セッション参加者リスト

都道府県名	ふりがな	所属	担当施設名	
	参加者氏名	職名	開館年	
No.	所属住所  TEL/FAX		ホール1	座席数
			ホール2	座席数
			ホール3	座席数
			自主事業	事業予算

## 1.ホール入門コース

01.北海道	あおい たくや 青井 拓也	(公財)札幌市芸術文化財団 コンサートホール事業部管理課業務係	札幌コンサートホールKitara
			開館年 1997年
No. 1	〒 064-8649 北海道札幌市中央区中島公園1-15 TEL 011-520-2000 / FAX 011-520-1575		大ホール 2008席
			小ホール 453席
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
01.北海道	きむら まや 木村 真彩	(公財)札幌市芸術文化財団 芸術の森事業部 管理課業務係	札幌芸術の森
			開館年 1986年
No. 2	〒 005-0864 北海道札幌市南区芸術の森2-75 TEL 011-592-5111 / FAX 011-592-4120		
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
04.宮城県	こんどう まや 近藤 麻耶	(公財)仙台市市民文化事業団 コンクール推進課 主事	日立システムズホール仙台(仙台市青年文化センター)
			開館年 1990年
No. 3	〒 981-0904 宮城県仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 日立システムズホール仙台B1F TEL 022-727-1872 / FAX 022-727-1873		コンサートホール 802席
			シアターホール 584席
			交流ホール 472㎡
			自主事業 b. 1本~10本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
07.福島県	たなか りさ 田中 理紗	いわき市 経営総務課	いわき芸術文化交流館アリオス
			開館年 2008年
No. 4	〒 970-8026 福島県いわき市平字三崎1-6 TEL 0246-22-8111 / FAX 0246-22-8181		大ホール 1705席
			中劇場 687席
			小劇場 233席
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
12.千葉県	ひらさわ みな 平澤 美奈	鎌ヶ谷市 生涯学習部生涯学習推進課 主査補	きらり鎌ヶ谷市民会館
			開館年 2014年
No. 5	〒 273-0101 千葉県鎌ヶ谷市富岡1-1-3 TEL 047-446-2112 / FAX		きらりホール 540席
			中央公民館 842.32㎡
			自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
18.福井県	はまみ あきえ 濱見 彰映	NPO法人福井芸術・文化フォーラム 事務局	福井市文化会館
			開館年 1968年
No. 6	〒 910-0019 福井県福井市春山2-7-1 TEL 0776-23-6905 / FAX 0776-23-7905		福井市文化会館 1162席
			自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
20.長野県	うしやま なおみ 牛山 直美	(一財)松本市芸術文化振興財団	まつもと市民芸術館
			開館年 2004年
No. 7	〒 390-0815 長野県松本市深志3-10-1 TEL 0263-33-3800 / FAX 0263-33-3830		主ホール 1800席
			小ホール 288席
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
23.愛知県	おかだ ともこ 岡田 知子	(公財)かすがい市民文化財団 文芸グループ スタッフ	文化フォーラム春日井 / 春日井市民会館
			開館年 1999年/1966年
No. 8	〒 486-0844 愛知県春日井市鳥居松町5-44 TEL 0568-85-6868 / FAX 0568-82-0213		文化フォーラム春日井・視聴覚ホール 198席
			市民会館 1022席
			文化フォーラム春日井・ギャラリー 329㎡
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満



## 1.ホール入門コース

24.三重県	うだ きょうこ 宇田 恭子	(公財)三重県文化振興事業団 施設利用サービスセンター グループリーダー	三重県総合文化センター
	No. 9	〒 514-0064 三重県津市一身田上津部田1234 TEL 059-233-1118 / FAX 059-233-1115	開館年 1995年 大ホール 1903席 中ホール 960席 小ホール 280席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
27.大阪府	おくむら たいち 奥村 太一	豊中市 豊中市人権文化部文化芸術室 (仮称)文化芸術センター開設準備チーム 開設準備グループ長	(仮称)豊中市文化芸術センター
	No. 10	〒 561-8501 大阪府豊中市中桜塚3-1-1 TEL 06-6858-2864 / FAX 06-6846-6003	開館年 2016年 大ホール 約1300席 小ホール 約200席 自主事業 未定 事業予算 未定
27.大阪府	ほかやしき たつや 外屋敷 達也	(公財)河内長野市文化振興財団 管理グループ	河内長野市立文化会館 ラブリーホール
	No. 11	〒 586-0016 大阪府河内長野市西代町12-46 TEL 0721-56-6100 / FAX 0721-56-6111	開館年 1992年 大ホール 1308席 小ホール 464席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
28.兵庫県	こばやし ゆうひ 小林 勇陽	NPO法人コミュニティアートセンタープラッツ	豊岡市民プラザ
	No. 12	〒 668-0031 兵庫県豊岡市大手町4-5 アイティ7階 TEL 0796-24-3000 / FAX 0796-24-3004	開館年 2004年 ほっとステージ 250席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 b. 1円～1,000万円未満
36.徳島県	ひあさ あけみ 日浅 明美	(公財)徳島県文化振興財団 事業課・主事	あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)
	No. 13	〒 770-0835 徳島県徳島市藍場町2-14 TEL 088-622-8121 / FAX 088-622-8123	開館年 1971年 ホール 809席 小ホール 200席 大会議室 533㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
39.高知県	にしかわ ぶん 西川 文	(公財)高知市文化振興事業団 企画事業課・主事	高知市文化プラザかるぼーと
	No. 14	〒 780-8529 高知県高知市九反田2-1 TEL 088-883-5071 / FAX 088-883-5069	開館年 2002年 かるぼーと大ホール 1085席 かるぼーと小ホール 200席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
40.福岡県	まつもと きょうこ 松本 京子	(公財)北九州市芸術文化振興財団 宣伝営業課 広報係	北九州芸術劇場
	No. 15	〒 803-0812 福岡県北九州市小倉北区室町1-1-11 TEL 093-562-2655 / FAX 093-562-2588	開館年 2003年 大ホール 1269席 中劇場 700席 小劇場 96～216席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
42.長崎県	さかぐち ひろし 坂口 裕司	(財)大村市振興公社 事業部	シーハット大村
	No. 16	〒 856-0836 長崎県大村市幸町25-33 TEL 0957-20-7207 / FAX 0957-20-7203	開館年 1998年 さくらホール 500席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満

## 1.ホール入門コース

42.長崎県	おおた さき 太田 早紀	時津町教育振興公社	とぎつカナリーホール
			開館年 2002年
No. 17	〒 851-2104 長崎県西彼杵郡時津町野田郷62番地 TEL 095-882-0003 / FAX 095-882-0307		とぎつカナリーホール 770席
			自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
43.熊本県	なかしま けいいち 中島 圭一	(公財)熊本県立劇場 ホール課施設利用班 主任	熊本県立劇場
			開館年 1982年
No. 18	〒 862-0971 熊本県熊本市中央区大江2-7-1 TEL 096-363-2233 / FAX 096-371-5246		コンサートホール 1810席
			演劇ホール 1172席
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満

## 2.自主事業Ⅰ(音楽)コース

01.北海道	ないとう よしひろ 内藤 佳宏	(公財)札幌市芸術文化財団 コンサートホール事業部事業課営業係	札幌コンサートホールKitara 開館年 1997年 大ホール 2008席 小ホール 453席
	No. 1 〒 064-8649 北海道札幌市中央区中島公園1-15 TEL 011-520-2000 / FAX 011-520-1575		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
01.北海道	よしだ なつみ 吉田 奈津実	NPO法人はまなすアート&ミュージック・プロダクション 企画営業	岩見沢市民会館・文化センター 開館年 2003年 大ホール 1183席 中ホール 514席
	No. 2 〒 068-0029 北海道岩見沢市9条西4-1-1 TEL 0126-22-4233 / FAX 011-351-2556		自主事業 c. 11本~20本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
13.東京都	おおつき みつる 大槻 充	(公財)三鷹市芸術文化振興財団 事業課	三鷹市公会堂 開館年 1965年 三鷹市公会堂 光のホール 719席
	No. 3 〒 181-8555 東京都三鷹市野崎1-1-1 TEL 0422-29-9868 / FAX 0422-43-6146		自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
14.神奈川県	こだま みお 児玉 未央	(公財)横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ	協働推進グループ 開館年
	No. 4 〒 231-0023 神奈川県横浜市中区山下町2産業貿易センタービル1F TEL 045-221-0212 / FAX 045-221-0216		自主事業 b. 1本~10本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
14.神奈川県	しらかわ みほ 白川 美帆	(公財)横浜市芸術文化振興財団 横浜みなとみらいホール 事業企画グループ	横浜みなとみらいホール 開館年 1998年 大ホール 2020席 小ホール 440席
	No. 5 〒 220-0012 神奈川県横浜西区みなとみらい2-3-6 TEL 045-682-2020 / FAX 045-682-2023		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
34.広島県	ひきじ ゆき 引地 由姫	(財)広島市未来都市創造財団 アステールプラザ 事業推進員	アステールプラザ 開館年 1991年 文化創造センター・ホール 1204席 中区民文化センター・ホール 547席
	No. 6 〒 730-0812 広島県広島市中区加古町4-17 TEL 082-244-8000 / FAX 082-246-5808		自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
34.広島県	あかお しげのぶ 赤尾 重信	(公財)ふくやま芸術文化振興財団 事業課 主事	ふくやま芸術文化ホール(リーデンローズ) 開館年 1994年 大ホール 2003席 小ホール 312席
	No. 7 〒 720-0802 広島県福山市松浜町2-1-10 TEL 084-928-1800 / FAX 084-928-1801		自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
34.広島県	たかい はるみ 高井 晴美	(公財)ひろしま文化振興財団	開館年
	No. 8 〒 730-0051 広島県広島市中区大手町1-5-3 広島県民文化センター内 TEL 082-249-8385 / FAX 082-249-7531		自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満

## 2.自主事業Ⅰ(音楽)コース

40.福岡県	もりなが なみこ 森永 南海子	春日市教育委員会 文化振興課 事業担当 音楽企画専門員	春日市ふれあい文化センター
			開館年 1995年
No. 9	〒 816-0831 福岡県春日市大谷6-24 TEL 092-584-3366 / FAX 092-501-1669		スプリングホール 600席
			サンホール 250席
			自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
40.福岡県	たいで きょうこ 田出 恭子	(公財)北九州市芸術文化振興財団 音楽事業課	北九州市立響ホール
			開館年 1993年
No. 10	〒 805-0062 福岡県北九州市八幡東区平野1-1-1 TEL 093-663-6567 / FAX 093-662-3028		大ホール 720席
			リハーサル室 173㎡
			研修室 50㎡
			自主事業 c. 11本~20本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
40.福岡県	かわかみ ゆうすけ 河上 裕介	久留米市 市民文化部総合都市プラザ推進室専門スタッフ	(仮称)久留米市総合都市プラザ
			開館年 2015年
No. 11	〒 830-0022 福岡県久留米市城南町15-3 TEL 0942-30-9242 / FAX 0942-30-9714		メインホール(大劇場) 1509席
			サブホール(中劇場) 377席
			リハーサル室(小劇場) 144席
			自主事業 c. 11本~20本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
42.長崎県	やえいし けんすけ 八重石 憲佑	時津町教育振興公社	とぎつカナリーホール
			開館年 2002年
No. 12	〒 851-2104 長崎県西彼杵郡時津町野田郷62 TEL 095-882-0003 / FAX 095-882-0307		とぎつカナリーホール 770席
			自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
42.長崎県	こが さやか 古賀 沙矢香	(公財)佐世保地域文化事業財団 事業課	アルカスSASEBO
			開館年 2001年
No. 13	〒 857-0863 長崎県佐世保市三浦町2-3 TEL 0956-42-1111 / FAX 0956-24-0051		大ホール 2000席
			中ホール 500席
			イベントホール 350席
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上

## 3.自主事業Ⅱ(演劇)コース

07.福島県	はぎはら ひろき 萩原 宏紀	いわき市 企画制作課	いわき芸術文化交流館アリオス
	No. 1	〒 970-8026 福島県いわき市平字三崎1番地の6 TEL 0246-22-8111 / FAX 0246-22-8181	開館年 2008年 大ホール 1705席 中劇場 687席 小劇場 233席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
13.東京都	ふくおか あきこ 福岡 昌子	(財)地域創造 芸術環境部 副参事	
	No. 2	〒 107-0052 東京都港区赤坂2-9-11 オリックス赤坂2丁目ビル9階 TEL 03-5573-4076 / FAX 03-5573-4060	開館年 自主事業 事業予算
13.東京都	やまばな なみ 山埜 菜未	(財)地域創造 芸術環境部 芸術環境専門職員	
	No. 3	〒 107-0052 東京都港区赤坂2-9-11 オリックス赤坂2丁目ビル9階 TEL 03-5573-4093 / FAX 03-5573-4060	開館年 自主事業 事業予算
14.神奈川県	なかむら ともこ 中村 智子	(公財)相模原市民文化財団 企画班・主事	相模女子大学グリーンホール
	No. 4	〒 252-0303 神奈川県相模原市南区相模大野4-4-1 TEL 042-749-2205 / FAX 042-749-2772	開館年 1990年 相模女子大学グリーンホール・大ホール 1790席 多目的ホール 240席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
17.石川県	しゃくど ちかこ 尺戸 智佳子	(公財)金沢芸術創造財団 事業課 主任	金沢歌劇座・金沢市文化ホール・金沢市アートホール
	No. 5	〒 920-0999 石川県金沢市柿木畠1-1 TEL 076-223-9898 / FAX 076-261-5233	開館年 1962年(歌劇座) 金沢歌劇座 2000席 金沢市文化ホール 899席 金沢市アートホール 309席 自主事業 c. 11本～20本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
20.長野県	まつした あやか 松下 綾香	(一財)松本市芸術文化振興財団	まつもと市民芸術館
	No. 6	〒 390-0815 長野県松本市深志3-10-1 TEL 0263-33-3800 / FAX 0263-33-3830	開館年 2004年 主ホール 1800席 小ホール 288席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
20.長野県	さかた やすのり 坂田 靖典	上田市 主事	上田市交流文化芸術センター
	No. 7	〒 386-8601 長野県上田市大手1-11-16 TEL 0268-22-4100 / FAX 0268-23-5241	開館年 2014年 大ホール 最大1650席 小ホール 最大372席 大スタジオ 424㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
27.大阪府	たかぎ みちこ 高木 三智子	(公財)茨木市文化振興財団 事務局 文化事業係	茨木市市民会館、茨木市福祉文化会館、茨木市市民総合センター
	No. 8	〒 567-0888 大阪府茨木市駅前4-7-50 茨木市市民会館1階 TEL 072-625-3055 / FAX 072-625-3036	開館年 1969年(市民開館) 大ホール 997席 文化ホール 345席 センターホール 426席 自主事業 c. 11本～20本 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満

## 3.自主事業Ⅱ(演劇)コース

28.兵庫県	あおき あつこ 青木 厚子	(公財)神戸市民文化振興財団 振興部 振興課	神戸文化ホール・市内区民センター等(7箇所)
			開館年 1973年 神戸文化ホール・大ホール 2043席 神戸文化ホール・中ホール 904席 うはらホール 650席 自主事業 d.21本以上 事業予算 f.1億円以上
No. 9	〒 650-0017 兵庫県神戸市中央区楠町4-2-2 神戸文化ホール内 TEL 078-351-3597 / FAX 078-351-3121		
28.兵庫県	うえだ なおき 上田 直樹	(公財)尼崎市総合文化センター 事業部事業担当課事業担当	尼崎市総合文化センター
			開館年 1975年 あましんアルカイックホール 1820席 あましんアルカイックホール・オクト 650席 アルカイックホール・ミニ 250席 自主事業 d.21本以上 事業予算 f.1億円以上
No. 10	〒 660-0881 兵庫県尼崎市昭和通2-7-16 TEL 06-6487-0910 / FAX 06-6482-3504		
34.広島県	たがん なおみ 田雁 尚美	(公財)廿日市市文化スポーツ振興事業団 事業課事業企画リーダー	はつかいち文化ホールさくらびあ
			開館年 1997年 さくらびあ大ホール 1095席 さくらびあ小ホール 296席 自主事業 d.21本以上 事業予算 c.1,000万円~3,000万円未満
No. 11	〒 738-8509 広島県廿日市市下平良1-11-1 TEL 0829-20-0111 / FAX 0829-32-7160		
37.香川県	かわさき みちか 川崎 倫香	(公財)高松市文化芸術財団 事業グループ	サンポートホール高松〔高松市文化芸術ホール〕
			開館年 2004年 大ホール 1500席 第1小ホール 312席 第2小ホール 308席 自主事業 c.11本~20本 事業予算 d.3,000万円~5,000万円未満
No. 12	〒 760-0019 香川県高松市サンポート2-1 高松シンボルタワー ホール棟2階 TEL 087-825-5010 / FAX 087-825-5040		
39.高知県	たなか きわ 田中 希和	(公財)高知市文化振興事業団 企画事業課・主事	高知市文化プラザかるぼーと
			開館年 2002年 大ホール 1085席 小ホール 200席 自主事業 d.21本以上 事業予算 c.1,000万円~3,000万円未満
No. 13	〒 780-8529 高知県高知市九反田2-1 TEL 088-883-5071 / FAX 088-883-5069		
40.福岡県	とう そういちろう 藤 総一郎	(公財)大野城まどかぴあ 文化芸術振興課 文化芸術振興担当	大野城まどかぴあ
			開館年 1996年 大ホール 783席 小ホール 118席 多目的ホール 300席 自主事業 d.21本以上 事業予算 e.5,000万円~1億円未満
No. 14	〒 816-0934 福岡県大野城市曙町2-3-1 TEL 092-586-4000 / FAX 092-586-4001		
40.福岡県	やすもと ちえ 安元 千恵	(公財)北九州市芸術文化振興財団 舞台事業課	北九州芸術劇場
			開館年 2003年 大ホール 1260席 中劇場 700席 小劇場 120~216席 自主事業 d.21本以上 事業予算 f.1億円以上
No. 15	〒 803-0812 福岡県北九州市小倉北区室町1-1-1 TEL 093-562-2620 / FAX 093-562-2633		
40.福岡県	むらかみ ちひろ 村上 千尋	久留米市 市民文化部総合都市プラザ推進室専門スタッフ	(仮称)久留米市総合都市プラザ
			開館年 2015年予定 メインホール(大劇場) 1509席 サブホール(中劇場) 399席 リハーサル室(小劇場) 144席 自主事業 c.11本~20本 事業予算 d.3,000万円~5,000万円未満
No. 16	〒 830-8520 福岡県久留米市城南町15-3 TEL 0942-30-9242 / FAX 0942-30-9714		

## 3.自主事業Ⅱ(演劇)コース

41.佐賀県	おだ ともか 織田 知佳	かしま市民立楽修大学 事務局職員	鹿島市生涯学習センター・エイブル
			開館年 2001年
			エイブルホール 298席
No. 17	〒 849-1312 佐賀県鹿島市大字納富分2700-1 TEL 0954-63-2138 / FAX 0954-63-3424		自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満





平成25年度ステージラボ・  
アートミュージアムラボ 事業報告書  
～ 公共ホール等企画運営ワークショップ～

編集・発行 一般財団法人地域創造  
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11  
オリックス赤坂2丁目ビル9階  
電話 03-5573-4050  
ファクシミリ 03-5573-4060

平成26年6月発行